

Hitachi Storage Advisor Embedded ガイド

Hitachi Virtual Storage Platform F350, F370, F700, F900

Hitachi Virtual Storage Platform G130, G150, G350, G370, G700, G900

4046-1J-U40-11

Storage Advisor Embedded を使ってストレージシステムを操作する場合は、必ずこのマニュアルを読み、操作手順、および指示事項をよく理解してから操作してください。また、このマニュアルをいつでも利用できるよう、Storage Advisor Embedded を使用するコンピュータの近くに保管してください。

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2018, Hitachi, Ltd.

免責事項

このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製することはできません。

このマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。

このマニュアルに基づいてソフトウェアを操作した結果、たとえ当該ソフトウェアがインストールされているお客様所有のコンピュータに何らかの障害が発生しても、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。このマニュアルの当該ソフトウェアご購入後のサポートサービスに関する詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

商標類

HITACHI は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

発行

2018 年 9 月 (4046-1J-U40-11)

目次

はじめに.....	9
対象ストレージシステム.....	10
マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン.....	10
対象読者.....	10
マニュアルに掲載している画面図.....	10
サポート.....	10
マニュアルで使用する記号について.....	11
変更履歴.....	11
 1.ストレージシステムの運用管理.....	13
1.1 Storage Advisor Embedded の概要.....	14
1.2 Storage Advisor Embedded で管理する構成.....	16
1.3 Storage Advisor Embedded による運用の流れ.....	17
1.4 Storage Advisor Embedded にログインするための管理 PC の要件.....	18
1.5 Storage Advisor Embedded にログインする.....	18
 2.ストレージシステムを運用するための設定.....	21
2.1 ストレージシステムを運用するための設定.....	22
2.2 プログラムプロダクトをインストールする.....	22
2.3 プログラムプロダクトのライセンスを有効または無効にする.....	23
2.4 プログラムプロダクトをアンインストールする.....	23
2.5 アラート通知を設定する.....	23
2.6 ログインメッセージを編集する.....	24
 3.ユーザとアクセス制御の設定.....	25
3.1 Storage Advisor Embedded を使用するユーザのアカウントと権限.....	26
3.2 ユーザアカウントを作成する.....	26
3.3 ユーザアカウントを編集する.....	27
3.4 ユーザアカウントを削除する.....	27
 4.ボリュームを利用するための準備.....	29
4.1 ボリュームを利用するための準備の流れ.....	30

4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる.....	31
4.3 スペアドライブを設定する.....	31
4.4 プールを作成する.....	31
4.5 プールの設定を編集する.....	33
4.6 サーバを登録する.....	34
4.7 サーバとストレージシステムの接続情報を設定する.....	35
4.8 サーバを管理する.....	35
4.8.1 サーバの設定を編集する.....	35
4.8.2 サーバに WWN または iSCSI イニシエータ名を追加する.....	36
4.8.3 サーバから WWN または iSCSI イニシエータ名を削除する.....	36
4.8.4 iSCSI ターゲット名を編集する.....	36
4.8.5 サーバを削除する.....	37
4.9 ストレージシステムのポートの設定を編集する.....	37
5. ボリュームの割り当て.....	39
5.1 ボリューム割り当ての流れ.....	40
5.2 ボリュームを作成してサーバに割り当てる.....	40
5.3 ボリュームを作成する.....	41
5.4 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（サーバの画面から選択する）.....	43
5.5 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（ボリュームの画面から選択する）.....	43
5.6 サーバからの I/O を確認する.....	44
5.7 ボリューム名を編集する.....	44
5.8 ボリュームの容量削減設定を編集する.....	44
5.9 サーバへのボリュームの割り当てを解除する.....	45
5.10 ボリュームを削除する.....	45
6. データバックアップや二次利用.....	47
6.1 スナップショットによるバックアップの流れ.....	48
6.2 スナップクローンによる二次利用の流れ.....	49
6.3 REST API で定期的にスナップショットを作成する.....	50
6.4 手動でスナップショットを作成する.....	50
6.5 スナップショットやスナップクローンの状態を確認する.....	51
6.6 スナップショットをリストアする.....	52
6.7 REST API でスナップショットを作成してマッピングする.....	52
6.8 スナップクローンを実行してボリュームを作成する.....	53
6.9 スナップショットを削除する.....	54
7. ボリュームおよびプールの容量管理.....	55
7.1 ボリュームの容量を拡張する流れ.....	56
7.2 プールの容量を拡張する流れ.....	56
7.3 プールの複数作成の流れ.....	59
7.4 ボリュームの容量を拡張する.....	60
7.5 プールの容量を確認する.....	60
7.6 プールを構成しているドライブを確認する.....	60

7.7 プールの容量を拡張する.....	61
7.8 ボリュームの容量を確認する.....	61
7.9 プールを削除する.....	62
7.10 データの削減効果を確認する.....	62
8.global-active device を利用するための環境構築.....	63
8.1 global-active device を利用するための環境構築の流れ.....	64
8.2 リモートパスを設定する.....	65
8.3 Quorum ディスクを設定する.....	65
8.4 リモートパスを追加する.....	66
8.5 リモートパスを削除する.....	67
8.6 リモートパスグループを削除する.....	67
8.7 Quorum ディスクの外部ボリューム名を編集する.....	67
8.8 Quorum ディスクへの外部パスを追加する.....	68
8.9 Quorum ディスクへの外部パスを削除する.....	68
8.10 Quorum ディスクの設定を解除する.....	68
9.ボリュームの稼働状況の確認.....	71
9.1 ボリュームの稼働状況の確認.....	72
9.2 ボリュームの稼働状況を性能グラフで確認する.....	72
10.ストレージシステムの障害監視.....	73
10.1 ストレージシステムの障害監視.....	74
10.2 ヘルスステータスを確認する.....	74
10.3 maintenance utility でストレージシステムのアラートを確認する.....	74
11.REST API の概要.....	75
11.1 REST API のシステム構成.....	77
11.2 SSL 通信を利用する場合の要件.....	77
11.3 API の実行ユーザのロールとアクセス権限.....	78
11.4 管理対象のリソースの指定（URL）.....	78
11.5 オブジェクト ID の指定方法.....	84
11.6 サポートする HTTP メソッド.....	84
11.7 ユーザ認証.....	85
11.8 リクエストヘッダ.....	86
11.9 レスポンスヘッダ.....	87
11.10 HTTP ステータスコード.....	87
11.11 リクエストおよびレスポンスのフォーマット.....	89
11.12 クエリパラメータ.....	89
11.13 データ型.....	89
11.14 出力形式.....	90
11.15 データオブジェクト.....	91
11.16 commandStatus オブジェクト.....	92

11.17 エラーオブジェクト.....	94
12.REST API で共通の操作.....	97
12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する.....	98
12.2 非同期処理の API のステータス情報を削除する.....	101
13.ストレージシステム全体の操作（REST API）.....	103
13.1 ストレージシステムの情報を取得する.....	104
13.2 スナップショットとプールの稼働状態の情報を取得する.....	106
14.管理リソースの準備とボリューム割り当ての操作（REST API）.....	109
14.1 ドライブの管理.....	110
14.1.1 ドライブの情報を取得する.....	110
14.1.2 特定のドライブの情報を取得する.....	113
14.1.3 ドライブをスペアドライブに設定する.....	114
14.1.4 スペアドライブの設定を解除する.....	115
14.2 プールの管理.....	117
14.2.1 プールの情報を取得する.....	117
14.2.2 特定のプールの情報を取得する.....	120
14.2.3 プールを作成する.....	123
14.2.4 プールの変更する.....	125
14.2.5 プールを削除する.....	126
14.2.6 プールにドライブを追加する.....	127
14.3 ポートの管理.....	129
14.3.1 ポートの情報を取得する.....	129
14.3.2 特定のポートの情報を取得する.....	134
14.3.3 ポートの変更する.....	136
14.4 サーバの管理.....	140
14.4.1 サーバの情報を取得する.....	140
14.4.2 特定のサーバの情報を取得する.....	143
14.4.3 サーバを登録する.....	146
14.4.4 サーバの変更する.....	148
14.4.5 サーバを削除する.....	150
14.4.6 サーバにホストグループ（iSCSI ターゲット）を追加する.....	151
14.4.7 HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報を取得する.....	153
14.4.8 特定のサーバの HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報を取得する.....	155
14.4.9 HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報を追加する.....	157
14.4.10 サーバから HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報を削除する.....	159
14.4.11 サーバのパス情報の一覧を取得する.....	160
14.4.12 サーバと特定のポート間のパス情報を取得する.....	162
14.4.13 サーバにパス情報を追加する.....	164
14.4.14 サーバからパス情報を削除する.....	166
14.4.15 iSCSI ターゲットの情報を取得する.....	167
14.4.16 特定の iSCSI ターゲットの情報を取得する.....	168
14.4.17 iSCSI ターゲットの変更する.....	169
14.5 ボリュームの管理.....	171
14.5.1 ボリュームの情報を取得する.....	171
14.5.2 特定のボリュームの情報を取得する.....	174
14.5.3 ボリュームを作成する.....	176

14.5.4 ボリュームの設定を変更する.....	178
14.5.5 ボリュームの容量を拡張する.....	180
14.5.6 ボリュームを削除する.....	181
14.5.7 ボリュームとサーバの接続情報を取得する.....	183
14.5.8 ボリュームと特定のサーバの接続情報を取得する.....	185
14.5.9 ボリュームとサーバを接続する.....	186
14.5.10 ボリュームと特定のサーバの接続を解除する.....	187
15.スナップショットの操作 (REST API)	189
15.1 スナップショットグループ名の一覧を取得する.....	190
15.2 特定のスナップショットグループの情報を取得する.....	191
15.3 スナップショットの情報を取得する.....	193
15.4 特定のスナップショットの情報を取得する.....	195
15.5 スナップショットを作成する.....	196
15.6 スナップショットをマッピングする.....	199
15.7 スナップショットをリストアする.....	201
15.8 スナップショットグループを削除する.....	202
15.9 スナップショットを削除する.....	203
16.global-active device を利用するための環境構築 (REST API)	205
16.1 外部ボリュームの情報を取得する.....	206
16.2 特定の外部ボリュームの情報を取得する.....	209
16.3 外部ボリュームを作成する.....	211
16.4 外部ボリュームのニックネームを変更する.....	212
16.5 外部パリティグループの情報を取得する.....	214
16.6 特定の外部パリティグループの情報を取得する.....	216
16.7 外部パスグループの情報を取得する.....	217
16.8 特定の外部パスグループの情報を取得する.....	219
16.9 特定の Quorum ディスクの情報を取得する.....	220
16.10 Quorum ディスクの情報を登録する.....	222
16.11 Quorum ディスクの情報を削除する.....	223
付録 A このマニュアルで使用している略語.....	225
索引.....	227



はじめに

このマニュアルは、GUI でストレージシステムの管理や運用をする Storage Advisor Embedded の使い方について説明したものです。

Storage Advisor Embedded は、シンプルなナビゲーションと高速なレスポンスで、ストレージシステムの管理や運用を支援する管理ソフトウェアです。

GUI の機能に対応する REST API のリファレンス情報もこのマニュアルに含まれています。REST API は、ストレージシステムの情報取得や構成変更を行うための、REST (Representational State Transfer) の原則に従った Web API を提供します。

- [対象ストレージシステム](#)
- [マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン](#)
- [対象読者](#)
- [マニュアルに掲載している画面図](#)
- [サポート](#)
- [マニュアルで使用する記号について](#)
- [変更履歴](#)

対象ストレージシステム

このマニュアルでは、次に示すストレージシステムに対応する製品（プログラムプロダクト）を対象として記述しています。

- Virtual Storage Platform F350
- Virtual Storage Platform F370
- Virtual Storage Platform F700
- Virtual Storage Platform F900
- Virtual Storage Platform G130
- Virtual Storage Platform G150
- Virtual Storage Platform G350
- Virtual Storage Platform G370
- Virtual Storage Platform G700
- Virtual Storage Platform G900

このマニュアルでは、これらのストレージシステムを単に「ストレージシステム」と称することがあります。

マニュアルの参照と適合ファームウェアバージョン

マニュアルを参照されるときは、ご使用の「DKCMAIN」プログラムと同じ梱包内のマニュアル用のメディアに添付されているマニュアルを使用してください。このマニュアルは、DKCMAIN プログラムのバージョン「88-02-0X-XX/XX」以降（XX は規定外）に適合しています。

対象読者

このマニュアルは、次の方を対象読者として記述しています。

- ストレージシステムの運用に関する知識がある方
- REST API を利用したプログラムを作成するスキルがある方

マニュアルに掲載している画面図

このマニュアルに掲載されている画面図の色は、ご利用のディスプレイ上に表示される画面の色と異なる場合があります。

このマニュアルでは、Windows のコンピュータ上での画面を掲載しています。

サポート

Storage Advisor Embedded の導入時および運用時のお問い合わせ先は、次のとおりです。

- 保守契約をされているお客様は、以下の連絡先にお問い合わせください。
日立サポートサービス：<http://www.hitachi-support.com/>
- 保守契約をされていないお客様は、担当営業窓口にお問い合わせください。

マニュアルで使用する記号について

このマニュアルでは、製品を安全にご使用いただくための注意書きを、次のとおり記載しています。



注意 データの消失・破壊のおそれや、データの整合性がなくなるおそれがある場合などの注意を示します。



メモ 解説、補足説明、付加情報などを示します。



ヒント より効率的にストレージシステムを利用するのに役立つ情報を示します。

変更履歴

マニュアル資料番号	発行年月	変更内容
4046-1J-U40	2018 年 2 月	新規（適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン：「88-01-0X-XX/XX」以降）
4046-1J-U40-10	2018 年 5 月	4046-1J-U40 を改訂（適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン：「88-02-0X-XX/XX」以降）
4046-1J-U40-11	2018 年 9 月	管理 PC の要件とログイン時の前提操作に注意事項を追加した。 4046-1J-U40-10 を改訂（適合 DKCMAIN ファームウェアバージョン：「88-02-0X-XX/XX」以降）

ストレージシステムの運用管理

この章では、Storage Advisor Embedded の概要と、Storage Advisor Embedded で実施するストレージシステムの運用管理について説明します。

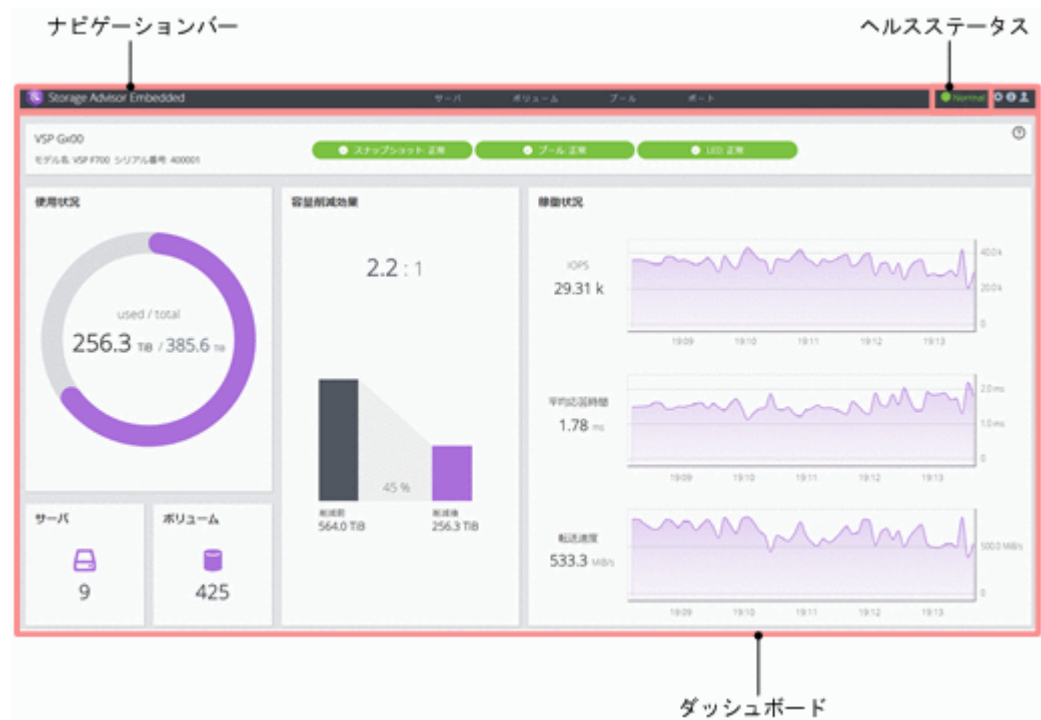
- 1.1 Storage Advisor Embedded の概要
- 1.2 Storage Advisor Embedded で管理する構成
- 1.3 Storage Advisor Embedded による運用の流れ
- 1.4 Storage Advisor Embedded にログインするための管理 PC の要件
- 1.5 Storage Advisor Embedded にログインする

1.1 Storage Advisor Embedded の概要

Storage Advisor Embedded は、シンプルなナビゲーションと高速なレスポンスで、ストレージシステムの管理や運用を支援する管理ソフトウェアです。

Storage Advisor Embedded を使用すると、ストレージシステムをサーバで利用するための環境をすぐに構築できます。環境構築後も、ストレージシステムの複雑な構成を意識することなく簡単な GUI 操作で容量拡張などができ、日々の運用コストを軽減できます。

Storage Advisor Embedded の GUI は次の要素で構成されています。



ナビゲーションバー

Storage Advisor Embedded でストレージシステムの管理や運用をするには、ナビゲーションバーに表示されるリソースを選択して操作します。

ヘルスステータス

次の事象を検知すると「Error」や「Warning」などの状態が表示されます。

- プールの使用率がしきい値を超えた場合
- バックアップやリストアの操作がエラーになった場合
- SIM (ストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検知した時に生成されるメッセージ) が通知された場合

ダッシュボード

ログインすると最初に表示されます。ダッシュボードには次の項目が表示され、ストレージシステム全体の容量や稼働状況を確認できます。

- ストレージシステムの情報

ストレージシステム名、モデル名およびシリアル番号が表示されます。リソースの状態もこのエリアに表示され、クリックするとヘルスステータスのメッセージが確認できます。

- 使用状況
ストレージシステムの容量と使用容量が表示されます。
- サーバ
登録済みのサーバ数が表示されます。サーバに関する操作はアイコンをクリックして実施します。
- ボリューム
作成済みのボリューム数が表示されます。ボリュームに関する操作はアイコンをクリックして実施します。
- 容量削減効果
ストレージシステムの容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって、どれだけ格納データ容量を削減できているかが表示されます。削減後の容量には、ユーザデータのほかにストレージシステムが生成するメタデータやガベージデータも含まれるため、一時的に削減後の方が容量が多く表示されることがあります。
- 稼働状況
IOPS、応答時間（サーバからの要求の応答にかかる時間）、データ転送速度の状態が表示されます。定期的に確認することで、通常の数値と大きな差がある場合に早期に気づけます。特に、応答時間に大きな増加がある場合は、ストレージシステムに問題が発生しているおそれがあります。

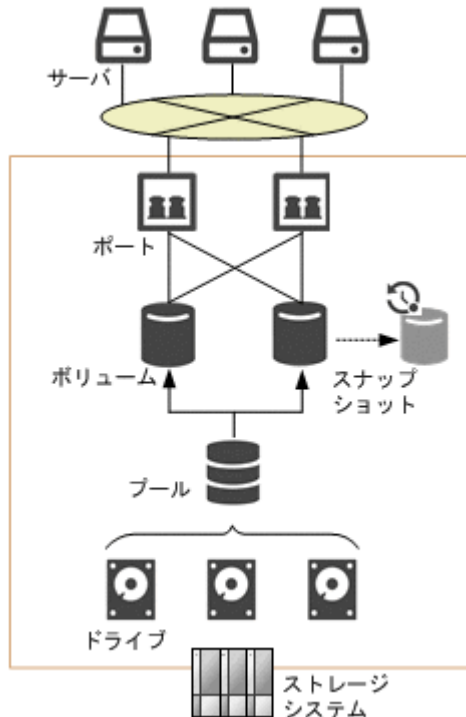


メモ

ストレージシステムから性能情報が取得できなかった場合は、グラフが連続して表示されません。

1.2 Storage Advisor Embedded で管理する構成

Storage Advisor Embedded でストレージシステムの管理や運用をするとき、操作できるリソースの構成について次の図で説明します。



ドライブ

記憶媒体とそれを読み書きする装置で構成されるハードウェアです。設定によって、データの読み書きが行われるデータドライブや、データドライブに障害が発生しても運用を継続できるようにデータをコピーするスペアドライブとして使用できます。ドライブの容量は物理容量として KB（キロバイト）、MB（メガバイト）、GB（ギガバイト）、TB（テラバイト）の単位で表示されます。

プール

プールは複数のドライブと関連付けられたストレージシステムの仮想的な領域です。プールから仮想的なボリュームを作成してサーバに割り当て、データの書き込みに応じて実領域を使用することで、ストレージリソースを有効に活用できます。

ボリューム

サーバに割り当てる仮想的な記憶領域です。

スナップショット

特定の時点のボリュームのイメージです。スナップショットを作成したタイミングで、元のボリュームとの差分データがプールに格納されます。スナップショットを利用して、バックアップを作成したり、クローンを実行してほかのサーバから二次利用できるボリュームを作成することもできます。

ポート

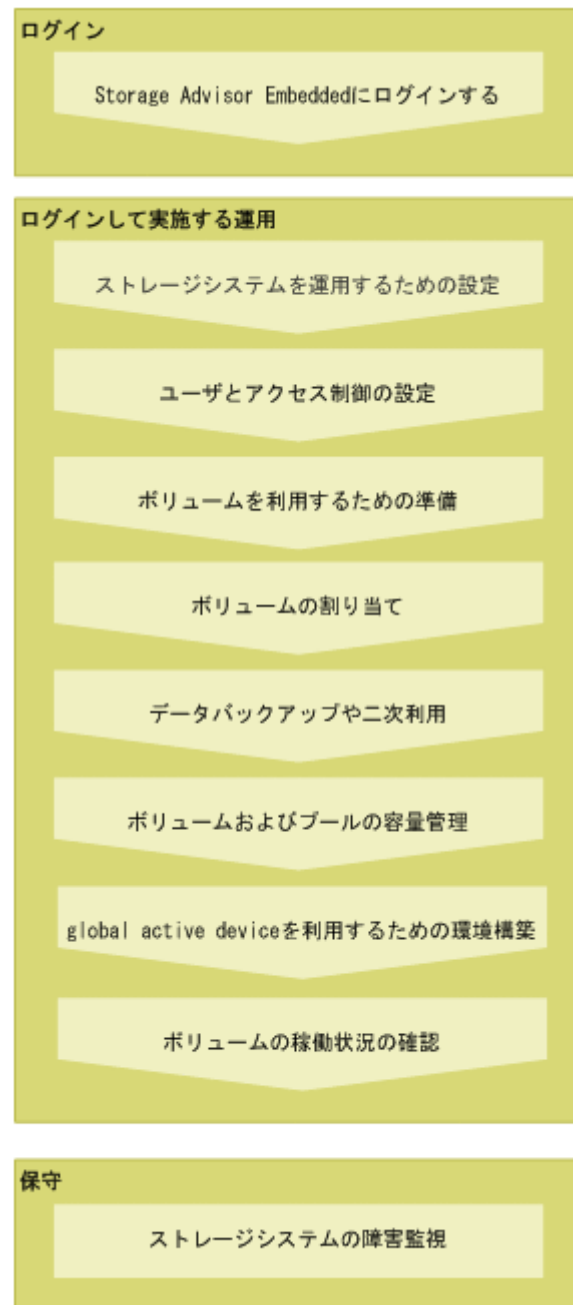
ストレージシステムとサーバを接続するためのインターフェースです。

サーバ

ストレージシステムを利用する業務サーバを管理する単位です。クラスタ構成の場合、クラスタを構成するすべてのサーバ（ノード）をまとめて、ひとつのサーバとして管理します。

1.3 Storage Advisor Embedded による運用の流れ

Storage Advisor Embedded では、ボリュームやプールなどのストレージリソースの管理やデータバックアップなど、ストレージシステムを運用するための基本的な操作を実施できます。使いやすく柔軟性の高い GUI で直感的に操作できます。REST API を使用して、業務アプリケーションなどに組み込んで実行したり、スクリプトで自動実行したりすることもできます。



1.4 Storage Advisor Embedded にログインするための管理 PC の要件

Storage Advisor Embedded にログインする際に必要な管理 PC の要件を説明します。

OS およびアーキテクチャ	ブラウザおよびバージョン
Windows Server 2016 (64 ビット)	Google Chrome (v63 以降) ※ ¹ Internet Explorer 11※ ²
Windows 10 (32 ビットまたは 64 ビット)	
Windows 8.1 (32 ビットまたは 64 ビット)	
Red Hat Enterprise Linux 7.4 (64 ビット)	Google Chrome (v63 以降) ※ ¹

注※1

日本語および英語（米国）による表示をサポートしています。ブラウザのロケール（言語）を設定して使用してください。画面が正しく表示されない場合は、ブラウザのバージョンを最新にしてください。

注※2

日本語および英語（米国）による表示をサポートしています。OS のロケール（言語）を設定して使用してください。

1.5 Storage Advisor Embedded にログインする

Storage Advisor Embedded にログインします。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- 利用ブラウザが Google Chrome の場合
 - ポップアップブロックが無効であること。
- 利用ブラウザが Internet Explorer の場合
 - ポップアップブロックが無効であること。
 - 互換表示が OFF であること。
 - フォントのダウンロードが有効であること。
- プロトコル
非 SSL 通信の場合は http、SSL 通信の場合は https です。
- ストレージシステムの IP アドレス
maintenance utility で設定した CTL1 または CTL2 の IP アドレスです。

操作手順

1. Web ブラウザを起動し、次の URL を指定します。

<プロトコル>://<ストレージシステムの IP アドレス>/



メモ

Web ブラウザを何度起動しても起動に失敗する場合は、現在起動している Web ブラウザの画面をすべて閉じてから、Web ブラウザのキャッシュをクリアしてください。
Web ブラウザのキャッシュをクリアしても起動に失敗する場合は、次の URL を指定して maintenance utility を起動して、アラートを確認してください。

<プロトコル>://<ストレージシステムの IP アドレス>/MaintenanceUtility/

アラートを確認するには、Maintenance のユーザグループ（ビルトイングループ）に登録されているユーザで maintenance utility にログインしてください。

2. ユーザ名 およびパスワードを入力し、ログインします。



メモ

- 最初にログインするときは、次のユーザアカウントを使用してください。
ユーザ名 : maintenance
パスワード : raid-maintenance
 - ログインに 3 回続けて失敗すると、アカウントが 60 秒間ロックされます。
-

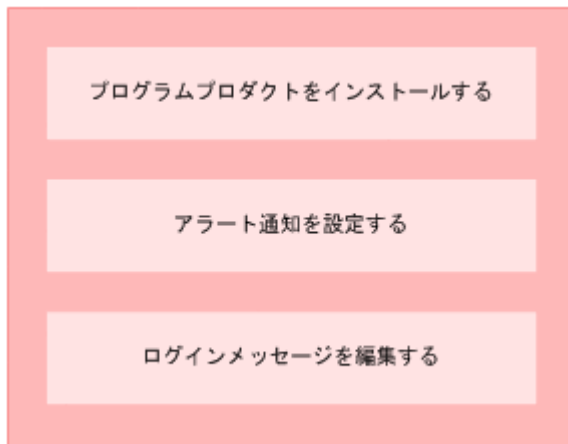
ストレージシステムを運用するための設定

ストレージシステムの機能を利用するために、プログラムプロダクトをインストールする手順を説明します。また、障害発生時にメールサーバなどと連携してアラート通知するための設定手順、ログイン画面に表示されるメッセージの編集手順を説明します。

- 2.1 ストレージシステムを運用するための設定
- 2.2 プログラムプロダクトをインストールする
- 2.3 プログラムプロダクトのライセンスを有効または無効にする
- 2.4 プログラムプロダクトをアンインストールする
- 2.5 アラート通知を設定する
- 2.6 ログインメッセージを編集する

2.1 ストレージシステムを運用するための設定

ストレージシステムの機能を利用するためにプログラムプロダクトのライセンスキーを登録します。また、障害発生時のアラート通知の設定、ログイン画面に表示されるメッセージの編集をします。



関連タスク

- [2.2 プログラムプロダクトをインストールする](#)
- [2.5 アラート通知を設定する](#)
- [2.6 ログインメッセージを編集する](#)

2.2 プログラムプロダクトをインストールする

ストレージシステムの機能を利用するために、プログラムプロダクトの購入時に提供されるライセンスキーを登録して、プログラムプロダクトをインストールします。

前提条件

インストールするプログラムプロダクトのライセンスキーコードまたはライセンスキーファイルを準備しておくこと

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ライセンス管理] を選択します。
2. maintenance utility の [インストール] をクリックします。
3. ライセンスキーコードまたはライセンスキーファイルを指定して、ライセンスキーを登録します。



ヒント

設定項目の詳細については、maintenance utility のヘルプを参照してください。

4. ライセンスキーの一覧で、プログラムプロダクトのステータスが [Installed] に変更されていることを確認します。
5. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

2.3 プログラムプロダクトのライセンスを有効または無効にする

有効期間のあるプログラムプロダクトのライセンスキー（Term キー）を有効または無効に変更します。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ライセンス管理] を選択します。
2. maintenance utility で対象のプログラムプロダクトを選択し、有効にしたいときは [有効化]、無効にしたいときは [無効化] をクリックします。



ヒント

設定項目の詳細については、maintenance utility のヘルプを参照してください。

3. ライセンスキーの一覧で、プログラムプロダクトのステータスが [Installed (Enabled)] または [Installed (Disabled)] に変更されていることを確認します。
4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

2.4 プログラムプロダクトをアンインストールする

使用しなくなったプログラムプロダクトをアンインストールします。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ライセンス管理] を選択します。
2. maintenance utility で、アンインストールするプログラムプロダクトを選択し [アンインストール] をクリックします。
3. ライセンスキーの一覧で、プログラムプロダクトのステータスが [Not Installed] に変更されていることを確認します。
4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

2.5 アラート通知を設定する

メール、Syslog 出力、または SNMP トラップで、管理者に SIM を通知する設定をします。

SIM はストレージシステムのコントローラがエラーやサービス要求を検出したときに生成されるメッセージです。

前提条件

- アラート通知する対象の SIM を確認しておくこと。
- メール通知の場合
 - SMTP メールサーバの 25 番ポートが解放されていること。
 - メールサーバの情報、送信先や送信元のメールアドレスを確認しておくこと。
- Syslog 出力の場合
 - Syslog サーバへの転送で使用するポートが解放されていること。
 - Syslog サーバの情報、Syslog サーバとの通信設定を確認しておくこと。

- SNMP 通知の場合
 - 通知先の SNMP マネージャが設定済みであること。
 - SNMP トラップ送信、リクエスト許可のための情報を確認しておくこと。



ヒント

設定項目の詳細については、maintenance utility のヘルプを参照してください。



メモ

アラート通知する対象の SIM については、マニュアル『SIM リファレンス』を参照してください。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [アラート通知設定] を選択します。
2. maintenance utility の [設定] をクリックします。
3. 設定したい通知方法のタブから必要な項目を指定して、[適用] をクリックします。
通知方法は、複数指定することができます。



メモ

SNMP トラップの構成やサポートしている MIB の仕様については、マニュアル『SNMP Agent ユーザガイド』を参照してください。

4. 設定した通知方法によるテスト通知を実施し、正しく設定されていることを確認します。
5. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

2.6 ログインメッセージを編集する

Storage Advisor Embedded のログイン画面に表示されるメッセージを編集します。このメッセージは maintenance utility のログイン画面に表示されるメッセージと共通です。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [Maintenance Utility] を選択し、maintenance utility を起動します。
2. maintenance utility の [メニュー] にある [システム管理] - [ログインメッセージ編集] をクリックします。
3. ログインメッセージを編集します。
4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

ユーザとアクセス制御の設定

この章では、Storage Advisor Embedded のユーザのアカウントを設定する手順を説明します。

- 3.1 Storage Advisor Embedded を使用するユーザのアカウントと権限
- 3.2 ユーザアカウントを作成する
- 3.3 ユーザアカウントを編集する
- 3.4 ユーザアカウントを削除する

3.1 Storage Advisor Embedded を使用するユーザのアカウントと権限

Storage Advisor Embedded にログインしてストレージシステムを操作するユーザのアカウントを設定します。

ユーザの操作権限は、ユーザグループに割り当てられているロールに基づいて設定されます。

Storage Advisor Embedded でストレージシステムを操作するためには、ユーザを Administrator のユーザグループ（ビルトイングループ）および Maintenance のユーザグループ（ビルトイングループ）に登録する必要があります。



メモ

ほかの管理ツールで作成したユーザアカウントでも、次のロールをすべて割り当てたユーザグループに登録されていると Storage Advisor Embedded を操作できます。

- ストレージ管理者（初期設定）
- ストレージ管理者（プロビジョニング）
- ストレージ管理者（ローカルコピー）
- 保守（ユーザ）



ヒント

Storage Advisor Embedded にログインするユーザアカウントを外部認証サーバで一元管理したい場合は、maintenance utility で設定できます。詳細はマニュアル『システム管理者ガイド』を参照してください。

3.2 ユーザアカウントを作成する

Storage Advisor Embedded にログインしてストレージシステムを操作するユーザのアカウントを作成します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ユーザ名
- パスワード

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ユーザ管理] を選択します。
2. maintenance utility の [ユーザ作成] をクリックします。
3. 必要な項目を指定してユーザアカウントを作成します。

ユーザグループには [Administrator User Group] および [Maintenance User Group] を選択してください。



メモ

ユーザグループに設定されているロールを確認するには、ユーザグループ名をクリックして [ロール] タブを選択します。



ヒント

設定項目の詳細については、maintenance utility のヘルプを参照してください。

4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。
5. 新たに作成したユーザアカウントで Storage Advisor Embedded にログインします。

3.3 ユーザアカウントを編集する

ユーザアカウントのユーザグループやパスワードを変更します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ユーザグループ名
- ユーザ名
- パスワード

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ユーザ管理] を選択します。
2. maintenance utility のユーザグループ名をクリックします。
3. 編集するユーザを選択して [編集] をクリックします。
4. 必要な項目を指定してユーザアカウントを設定します。



メモ

ユーザグループに設定されているロールを確認するには、ユーザグループ名をクリックして [ロール] タブを選択します。



ヒント

設定項目の詳細については、maintenance utility のヘルプを参照してください。

5. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。
6. 編集したユーザアカウントで Storage Advisor Embedded にログインできることを確認します。

3.4 ユーザアカウントを削除する

ユーザアカウントを削除します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ユーザグループ名
- ユーザ名

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ユーザ管理] を選択します。

2. maintenance utility のユーザグループ名をクリックします。
3. 削除するユーザを選択して [削除] をクリックします。
4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

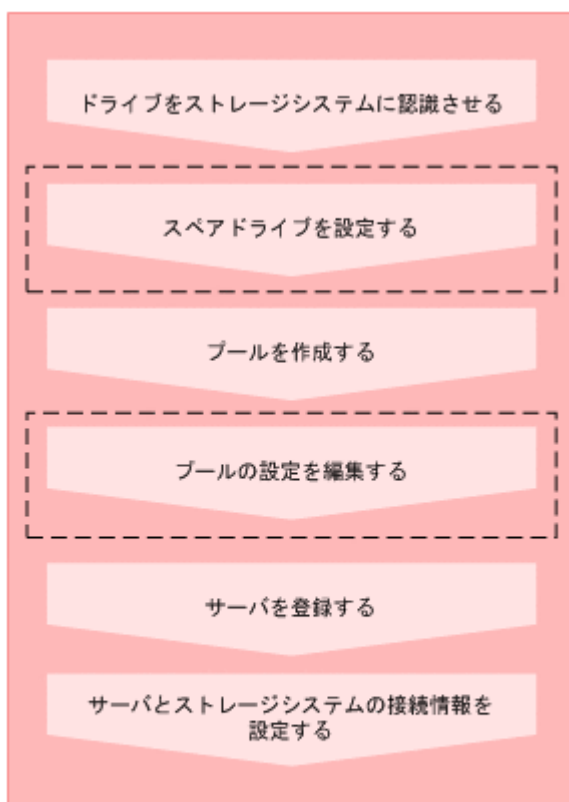
ボリュームを利用するための準備

この章では、ストレージリソースを確保して、それぞれに必要な設定をする操作について説明します。

- 4.1 ボリュームを利用するための準備の流れ
- 4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる
- 4.3 スペアドライブを設定する
- 4.4 プールを作成する
- 4.5 プールの設定を編集する
- 4.6 サーバを登録する
- 4.7 サーバとストレージシステムの接続情報を設定する
- 4.8 サーバを管理する
- 4.9 ストレージシステムのポートの設定を編集する

4.1 ボリュームを利用するための準備の流れ

ストレージシステムの容量をボリュームとして利用するための準備をします。また、ボリュームを割り当てるために、Storage Advisor Embedded で管理するサーバを登録したり、ストレージシステムのポートとの接続情報を設定したりします。



(凡例)

[] : 必要に応じて実施する操作



メモ

サーバの登録後に WWN または iSCSI イニシエータ名を追加したり、削除したりすることもできます。

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- ドライブをスペアドライブに設定する
- プールを作成する
- プールの設定を変更する
- サーバを登録する
- サーバにパスの情報を追加する
- ボリュームを作成する
- iSCSI ターゲットの設定を変更する
- HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を追加する
- サーバから HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を削除する

関連タスク

- [4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる](#)
- [4.3 スペアドライブを設定する](#)
- [4.4 プールを作成する](#)
- [4.6 サーバを登録する](#)
- [4.7 サーバとストレージシステムの接続情報を設定する](#)

4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる

スロットに挿入したドライブをストレージシステムに認識させて、使用できるようにします。

ドライブは記憶媒体とそれを読み書きする装置で構成されるハードウェアです。設定によって、データの読み書きが行われるデータドライブや、データドライブに障害が発生しても運用を継続できるようデータをコピーするスペアドライブとして使用できます。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [ドライブ設定] を選択します。
2. maintenance utility の [増設] をクリックして追加したドライブを検出します。
3. さらに [増設] をクリックして、ドライブを認識させます。
4. ドライブの一覧に、新たに認識されたドライブが追加されたことを確認します。
5. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

4.3 スペアドライブを設定する

ドライブに障害が発生しても、データをほかのドライブにコピーして障害発生前と同様に運用できるよう、スペアドライブを設定します。

スペアドライブは、データの読み書きが行われるドライブ（データドライブ）に指定していない空きドライブから選択して設定します。

前提条件

ドライブがストレージシステムに認識されていること。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [スペアドライブ設定] を選択します。
2. スペアドライブに設定したいドライブの [スペアドライブ数] に必要な数を指定して [実行] をクリックします。

4.4 プールを作成する

ドライブを指定してプールを作成します。

プールは複数のドライブと関連付けられたストレージシステムの仮想的な領域です。プールから仮想的なボリュームを作成してサーバに割り当て、データの書き込みに応じて実領域を使用することで、ストレージリソースを有効に活用できます。

Storage Advisor Embedded でプールを作成すると、ストレージシステムがサポートしている構成のうち、容量効率がいちばんよくなるようにドライブを組み合わせた構成が推奨構成として表示されます。

Dynamic Tiering のライセンスが有効なストレージシステムの場合、ドライブタイプや回転数が異なるドライブを同時に指定すると、性能順に階層構造を持ったプールが作成できます。階層構造のプールではアクセス頻度などに応じて、自動的にデータが最適な階層に格納されます。



注意

プールにスナップショットの差分データを格納する場合、プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成したスナップショットがすべて使用できなくなるおそれがあります。枯渇しきい値を編集したい場合は、プールの作成後にプールの設定を編集してください。

前提条件

- ドライブがストレージシステムに認識されていること。
- プール名を確認しておくこと。
構成を指定してプールを作成する場合、さらに次の情報も確認してください。
 - ドライブ情報（ドライブタイプ、回転数、容量）
 - RAID レベル
 - 使用するドライブ数

操作手順

1. ナビゲーションバーの [プール] をクリックします。
2. [+] をクリックします。
3. [プール名] を有効な値で指定します。推奨された構成に問題がなければ、[実行] をクリックしてプールを作成します。
異なる RAID 構成を指定したい場合は、RAID レベルを選択してドライブの数を変更します。次に [チェック] をクリックして、実行可能な組み合わせを確認してから [実行] をクリックします。

プール作成

容量(見込み) **859.38 TiB**

使用ドライブ数 **520 個**

残りドライブ数 **12 個**

⚠ Dynamic Tieringのライセンスが有効なストレージシステムの場合、ドライブ情報が異なるドライブを同時に選択すると、階層構造のプールが作成されます。階層構造のプールにはスナップショットを作成できません。

プール名
Gold

構成

ドライブ構成	RAIDレベル	使用ドライブ数	使用可能ドライブ数
FMD DC2 / 1.60 TB	RAID6 ▼	120	120
FMD / 1.60 TB	RAID6 ▼	8	10
SSD / 400.00 GB	RAID6 ▼	8	10
SSD (SLC) / 400.00 GB	RAID6 ▼	8	10
SAS 15000 rpm / 300.00 GB	RAID6 ▼	80	80
SAS 10000 rpm / 1.20 TB	RAID6 ▼	80	80
SAS 10000 rpm / 600.00 GB	RAID6 ▼	88	90

キャンセル 実行

関連タスク

- 4.5 プールの設定を編集する

4.5 プールの設定を編集する

プール名やプールの使用率に対するしきい値の設定を編集します。



注意

プールにスナップショットの差分データを格納している場合、プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成したスナップショットがすべて使用できなくなるおそれがあります。必要に応じて枯渇しきい値を編集してください。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- プール名
- プールの使用率に対するしきい値

操作手順

- ナビゲーションバーの「プール」をクリックします。
- 設定を編集するプールの  をクリックします。
- 設定内容を確認して編集します。
- プール名をクリックして詳細画面を表示し、正しく設定されていることを確認します。

4.6 サーバを登録する

ストレージリソースを割り当てたいサーバを Storage Advisor Embedded に登録します。クラスタ構成の場合、クラスタを構成するすべてのサーバ（ノード）をまとめて、ひとつのサーバとして登録します。その場合、ストレージシステムのポートとの接続に使用する WWN または iSCSI イニシエータ名は、それぞれのサーバの WWN または iSCSI イニシエータ名をすべて追加してください。

前提条件

- サーバとストレージシステムが FC（ファイバーチャネル）または iSCSI で接続されていること。
- FC 接続の場合は、次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - OS タイプ
 - WWN
- iSCSI 接続の場合は、次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - OS タイプ
 - iSCSI イニシエータ名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. [+] をクリックします。
3. [サーバ名] を有効な文字で入力します。また、ストレージシステムのポートとの接続に使用する WWN または iSCSI イニシエータ名を入力します。複数指定したい場合は [+WWN を追加] または [+iSCSI イニシエータ名を追加] で行を追加して入力します。そのほか、必要な項目を指定してサーバを登録します。

続けてほかのサーバを登録したい場合は、[+さらにサーバを登録] をクリックします。

サーバ登録

サーバ名
AppServer1

OSタイプ
Linux

プロトコル
FC iSCSI

WWN (例: 0000000100000001)
0000000100000001
+ WWNを追加

キャンセル + さらにサーバを登録 実行

4.7 サーバとストレージシステムの接続情報を設定する

サーバのポートおよびストレージシステムのポートの接続情報を設定します。

前提条件

- Storage Advisor Embedded にサーバが登録されていること。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - WWN または iSCSI イニシエータ名
 - ストレージシステムのポート ID

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. 設定するサーバの  をクリックします。
複数のサーバを選択して、同時に設定することもできます。
3. サーバの WWN または iSCSI イニシエータ名と、ストレージシステムのポート ID をクリックしてパスを設定します。



メモ

ボリュームを割り当て済みのサーバに対してパスを設定したあとで、サーバの詳細画面に一時的に次の警告メッセージが表示されることがあります。しばらく待ってもメッセージが消えない場合は、画面を更新してください。

ボリュームの割り当てに必要なポート接続情報が一部設定されていません。ポート接続を設定してください。

4.8 サーバを管理する

サーバの設定を編集したり、サーバを削除したりする操作について説明します。

4.8.1 サーバの設定を編集する

Storage Advisor Embedded に登録されているサーバの設定（サーバ名や OS タイプなど）を編集します。

前提条件

- FC 接続の場合は、次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - OS タイプ
 - WWN
- iSCSI 接続の場合は、次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - OS タイプ
 - iSCSI イニシエータ名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. 設定を編集するサーバの  をクリックします。
3. 設定内容を確認して編集します。
4. サーバ名をクリックして詳細画面を表示し、正しく設定されていることを確認します。

4.8.2 サーバに WWN または iSCSI イニシエータ名を追加する

HBA を追加したり、サーバを追加してクラスタ構成にしたりする場合に、WWN または iSCSI イニシエータ名を追加します。クラスタ構成の場合、クラスタを構成するすべてのサーバ（ノード）をまとめて、ひとつのサーバとして登録する必要があります。その場合、ストレージシステムのポートとの接続に使用する WWN または iSCSI イニシエータ名は、それぞれのサーバの WWN または iSCSI イニシエータ名をすべて追加してください。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- 追加する WWN または iSCSI イニシエータ名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. WWN または iSCSI イニシエータ名を追加するサーバの  をクリックします。
3. WWN または iSCSI イニシエータ名を追加します。
4. サーバ名をクリックして詳細画面を表示し、WWN または iSCSI イニシエータ名が追加されていることを確認します。

4.8.3 サーバから WWN または iSCSI イニシエータ名を削除する

WWN または iSCSI イニシエータ名を削除します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- 削除する WWN または iSCSI イニシエータ名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. WWN または iSCSI イニシエータ名を削除するサーバの  をクリックします。
3. WWN または iSCSI イニシエータ名を削除します。
4. サーバ名をクリックして詳細画面を表示し、WWN または iSCSI イニシエータ名が削除されていることを確認します。

4.8.4 iSCSI ターゲット名を編集する

サーバとストレージシステムが iSCSI で接続されている場合、ストレージシステムのポートにデフォルトで設定されている iSCSI ターゲット名（iSCSI ターゲットの iSCSI ネーム）や、一度設定した iSCSI ターゲット名を編集します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ストレージシステムのポート ID

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. 設定を編集するサーバのサーバ名をクリックします。
3. 詳細画面の  をクリックします。
4. 設定内容を確認して設定を編集します。
5. サーバ名をクリックして詳細画面を表示し、正しく設定されていることを確認します。

4.8.5 サーバを削除する

業務の統廃合などにより、不要になったサーバを Storage Advisor Embedded の管理対象から除外します。

前提条件

- 削除するサーバ名を確認しておくこと。
- 削除するサーバにボリュームを割り当てていないこと。

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
 2. 削除するサーバの  をクリックします。
- 複数のサーバを選択して、同時に削除することもできます。

4.9 ストレージシステムのポートの設定を編集する

ストレージシステムのポートの設定を編集します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ポート ID
- ポートセキュリティ
- ポートスピード
- FC の情報または iSCSI の情報

操作手順

1. ナビゲーションバーの [ポート] をクリックします。
2. 設定を編集するポートの  をクリックします。
3. 設定内容を確認して編集します。



メモ

iSCSI (Optical) ポートの場合、[ポートスピード] には 10Gbps が固定で設定されます。10Gbps 以外の値を指定しても無視されます。

4. ポート ID をクリックして詳細画面を表示し、正しく設定されていることを確認します。

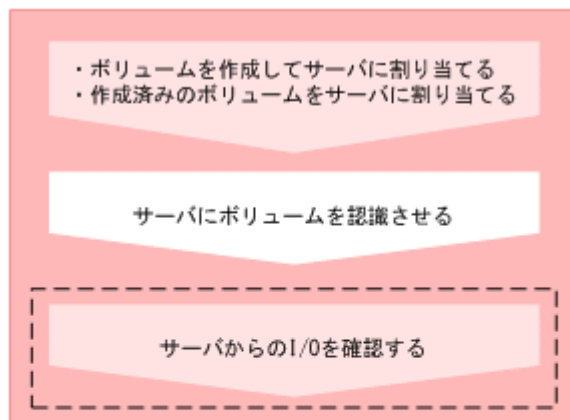
ボリュームの割り当て

この章では、Storage Advisor Embedded で管理するサーバにボリュームを割り当てる操作について説明します。

- 5.1 ボリューム割り当ての流れ
- 5.2 ボリュームを作成してサーバに割り当てる
- 5.3 ボリュームを作成する
- 5.4 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（サーバの画面から選択する）
- 5.5 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（ボリュームの画面から選択する）
- 5.6 サーバからの I/O を確認する
- 5.7 ボリューム名を編集する
- 5.8 ボリュームの容量削減設定を編集する
- 5.9 サーバへのボリュームの割り当てを解除する
- 5.10 ボリュームを削除する

5.1 ボリューム割り当ての流れ

Storage Advisor Embedded で管理するサーバにボリュームを割り当てます。割り当て後のボリュームを認識するために、サーバで OS に応じた操作を実施します。



(凡例)

-  : Storage Advisor Embeddedで操作する手順
-  : Storage Advisor Embedded以外で操作する手順
-  : 必要に応じて実施する手順

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- ・ ボリュームを作成する
- ・ ボリュームとサーバを接続する

関連タスク

- ・ [5.2 ボリュームを作成してサーバに割り当てる](#)
- ・ [5.4 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（サーバの画面から選択する）](#)
- ・ [5.5 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（ボリュームの画面から選択する）](#)
- ・ [5.6 サーバからの I/O を確認する](#)

5.2 ボリュームを作成してサーバに割り当てる

新規にボリュームを作成して、サーバに割り当てます。ボリュームを作成するとき容量削減（圧縮および重複排除）を設定すると、データの特性によっては格納するデータ量を削減できます。

前提条件

- ・ 使用できるプールがあること。
ボリュームに容量削減を設定する場合は、階層構造を持つプールは使用できません。
- ・ 次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - プール名

- 容量
- ボリューム数
- ボリューム名



メモ

サーバに、ほかの管理ツールで仮想ストレージマシンに割り当てられたホストグループ（または iSCSI ターゲット）を追加している場合、そのサーバにはボリュームを割り当てられません。

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. 設定するサーバの をクリックして [ボリュームを作成して割り当て] を選択します。
複数のサーバを選択して、ボリュームを同時に割り当てすることもできます。
3. 必要な項目を指定してボリュームを作成し、[実行] をクリックしてサーバに割り当てます。

ボリューム名は [ボリューム名] と [開始番号] から始まる番号を組み合わせで指定します。
例えば、[ボリューム名] を「volume」、[開始番号] を「7」、[桁数] を「2」と設定した場合、
ボリューム名は「volume07」となります。

5.3 ボリュームを作成する

プールの空き領域からボリュームを作成します。容量削減（圧縮 および重複排除）を設定すると、
データの特性によっては格納するデータ量を削減できます。

前提条件

- 使用できるプールがあること。
ボリュームに容量削減を設定する場合は、階層構造を持つプールは使用できません。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - プール名

- 。 容量
- 。 ボリューム数
- 。 ボリューム名

操作手順

1. ダッシュボードの [ボリューム]、またはナビゲーションバーの [ボリューム] をクリックします。
2. [+] をクリックします。
3. 必要な項目を指定してボリュームを作成します。



ボリューム作成

プール
Gold ▼

容量削減
無効 ▼

容量
1 GiB ▼

ボリューム数
1

ボリューム名
volume

開始番号 桁数
7 2 ▼

プレビュー
volume07

キャンセル 実行

ボリューム名は [ボリューム名] と [開始番号] から始まる番号を組み合わせで指定します。
例えば、[ボリューム名] を「volume」、[開始番号] を「7」、[桁数] を「2」と設定した場合、
ボリューム名は「volume07」となります。

操作結果

一覧画面にボリュームが追加されます。

5.4 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（サーバの画面から選択する）

作成済みのボリュームをサーバに割り当てます。サーバの画面からボリュームを選択して割り当てる方法を説明します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名



メモ

- ボリュームタイプに「管理外パス割り当て済み」と表示されているボリュームは Storage Advisor Embedded 以外の管理ソフトウェアで割り当て済みです。
- サーバに、ほかの管理ツールで仮想ストレージマシンに割り当てられたホストグループ（または iSCSI ターゲット）を追加している場合、そのサーバにはボリュームを割り当てられません。

操作手順

1. ダッシュボードの「サーバ」、またはナビゲーションバーの「サーバ」をクリックします。
2. 設定するサーバの  をクリックして「ボリュームを選択して割り当て」を選択します。
複数のサーバを選択して、ボリュームを同時に割り当てることもできます。
3. ボリュームを選択してサーバに割り当てます。

5.5 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（ボリュームの画面から選択する）

作成済みのボリュームをサーバに割り当てます。ボリュームの画面からサーバを選択して割り当てる方法を説明します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名



メモ

- ボリュームタイプに「管理外パス割り当て済み」と表示されているボリュームは Storage Advisor Embedded 以外の管理ソフトウェアで割り当て済みです。
- サーバに、ほかの管理ツールで仮想ストレージマシンに割り当てられたホストグループ（または iSCSI ターゲット）を追加している場合、そのサーバにはボリュームを割り当てられません。

操作手順

1. ダッシュボードの「ボリューム」、またはナビゲーションバーの「ボリューム」をクリックします。
2. 設定するボリュームの  をクリックします。

複数のボリュームを選択して、サーバに同時に割り当てすることもできます。

3. サーバを選択してボリュームを割り当てます。

5.6 サーバからの I/O を確認する

サーバからの I/O の状態を確認して、ボリュームが正しく割り当てられているかどうかを確認します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
4. [稼働状況監視] タブの IOPS のグラフで、I/O が発行されていることを確認します。

5.7 ボリューム名を編集する

ボリューム名を編集します。

前提条件

ボリューム名を確認しておくこと。

操作手順

1. ダッシュボードの [ボリューム]、またはナビゲーションバーの [ボリューム] をクリックします。
2. ボリューム名を編集するボリュームの  をクリックします。
3. ボリューム名を編集します。
4. ボリュームの一覧で、正しく設定されていることを確認します。

5.8 ボリュームの容量削減設定を編集する

ボリュームの容量削減（圧縮および重複排除）設定を編集します。

同じような業務で使用している別のボリュームの容量削減効果が高い場合に、効果が見込まれるボリュームとして新たに容量削減を有効にしたり、運用中でも効果がないボリュームの容量削減を無効にしたりします。すでに有効にしている容量削減の設定を変更する場合、データの伸長に時間が掛かることがあります。

前提条件

- サーバ名を確認しておくこと。
- ボリューム名を確認しておくこと。

- プールに十分な空きがあること（容量削減が有効なボリュームの設定を変更する場合）。

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. 容量削減の設定を編集するボリュームの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時に容量削減の設定を編集することもできます。
4. 容量削減の設定を編集します。
5. ボリューム名をクリックして詳細画面を表示し、正しく設定されていることを確認します。

5.9 サーバへのボリュームの割り当てを解除する

サーバがボリュームを利用しなくなった場合、ボリュームの割り当てを解除します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名

操作手順

1. サーバを選択してボリュームの割り当てを解除したい場合は、ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. 対象のボリュームを割り当てているサーバの  をクリックします。
複数のサーバを選択して、同時にボリュームの割り当てを解除することもできます。選択したサーバすべてに共通して割り当てられているボリュームだけが解除の対象になります。
3. ボリュームを選択して、割り当てを解除します。
複数のボリュームを選択して、同時に割り当てを解除することもできます。

5.10 ボリュームを削除する

不要になったボリュームを削除します。

前提条件

- 削除するボリューム名を確認しておくこと。
- ボリュームがサーバに割り当てられていないこと。
- ボリュームのスナップショットを作成していないこと。
- ボリュームタイプに [スナップショット] および [管理外パス割り当て済み] と表示されていないこと。



メモ

ボリュームタイプに [管理外パス割り当て済み] と表示されているボリュームは Storage Advisor Embedded 以外の管理ソフトウェアで割り当て済みです。

操作手順

1. ダッシュボードの [ボリューム]、またはナビゲーションバーの [ボリューム] をクリックします。
2. 削除するボリュームの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時に削除することもできます。

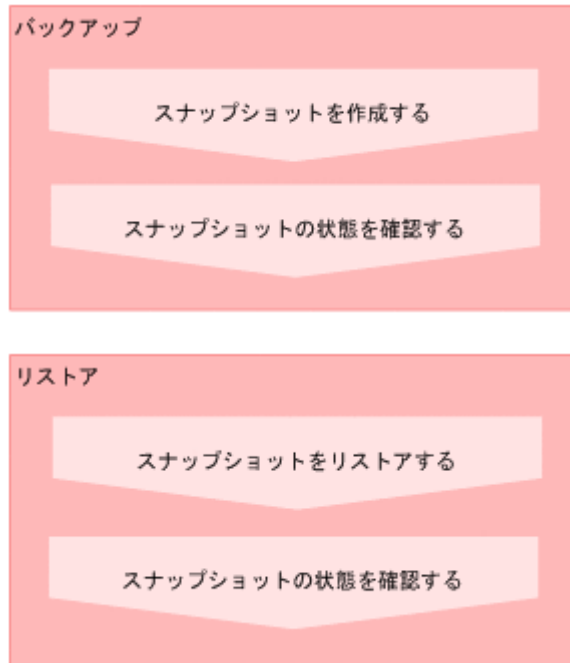
データバックアップや二次利用

この章では、データをバックアップしたり、データをほかの目的で使用する（二次利用）場合の操作について説明します。

- 6.1 スナップショットによるバックアップの流れ
- 6.2 スナップクローンによる二次利用の流れ
- 6.3 REST API で定期的にスナップショットを作成する
- 6.4 手動でスナップショットを作成する
- 6.5 スナップショットやスナップクローンの状態を確認する
- 6.6 スナップショットをリストアする
- 6.7 REST API でスナップショットを作成してマッピングする
- 6.8 スナップクローンを実行してボリュームを作成する
- 6.9 スナップショットを削除する

6.1 スナップショットによるバックアップの流れ

データをバックアップするために、ボリュームのスナップショットを作成します。スナップショットは特定の時点のボリュームのイメージです。スナップショットを作成したタイミングで、元のボリュームとの差分データがプールに格納されます。スナップショットを作成してリストアするまでの流れを説明します。スナップショットに関する機能については、マニュアル『Thin Image ユーザガイド』を参照してください。



REST API を使用して定期的にスナップショットを作成します。GUI を使用して手動でスナップショットを作成することもできます。

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- スナップショットを作成する
- スナップショットの情報を取得する
- 特定のスナップショットの情報を取得する
- スナップショットをリストアする



メモ

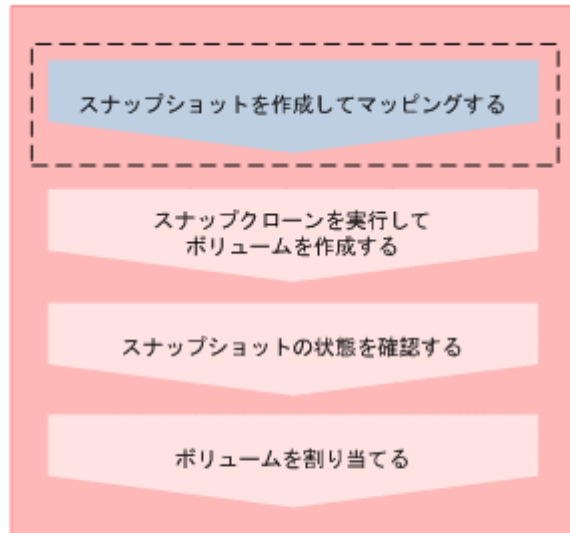
スナップショットの作成日時は、GUI を使用する場合、管理 PC のシステムに設定されたタイムゾーンに基づく日時が表示されます。REST API を使用する場合、協定世界時（UTC）に基づく日時が返ります。

関連タスク

- [6.3 REST API で定期的にスナップショットを作成する](#)
- [6.4 手動でスナップショットを作成する](#)
- [6.5 スナップショットやスナップクローンの状態を確認する](#)
- [6.6 スナップショットをリストアする](#)

6.2 スナップクローンによる二次利用の流れ

運用中のデータをデータマイニングなどの異なる目的で利用する場合、スナップショットを作成してマッピングし、データを確定します。この操作で作成されるボリュームに対してスナップクローンを実行し、ボリュームを複製します。複製したボリュームをほかのサーバに割り当てます。スナップクローンに関する機能については、マニュアル『Thin Image ユーザガイド』を参照してください。



(凡例)

 : GUIで操作する手順

 : REST APIで操作する手順

 : 必要に応じて実施する操作

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- スナップショットを作成する
- サーバにパスの情報を追加する
- サーバからパスの情報を削除する



メモ

スナップショットの作成日時は、GUI を使用する場合、管理 PC のシステムに設定されたタイムゾーンに基づく日時が表示されます。REST API を使用する場合、協定世界時（UTC）に基づく日時が返ります。

関連タスク

- [5.4 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる（サーバの画面から選択する）](#)
- [6.5 スナップショットやスナップクローンの状態を確認する](#)
- [6.7 REST API でスナップショットを作成してマッピングする](#)
- [6.8 スナップクローンを実行してボリュームを作成する](#)

6.3 REST API で定期的にスナップショットを作成する

運用中のデータをバックアップするために、REST API を使用してスナップショットを作成します。
スクリプトを作成して運用に組み込むと、定期的にスナップショットを作成することもできます。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ボリューム ID
- スナップショットグループ名
- プール ID
このプールは、差分データを格納するために指定します。



メモ

- 選択するプールに十分な空き容量があることを確認してください。プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成済みのものを含むスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。
- 差分データは階層構造を持つプールには格納できません。

操作手順

1. REST API を使用してスナップショットを作成します。スナップショットのタイプには Snapshot を指定します。

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots
```

詳細は、スナップショットを作成する API の手順を確認してください。

操作結果

スナップショットの一覧に、新たに作成したスナップショットが表示されます。

6.4 手動でスナップショットを作成する

手動でスナップショットを作成します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名
- スナップショットグループ名
- プール名
このプールは、差分データを格納するために指定します。



メモ

- 選択するプールに十分な空き容量があることを確認してください。プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成済みのものを含むスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。

- 差分データは階層構造を持つプールには格納できません。

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. スナップショットを作成するボリュームの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時にスナップショットを作成することもできます。
4. 必要な項目を指定して、スナップショットを作成します。

6.5 スナップショットやスナップクロンの状態を確認する

スナップショットやスナップクロンの状態を確認します。ヘルスステータスでエラーを検知した場合も、どれがエラーになっているかをすぐに確認できます。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名
- スナップショット作成日時（スナップショットの状態を確認する場合）

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
4. [スナップショット] タブでスナップショットやスナップクロンの状態を確認します。
スナップショットの操作をしたとき表示される状態を次に示します。

状態	説明
[作成中]	スナップショットのための設定を作成中です。
[同期完了]	スナップショットのための同期処理またはリストアが完了しています。
[作成済]	スナップショットを作成済みです。
[リストア中]	スナップショットをリストア中です。
[削除中]	スナップショットの設定と差分データを削除中です。
[エラー]	障害が発生しています。

スナップクロンの操作をしたとき表示される状態を次に示します。

状態	説明
[準備中]	スナップクロンのための設定を作成中です。
[クローン準備完了]	スナップクロンのための設定を作成済みです。
[クローン中]	スナップクロンで複製中です。
[設定解除中]	スナップクロンのための設定を解除中です。
[エラー]	障害が発生しています。

6.6 スナップショットをリストアする

障害などで不正な状態になったデータがある時点まで復旧したい場合、作成しておいたスナップショットを利用してボリュームごとにリストアします。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名
- スナップショット作成日時

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
4. [スナップショット] タブでスナップショットの一覧を表示し、リストアしたい日時のスナップショットを選択し  をクリックします。



メモ

ボリュームがリストア中であるかどうかは、スナップショット一覧で確認できます。リストアが完了したら、状態が [同期完了] と表示されます。

操作結果

スナップショットを作成した日時の状態にデータを復旧でき、運用を続行できます。

6.7 REST API でスナップショットを作成してマッピングする

ほかのサーバで利用するボリュームを準備するために、REST API を使用して、スナップショットを作成してマッピングします。

スナップショットを作成してマッピングすると、スナップクローンを実行して複製を作成するための作成元ボリュームとして使用できるようになります。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- ボリューム ID
- スナップショットグループ名
- プール ID
このプールは、差分データを格納するために指定します。



メモ

差分データは階層構造を持つプールには格納できません。

操作手順

1. REST API を使用して、スナップショットを作成してマッピングします。スナップショットのタイプには Mapped Snapshot を指定します。

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots
```

詳細は、スナップショットを作成する API の手順を確認してください。

操作結果

スナップショットの一覧に、新たに作成した、ボリューム ID のついたスナップショットが表示されます。また、ボリュームの一覧にも表示され、スナップクローンを実行するための作成元ボリュームとして使用できます。

作成したボリュームには、「Snapshot of ID:作成元ボリューム ID」というボリューム名が自動で付与されます。

6.8 スナップクローンを実行してボリュームを作成する

運用中のデータをほかのサーバで利用するため、スナップクローンを実行してボリュームの複製を作成します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名
- スナップショットグループ名
- プール名

このプールは、スナップクローンで作成するボリュームの作成元として指定します。



メモ

- 選択するプールに十分な空き容量があることを確認してください。プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成済みのものを含むスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。
- スナップクローンでボリュームを作成する場合、階層構造を持つプールからは作成できません。

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. スナップクローンを実行するボリュームの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時にスナップクローンを実行することもできます。
4. 必要な項目を指定して、スナップクローンを実行します。



メモ

ボリュームがクローン中であるかどうかは、スナップショット一覧で確認できます。スナップクローンが完了したら、スナップショット一覧には表示されなくなります。

操作結果

スナップクローンで新たに作成したボリュームがボリュームの一覧に表示され、通常のボリュームとして使用できます。

作成したボリュームには、「Clone of ID:作成元ボリュームID」というボリューム名が自動で付与されます。

6.9 スナップショットを削除する

不要になったスナップショットを削除します。

前提条件

- スナップショットがマッピングされていないこと。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - ボリューム名
 - スナップショット作成日時

操作手順

- ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
- サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
- ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
- [スナップショット] タブで、削除するスナップショットを選択し  をクリックします。
複数のスナップショットを選択して、同時に削除することもできます。

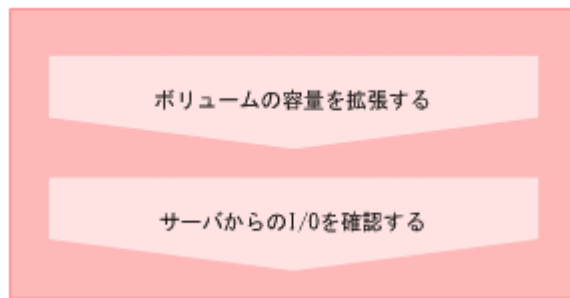
ボリュームおよびプールの容量管理

この章では、使用率の高いボリュームやプールの容量を拡張したり、目的に合わせてプールを複数作成したりする操作について説明します。

- 7.1 ボリュームの容量を拡張する流れ
- 7.2 プールの容量を拡張する流れ
- 7.3 プールの複数作成の流れ
- 7.4 ボリュームの容量を拡張する
- 7.5 プールの容量を確認する
- 7.6 プールを構成しているドライブを確認する
- 7.7 プールの容量を拡張する
- 7.8 ボリュームの容量を確認する
- 7.9 プールを削除する
- 7.10 データの削減効果を確認する

7.1 ボリュームの容量を拡張する流れ

ボリュームの容量が不足した場合、容量を拡張します。



REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- ボリュームの容量を拡張する

関連タスク

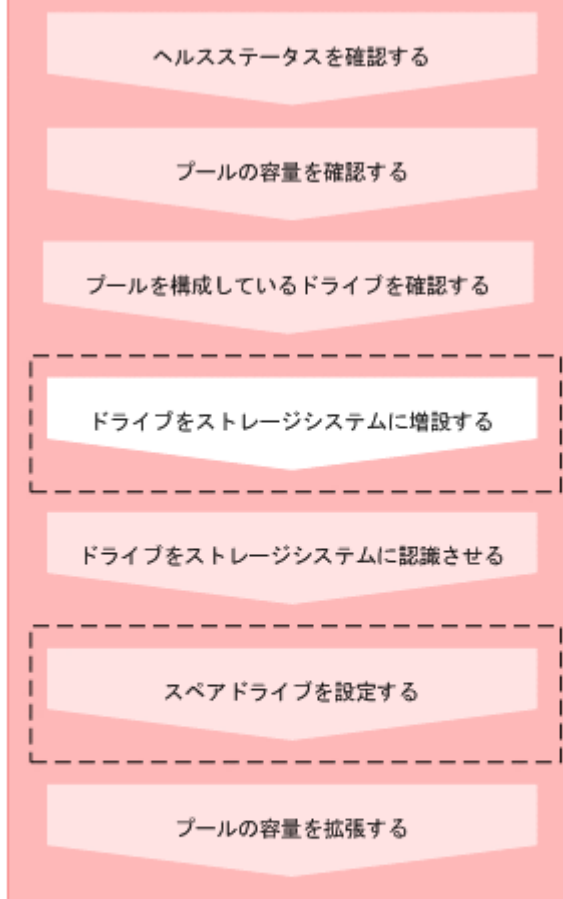
- [5.6 サーバからの I/O を確認する](#)
- [7.4 ボリュームの容量を拡張する](#)

7.2 プールの容量を拡張する流れ

プールの使用率が上がった場合、プールの容量を拡張して運用を継続します。

プールの容量を拡張するには、新規にドライブを増設します。ドライブタイプや回転数などの情報は、プールの詳細画面で確認できます。複数のプールで運用している場合は、未使用のプールを削除してドライブを流用する方法もあります。

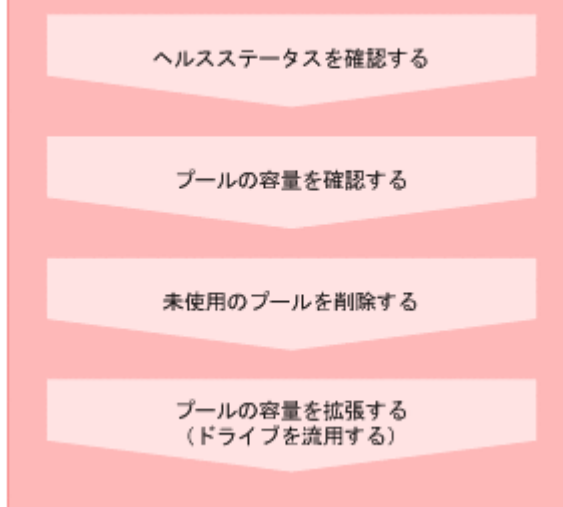
新規ドライブ追加



(凡例)

- : Storage Advisor Embeddedで操作する手順
- : Storage Advisor Embedded以外で操作する手順
- : 設定済みの場合は操作不要

未使用のプールからの流用（プールが複数ある場合）



REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

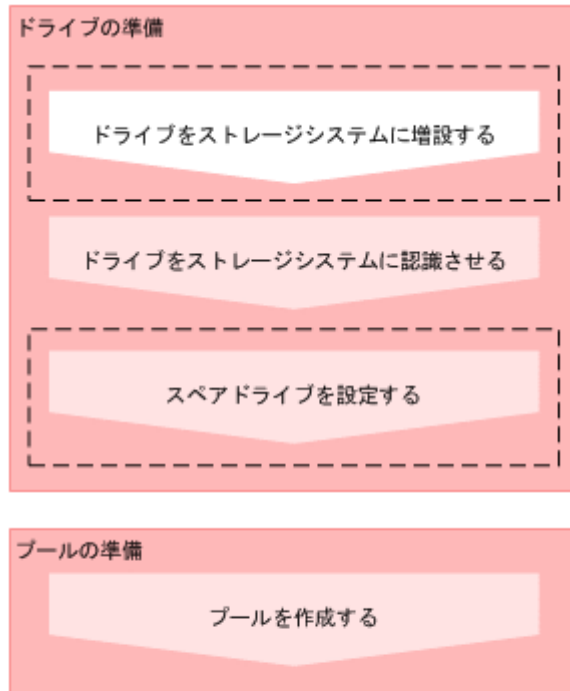
- プールの情報を取得する
- 特定のプールの情報を取得する
- ドライブの情報を取得する
- 特定のドライブの情報を取得する
- ストレージシステムの情報を取得する
- ドライブをスペアドライブに設定する
- プールにドライブを追加する
- プールを削除する

関連タスク

- [4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる](#)
- [4.3 スペアドライブを設定する](#)
- [7.5 プールの容量を確認する](#)
- [7.6 プールを構成しているドライブを確認する](#)
- [7.7 プールの容量を拡張する](#)
- [7.9 プールを削除する](#)
- [10.2 ヘルスステータスを確認する](#)

7.3 プールの複数作成の流れ

耐障害性の向上や I/O 性能の確保を目的として、複数のプールを作成します。



(凡例)

-  : Storage Advisor Embeddedで操作する手順
-  : Storage Advisor Embedded以外で操作する手順
-  : 設定済みの場合は操作不要



メモ

プール名やプールの使用率に対するしきい値は、プールの作成後に変更することもできます。

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- ドライブをスベアドライブに設定する
- プールを作成する
- プールの設定を変更する

関連タスク

- [4.2 ドライブをストレージシステムに認識させる](#)
- [4.3 スベアドライブを設定する](#)
- [4.4 プールを作成する](#)

7.4 ボリュームの容量を拡張する

ボリュームの容量を拡張して、サーバに割り当てられる容量を増やします。

前提条件

- サーバにボリュームを割り当てていること。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - サーバ名
 - ボリューム名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. 拡張するボリュームの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時に拡張することもできます。
4. 追加する容量を指定したり、拡張後の合計値を指定したりして、ボリュームの容量を拡張します。

7.5 プールの容量を確認する

Storage Advisor Embedded で管理しているプールの容量を確認します。複数のプールで運用している場合は、プール全体の容量、およびそれぞれのプールの容量を確認できます。

操作手順

1. 次の画面で容量を確認します。
 - プール全体の容量：ダッシュボードの [使用状況]
 - 各プールの容量：プールの詳細画面（プールの一覧画面からプール名をクリックすると表示される）

7.6 プールを構成しているドライブを確認する

プールを構成しているドライブの情報（ドライブタイプや RAID レベルなど）を確認します。

前提条件

プール名を確認しておくこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの [プール] をクリックします。
2. プール名をクリックして詳細画面を表示します。
3. [ドライブ] タブをクリックしてドライブタイプや RAID レベルなどを確認します。

7.7 プールの容量を拡張する

プールの使用率が高くなった場合、プールの容量を拡張して運用を継続します。

プールは複数のドライブと関連付けられたストレージシステムの仮想的な領域です。プールから仮想的なボリュームを作成してサーバに割り当て、データの書き込みに応じて実領域を使用することで、ストレージリソースを有効に活用できます。

Storage Advisor Embedded では、ストレージシステムがサポートしている構成のうち、容量効率がいちばんよくなるようにドライブを組み合わせた構成が推奨構成として表示されます。

Dynamic Tiering のライセンスが有効なストレージシステムの場合、ドライブを追加するとき、ドライブタイプや回転数が異なるドライブが含まれるように指定すると、性能順に階層構造を持ったプールに拡張されます。階層構造のプールではアクセス頻度などに応じて、自動的にデータが最適な階層に格納されます。

前提条件

プール名を確認しておくこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの [プール] をクリックします。
2. 拡張するプールの  をクリックします。
3. 推奨された構成に問題がなければ、[実行] をクリックしてプールを拡張します。
プールの構成を指定して拡張したい場合は、ドライブ数を変更します。次に [チェック] をクリックして、実行可能な組み合わせを確認してから [実行] をクリックします。

7.8 ボリュームの容量を確認する

Storage Advisor Embedded で管理しているボリュームの容量を確認します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
4. [概要] に表示された使用容量や使用率を確認します。



メモ

ボリュームタイプに [スナップショット] と表示されているボリュームの場合、データはプールに直接格納され、ボリュームの容量は使用されません。

7.9 プールを削除する

不要になったプールを削除します。

前提条件

- 削除するプール名を確認しておくこと。
- 削除するプールにはボリュームが作成されていないこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの [プール] をクリックします。
2. 削除するプールの  をクリックします。
複数のプールを選択して、同時に削除することもできます。

7.10 データの削減効果を確認する

ストレージシステムの容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって、ストレージシステムをどれだけ有効に使用できているかを確認します。

操作手順

1. 次の画面で、ストレージシステムの容量削減機能（圧縮および重複排除機能）による効果を確認します。
 - ストレージシステム全体の削減効果：ダッシュボードの [容量削減効果]
 - 各プールの削減効果：[プール] の一覧でプール名をクリックして表示する詳細画面

global-active device を利用するための環境構築

この章では、global-active device を利用するための環境構築のうち、Storage Advisor Embedded でのリモートパスの設定および Quorum ディスクの設定について説明します。

- 8.1 global-active device を利用するための環境構築の流れ
- 8.2 リモートパスを設定する
- 8.3 Quorum ディスクを設定する
- 8.4 リモートパスを追加する
- 8.5 リモートパスを削除する
- 8.6 リモートパスグループを削除する
- 8.7 Quorum ディスクの外部ボリューム名を編集する
- 8.8 Quorum ディスクへの外部パスを追加する
- 8.9 Quorum ディスクへの外部パスを削除する
- 8.10 Quorum ディスクの設定を解除する

8.1 global-active device を利用するための環境構築の流れ

global-active device を利用すると、2 台のストレージシステムの間でデータをボリューム単位に冗長化し、ストレージシステムの可用性を向上させることができます。

一方のストレージシステムのボリュームにデータが書き込まれると自動的にもう一方のストレージシステムのボリュームに同期されるため、ユーザはサーバがアクセスするボリュームの構成を意識することなく利用できます。global-active device については、マニュアル『global-active device ユーザガイド』を参照してください。

Storage Advisor Embedded では、global-active device を利用するために必要なリモートパスと Quorum ディスクの設定ができます。この設定は、global-active device を構成するストレージシステムの双方で必要です。



メモ

Storage Advisor Embedded で環境を構築する場合、リモートパスや Quorum ディスク用の外部パスは FC で接続する必要があります。



(凡例)

-  : Storage Advisor Embeddedで操作する手順
-  : Storage Advisor Embedded以外で操作する手順

REST API を使用する場合：

次の API を使用して操作を自動化できます。

- ・ リモート接続を作成する
リモート接続を作成する API の操作方法については、マニュアル『REST API リファレンスガイド』を参照してください。
リクエストラインを次に示します。

```
POST <ベース URL >/v1/objects/remotepath-groups
```

- ・ 外部ボリュームを作成する
- ・ Quorum ディスクの情報を登録する

関連タスク

- ・ [8.2 リモートパスを設定する](#)
- ・ [8.3 Quorum ディスクを設定する](#)

8.2 リモートパスを設定する

global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステム間のリモートパスを設定します。リモートパスは、接続先のストレージシステムにデータを送信するためのパスで、互いにデータを送信できるように双方のストレージシステムで設定する必要があります。

前提条件

- global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステム間に物理パスが接続されていること。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - 接続先ストレージシステムのモデル、シリアル番号
 - パスグループ ID
 - 使用するポートおよび接続先ストレージシステムのポート

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [リモートパスグループ] を選択します。
2. [+] をクリックします。
3. 必要な項目を指定してリモートパスを設定します。
4. パスグループ ID をクリックして詳細画面を表示し、設定したリモートパスの状態が [正常] であることを確認します。



メモ

リモートパスの状態が [正常] でない場合、マニュアル『global-active device ユーザガイド』を参照して対処してください。

8.3 Quorum ディスクを設定する

global-active device を使用する場合、global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステムから、外部のストレージシステム上の Quorum ディスクにアクセスできるようにする必要があります。Quorum ディスクは、パスやストレージシステムに障害が発生したときに、どちらのストレージシステムでサーバからの I/O を継続するのかを決めるために使われます。

前提条件

- global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステムと Quorum ディスク用のボリュームのある外部ストレージシステム間の物理パスが接続されていること。
- Quorum ディスク用のボリュームが global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステムのポートに割り当てられていること。
- 外部ボリュームの設定に必要な次の情報を確認しておくこと。
 - 外部接続用のポート
 - 外部ストレージシステムのモデル、シリアル番号
 - 外部接続用のポートに接続している外部ストレージシステムのポートの WWN
 - Quorum ディスク用のボリュームの LUN
 - 外部ボリューム名

- 外部パリティグループ ID
- 外部パスグループ ID
- Quorum ディスクの設定に必要な次の情報を確認しておくこと。
 - Quorum ID
 - Quorum ディスクを共有するストレージシステムのモデル、シリアル番号

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [外部ボリューム] を選択します。
2. [+] をクリックします。
3. 外部接続用のポートを選択して [次へ] をクリックします。
利用可能な外部パスの一覧が表示されます。
4. 使用する外部パスを選択して [次へ] をクリックします。
利用可能なボリュームの一覧が表示されます。
5. Quorum ディスク用のボリュームの LUN を選択し、外部ボリューム名、外部パリティグループ ID、外部パスグループ ID を指定して [実行] をクリックします。
外部ボリューム一覧に、設定した外部ボリュームの情報が表示されます。
6. Quorum ディスクの設定をする外部ボリュームの  をクリックします。
7. 必要な項目を指定して [実行] をクリックします。

8.4 リモートパスを追加する

global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステム間のリモートパスを冗長化する場合、設定済みのリモートパスグループにリモートパスを追加します。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- パスグループ ID
- 使用するポートおよび接続先ストレージシステムのポート

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [リモートパスグループ] を選択します。
2. リモートパスを追加するリモートパスグループのパスグループ ID をクリックします。
3.  をクリックします。
4. 必要な項目を指定して、リモートパスを追加します。
追加したリモートパスの状態が [正常] であることを確認します。



メモ

リモートパスの状態が [正常] でない場合、マニュアル『global-active device ユーザガイド』を参照して対処してください。

8.5 リモートパスを削除する

設定済みのリモートパスグループからリモートパスを削除します。リモートパスグループ内のすべてのリモートパスを削除することはできません。その場合は、リモートパスグループを削除してください。

前提条件

パスグループ ID を確認しておくこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [リモートパスグループ] を選択します。
2. リモートパスを削除するリモートパスグループのパスグループ ID をクリックします。
3. リモートパスの一覧から削除するリモートパスを選択して  をクリックします。
複数のリモートパスを選択して、同時に削除することもできます。

8.6 リモートパスグループを削除する

global-active device の運用を終了する場合、global-active device を使用する 2 台のストレージシステム間に設定したリモートパスを削除します。

前提条件

削除するリモートパスグループのパスグループ ID を確認しておくこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [リモートパスグループ] を選択します。
2. 削除するリモートパスグループの  をクリックします。
複数のリモートパスグループを選択して、同時に削除することもできます。

8.7 Quorum ディスクの外部ボリューム名を編集する

Quorum ディスクに設定した外部ボリューム名を編集します。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [外部ボリューム] を選択します。
2. 外部ボリューム名を編集する Quorum ディスクの  をクリックします。
3. 外部ボリューム名を変更します。

8.8 Quorum ディスクへの外部パスを追加する

Quorum ディスクへのパスを冗長化するために、Quorum ディスクへの外部パスを追加します。

前提条件

- global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステムと Quorum ディスクのある外部ストレージシステム間の物理パスが接続されていること。
- Quorum ディスクが global-active device の環境を構築する 2 台のストレージシステムのポートに割り当てられていること。
- 次の情報を確認しておくこと。
 - 外部接続用のポート
 - 外部接続用のポートに接続している外部ストレージシステムのポートの WWN

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [外部ボリューム] を選択します。
2. パスを追加する外部ボリュームの  をクリックします。
3. 外部接続用のポートを選択して [次へ] をクリックします。
利用可能な外部パスの一覧が表示されます。
4. 使用する外部パスを選択して [実行] をクリックします。
5. 外部パスを追加した Quorum ディスクのボリューム名をクリックして詳細画面を表示し、外部パスが正しく追加されたことを確認します。
同じパスグループにほかの外部ボリュームが含まれる場合、そのボリュームに対しても外部パスが追加されます。操作したボリューム以外の情報は、外部ボリューム一覧で画面を更新して確認してください。

8.9 Quorum ディスクへの外部パスを削除する

Quorum ディスクに設定されている外部パスを削除します。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [外部ボリューム] を選択します。
2. 外部パスを削除する Quorum ディスクのボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. 削除する外部パスを選択して、 をクリックします。
複数の外部パスを選択して、同時に削除することもできます。
同じパスグループにほかの外部ボリュームが含まれる場合、そのボリュームの外部パスも削除されます。操作したボリューム以外の情報は、外部ボリューム一覧で画面を更新して確認してください。

8.10 Quorum ディスクの設定を解除する

global-active device の運用を終了する場合、global-active device を使用する 2 台のストレージシステムで不要になった Quorum ディスクの設定を解除します。Quorum ディスクとして使用していた外部ボリュームが不要になる場合、外部ボリュームを削除します。

前提条件

設定を解除する Quorum ディスクの外部ボリューム名を確認しておくこと。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [外部ボリューム] を選択します。
2. 設定を解除する Quorum ディスクの  をクリックします。
複数のボリュームを選択して、同時に Quorum ディスクの設定を解除することもできます。
3. 対象のボリュームに間違いがないことを確認して、[実行] をクリックします。
4. 外部ボリュームを削除する場合は、削除する外部ボリュームの  をクリックします。
5. 対象の外部ボリュームに間違いがないことを確認して、[デステージしてから削除] または [デステージしないで削除] のどちらかを選択し、[実行] をクリックします。
[デステージしてから削除] を選択すると、キャッシュメモリに蓄えられたデータを外部ボリュームに書き込む（デステージ）処理が実行され、接続が切断されたあとで外部ボリュームが削除されます。[デステージしないで削除] を選択すると、デステージ処理をしないで強制的に外部ボリュームが削除されます。

ボリュームの稼働状況の確認

この章では、ボリュームの稼働状況を確認する操作について説明します。

- 9.1 ボリュームの稼働状況の確認
- 9.2 ボリュームの稼働状況を性能グラフで確認する

9.1 ボリュームの稼働状況の確認

日々の運用中に、ボリュームに対して I/O が発行されていない、通常より I/O が多く発行されているなどの異常が発生していないかを確認します。また、サーバ管理者から問い合わせがあった場合に、ボリュームの稼働状況を確認します。

9.2 ボリュームの稼働状況を性能グラフで確認する

IOPS、平均応答時間（サーバからの要求の応答にかかる時間）、転送速度の状態をボリュームごとに表示して稼働状況を確認します。各性能グラフの内容は、csv ファイルとしてダウンロードすることもできます。

前提条件

次の情報を確認しておくこと。

- サーバ名
- ボリューム名



メモ

Windows Server で性能グラフの内容を csv ファイルにエクスポートする場合は、次のどちらかの手順で実施してください。

- Google Chrome を使用する
- Internet Explorer を使用して、Internet Explorer セキュリティ強化の構成を無効にする

操作手順

1. ダッシュボードの [サーバ]、またはナビゲーションバーの [サーバ] をクリックします。
2. サーバ名をクリックして、詳細画面を表示します。
3. ボリューム名をクリックして、詳細画面を表示します。
4. [稼働状況監視] タブの IOPS、平均応答時間、転送速度のそれぞれのグラフでボリュームの稼働状況を確認します。



メモ

ストレージシステムから性能情報が取得できなかった場合は、グラフが連続して表示されません。

ストレージシステムの障害監視

ヘルスステータスで問題のあるプールやスナップショットを特定して対処したり、ハードウェアの障害を検知したりできます。メールや SNMP トラップ通知で検知することもできます。障害を検知した場合は、maintenance utility のアラートの一覧で SIM を確認して対処します。

- 10.1 ストレージシステムの障害監視
- 10.2 ヘルスステータスを確認する
- 10.3 maintenance utility でストレージシステムのアラートを確認する

10.1 ストレージシステムの障害監視

ストレージシステムで障害が発生すると、ヘルスステータスの LED アラートで検知できます。障害情報はメールや SNMP トラップ通知で検知することもできます。障害を検知した場合は、maintenance utility のアラートの一覧で SIM を確認して対処します。プールの使用容量がしきい値を超えた場合や、スナップショットの操作でエラーが発生している場合はヘルスステータスに表示されるメッセージから、対象を特定して対処することもできます。

関連タスク

- [2.5 アラート通知を設定する](#)
- [6.9 スナップショットを削除する](#)
- [7.7 プールの容量を拡張する](#)

10.2 ヘルスステータスを確認する

ストレージシステムの障害を確認します。プールやスナップショットで問題が発生している場合は、表示されるメッセージに従って対処します。

操作手順

1. ナビゲーションバーで [Error] または [Warning] をクリックします。
問題が発生していない場合は [Normal] と表示されます。
2. 表示されるメッセージに従って対処します。

10.3 maintenance utility でストレージシステムのアラートを確認する

ヘルスステータス、メール、または SNMP トラップなどでストレージシステムの障害を検知した場合、maintenance utility でアラートの情報を確認して対処します。

前提条件

Maintenance のユーザグループ（ビルトイングループ）に登録されているユーザでログインしていること。

操作手順

1. ナビゲーションバーの  をクリックして [Maintenance Utility] を選択し、maintenance utility を起動します。
2. maintenance utility の [アラート] タブをクリックして、アラートの一覧を表示します。
3. 通知された情報を基に、アラートを確認して対処します。



ヒント

アラートの詳細については、マニュアル『システム管理者ガイド』を参照してください。

4. maintenance utility の [ログアウト] をクリックします。

REST API の概要

この章では、REST API を利用するための基本的なシステム構成や、管理対象のリソースの指定方法、API を実行する前に必要な情報、および API を実行したあとに参照する情報など、各 API で共通する情報について説明します。

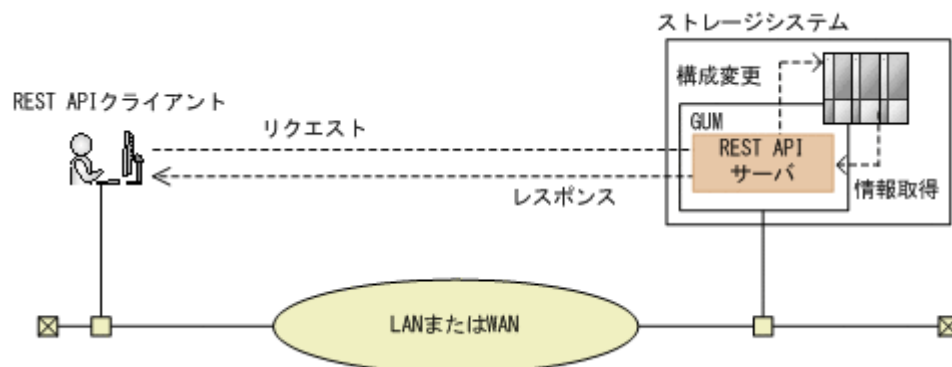
- 11.1 REST API のシステム構成
- 11.2 SSL 通信を利用する場合の要件
- 11.3 API の実行ユーザのロールとアクセス権限
- 11.4 管理対象のリソースの指定（URL）
- 11.5 オブジェクト ID の指定方法
- 11.6 サポートする HTTP メソッド
- 11.7 ユーザ認証
- 11.8 リクエストヘッダ
- 11.9 レスポンスヘッダ
- 11.10 HTTP ステータスコード
- 11.11 リクエストおよびレスポンスのフォーマット
- 11.12 クエリパラメータ
- 11.13 データ型
- 11.14 出力形式
- 11.15 データオブジェクト
- 11.16 commandStatus オブジェクト

□ 11.17 エラーオブジェクト

11.1 REST API のシステム構成

REST API を使用するための基本的なシステム構成について説明します。

REST API の基本的なシステム構成を次に示します。



ストレージシステム

REST API での情報取得や構成変更の対象となるストレージシステムです。

GUM (Gateway for Unified Management)

ストレージシステムの基本的な管理機能を持つコンピュータです。外部からストレージシステムを管理する場合には、GUM と通信します。

コントローラ 1 (CTL1) とコントローラ 2 (CTL2) の各コントローラに存在します。

REST API サーバ

REST API クライアントから REST API のリクエストを受け付け、ストレージシステムに命令を発行し、実行結果を REST API クライアントに返すサーバとしての役割を担うコンポーネントです。

ストレージシステムの GUM 上に配置されます。

REST API クライアント

REST API サーバへリクエストを発行するクライアントです。REST API を利用したソフトウェアまたはスクリプトが該当します。



メモ

このマニュアルに記載された API のほかに、より詳細な情報を取得したり、構成変更する操作に対応した API も実行できます。操作方法については、マニュアル『REST API リファレンスガイド』を参照してください。

11.2 SSL 通信を利用する場合の要件

REST API で SSL 通信をする場合の要件について説明します。

REST API では、REST API クライアントと REST API サーバ間で SSL 通信が利用できます。

REST API クライアントと REST API サーバ間の SSL 通信には、GUM にインストールされている HTTPS 用のサーバ証明書が使用されます。デフォルトではこのサーバ証明書は自己署名証明書であるため、クライアントプログラムによっては、通信がエラーになる場合があります。この問題を解決するためには、次のどちらかの対応が必要です。

- ストレージシステムの証明書を VeriSign 社などの認証局に信頼されたサーバ証明書に変更する。

認証局の署名済み証明書の入手方法と GUM での証明書の更新方法については、マニュアル『システム管理者ガイド』を参照してください。

- クライアントプログラムでエラーを回避するように作成する。
クライアントプログラムでエラーを回避するための方法は、プログラム言語によって異なります。ここでは Python の例を説明します。

Python では、Requests ライブラリを使用している場合、リクエスト発行時に `verify=False` を指定することでサーバ証明書の検証処理をスキップできます。



メモ

REST API クライアントと REST API サーバ間の SSL 通信には、TLS バージョン 1.2 が利用できます。
使用できる暗号方式 (Cipher Suite) は次のとおりです。

- ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
- ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
- AES256-GCM-SHA384
- AES256-SHA256
- AES128-GCM-SHA256
- AES128-SHA256

11.3 API の実行ユーザのロールとアクセス権限

REST API を使用してストレージシステムのリソースを操作するには、API を実行するユーザが操作対象のリソースに対して適切なロール (実行権限) とアクセス権限を持っている必要があります。

なお、REST API を実行するには、「保守 (ユーザ)」のロールも必要です。

REST API を使用する前に、必要なロールを持つユーザグループにユーザを登録してください。
Storage Advisor Embedded GUI を操作するユーザは、すべての API を実行できます。

各 API を実行するために必要なロールについては、各 API の説明を参照してください。

11.4 管理対象のリソースの指定 (URL)

REST API では、管理対象のリソースを URL の形式で指定します。

管理対象のリソースを特定するには、次の形式の URL を指定します。

<プロトコル>://<ホスト名>:<ポート番号>/<アプリケーション>/<バージョン>/<ドメイン>

- プロトコル
https または http を指定します。
セキュリティのため、https を指定することをお勧めします。
- ホスト名
GUM の IP アドレスまたは名前解決のできるホスト名を指定します。コントローラ 1 (CTL1) 上の GUM、またはコントローラ 2 (CTL2) 上の GUM のどちらかを指定してください。
- ポート番号
接続に使用するポート番号を指定します。
デフォルトのポート番号は、443 (SSL 通信用) および 80 (非 SSL 通信用) です。デフォルトのポート番号で通信する場合は、ポート番号の指定を省略できます。
- アプリケーション

ConfigurationManager/simple を指定します。



メモ

このドキュメントでは、「<プロトコル>://<ホスト名>:<ポート番号>/ConfigurationManager」をベース URL と表記します。

- バージョン
REST API のバージョンを指定します。現在指定できる値は v1 だけです。
- ドメイン
ドメインを指定します。現在指定できる値は objects だけです。
サポートする URL の形式を次に示します。
objects の配下には、操作対象のオブジェクト種別を指定します。
 - command-status
 - drives
 - external-path-groups
 - external-parity-groups
 - external-volumes
 - health-status
 - pools
 - ports
 - quorum-disks
 - servers
 - snapshot-groups
 - snapshots
 - storages
 - volumes
 - volume-server-connections

各オブジェクトタイプでサポートする URL の形式の一覧を次に示します。

オブジェクトタイプ command-status のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/command-status/<オブジェクト ID >	GET	同期	非同期処理の API のステータス情報を取得する
	DELETE	同期	非同期処理の API のステータス情報を削除する

オブジェクトタイプ drives のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/drives	GET	同期	ドライブの情報を取得する

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/drives/ actions/set-spare/invoke	POST	非同期	ドライブをスペアドライブに設定する
/simple/v1/objects/drives/ actions/release-spare/ invoke	POST	非同期	スペアドライブの設定を解除する
/simple/v1/objects/drives/< オブジェクト ID >	GET	同期	特定のドライブの情報を取得する

オブジェクトタイプ external-path-groups のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/ external-path-groups	GET	同期	外部パスグループの情報を取得する
/simple/v1/objects/ external-path-groups/<オブ ジェクト ID >	GET	同期	特定の外部パスグループの情報を取得する

オブジェクトタイプ external-parity-groups のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/ external-parity-groups	GET	同期	外部パリティグループの情報を取得する
/simple/v1/objects/ external-parity-groups/<オブ ジェクト ID >	GET	同期	特定の外部パリティグループの情報を取得する

オブジェクトタイプ external-volumes のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/ external-volumes	GET	同期	外部ボリュームの情報を取得する
	POST	非同期	外部ボリュームを作成する
/simple/v1/objects/ external-volumes/<オブ ジェクト ID >	GET	同期	特定の外部ボリュームの情報を取得する
	PATCH	同期	外部ボリュームのニックネームを変更する

オブジェクトタイプ health-status のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/health-status	GET	同期	ストレージリソースの稼働状態の情報を取得する

オブジェクトタイプ pools のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/pools	GET	同期	プールの情報を取得する
	POST	非同期	プールを作成する
/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID >	GET	同期	特定のプールの情報を取得する
	PATCH	同期	プールの設定を変更する
	DELETE	非同期	プールを削除する
/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID >/actions/expand/invoke	POST	非同期	プールにドライブを追加する

オブジェクトタイプ ports のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/ports	GET	同期	ポートの情報を取得する
/simple/v1/objects/ports/<オブジェクト ID >	GET	同期	特定のポートの情報を取得する
	PATCH	同期	ポートの設定を変更する

オブジェクトタイプ quorum-disks のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/quorum-disks	POST	非同期	Quorum ディスクの情報を登録する
/simple/v1/objects/quorum-disks <オブジェクト ID >	GET	同期	特定の Quorum ディスクの情報を取得する
	DELETE	非同期	Quorum ディスクの情報を削除する

オブジェクトタイプ servers のリソース一覧

URL の形式 (ベース URL を除く)	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/servers	GET	同期	サーバの情報を取得する
	POST	非同期	サーバを登録する

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >	GET	同期	特定のサーバの情報を取得する
	PATCH	非同期	サーバの設定を変更する
	DELETE	非同期	サーバの情報を削除する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/actions/ add-host-groups/invoke	POST	非同期	サーバにホストグループを追加する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/hbas	GET	同期	HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を取得する
	POST	非同期	HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を追加する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/hbas/<オブ ジェクト ID >	GET	同期	特定のサーバの HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を取得する
	DELETE	非同期	特定のサーバから HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を削除する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/paths	GET	同期	サーバのパス情報を取得する
	POST	非同期	サーバにパス情報を追加する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/paths/<オブ ジェクト ID >	GET	同期	特定のサーバのパス情報を取得する
	DELETE	非同期	サーバからパス情報を削除する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/target- iscsi-ports	GET	同期	iSCSI ターゲットの情報を取得する
/simple/v1/objects/servers/ <オブジェクト ID >/target- iscsi-ports/<オブジェクト ID >	GET	同期	特定の iSCSI ターゲットの情報を取 得する
	PATCH	非同期	iSCSI ターゲットの設定を変更する

オブジェクトタイプ snapshot-groups のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/ snapshot-groups	GET	同期	スナップショットグループ名の一覧 を取得する
/simple/v1/objects/ snapshot-groups/<オブジェクト ID >	GET	同期	特定のスナップショットグループの 情報を取得する
	DELETE	非同期	スナップショットグループを削除す る

オブジェクトタイプ snapshots のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/	GET	同期	スナップショットの情報を取得する

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
snapshots	POST	非同期	スナップショットを作成する
/simple/v1/objects/ snapshots/<オブジェクト ID >	GET	同期	特定のスナップショットの情報を取得する
	DELETE	非同期	スナップショットを削除する
/simple/v1/objects/ snapshots/<オブジェクト ID >/ actions/map/invoke	POST	非同期	スナップショットをマッピングする
/simple/v1/objects/ snapshots/<オブジェクト ID >/ actions/restore/invoke	POST	非同期	スナップショットをリストアする

オブジェクトタイプ storages のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/storages	GET	同期	ストレージシステムの情報を取得する

オブジェクトタイプ volumes のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/volumes	GET	同期	ボリュームの情報を取得する
	POST	非同期	ボリュームを作成する
/simple/v1/objects/volumes/ <オブジェクト ID >	GET	同期	特定のボリュームの情報を取得する
	PATCH	- 同期 - 非同期	ボリュームの設定を変更する
	DELETE	非同期	ボリュームを削除する
/simple/v1/objects/volumes/ <オブジェクト ID >/actions/ expand/invoke	POST	同期	ボリュームの容量を拡張する

オブジェクトタイプ volume-server-connections のリソース一覧

URL の形式（ベース URL を除く）	HTTP メソッド	処理方式	操作の内容
/simple/v1/objects/volume- server-connections	GET	同期	ボリュームとサーバの接続情報を取得する
	POST	非同期	ボリュームとサーバを接続する
/simple/v1/objects/volume- server-connections/<オブジェ クト ID >	GET	同期	ボリュームと特定のサーバの接続情報を取得する
	DELETE	非同期	ボリュームと特定のサーバの接続を解除する

REST API の処理方式には、次に示す 2 つの処理方式があります。

- 同期処理
処理の実行結果がレスポンスとして返ります。
- 非同期処理
処理を受け付けたことを表す HTTP ステータスコード (202) とともにオブジェクトの情報がレスポンスとして返ります。



メモ

複数のリクエストを同時に実行できるのは 16 個までです。

関連参照

- [11.6 サポートする HTTP メソッド](#)
- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

11.5 オブジェクト ID の指定方法

オブジェクト ID は、リソースを一意に識別するための ID です。

URL で特定のリソースを指定する場合に使用します。オブジェクト ID を指定するには、GET 操作を実行して、実行結果からオブジェクト ID を取得します。

例：ボリュームのオブジェクト ID が「100」の場合

```
volumes/100
```



メモ

GET 操作でオブジェクト ID を取得した属性値に、RFC3986 で定められた予約文字を含む場合、REST API サーバはエンコード済みの値を返します。GET 操作で取得したオブジェクト ID を別の操作のリクエストに使用する場合は、オブジェクト ID をデコードしないでそのまま使用してください。

11.6 サポートする HTTP メソッド

リソースに対する操作を HTTP メソッドで指定します。

REST API では、次に示す HTTP メソッドをサポートしています。

HTTP メソッド	説明
GET	オブジェクトの情報を取得する。またはオブジェクトのリストを取得する。 例：プールの一覧を取得する。 複数のオブジェクトの情報を取得する場合、取得される情報はオブジェクト ID (例えば、id (プール ID やボリューム ID など)) でソートされていません。クエリパラメータを指定して取得する情報をフィルタリングするか、取得するオブジェクト ID が特定できている場合は、特定のオブジェクト情報を取得する API を実行して取得してください。
POST	オブジェクトを新規に作成、追加、拡張などの操作をする。 例：プールを作成する。
PATCH	オブジェクトの属性や状態を部分的に変更する。 例：プールのしきい値を変更する。
DELETE	オブジェクトを削除する。

HTTP メソッド	説明
	プールを削除する。

オブジェクトによって、使用できるメソッドが異なります。詳細は、各 API の説明を参照してください。

関連参照

- [11.4 管理対象のリソースの指定 \(URL\)](#)

11.7 ユーザ認証

ストレージシステムに対する操作を実行する場合、ユーザ認証が必要です。ユーザ認証を行うには、Authorization ヘッダを指定します。

ユーザ ID とパスワードによる認証

Authorization ヘッダに、次の形式で認証情報を指定します。

```
Authorization: Basic <認証情報>
```

認証情報

ユーザ ID とパスワードをコロン (:) でつないだ文字列を Base64 でエンコードした文字列を指定します。ストレージシステムのリソースを操作できるユーザアカウントのユーザ ID とパスワードを使用してください。

REST API では、ユーザ ID とパスワードに次の文字を使用できます。

項目	文字数	使用できる文字
ユーザ ID	1～63 文字	- 半角英数字 - 次の半角記号 - . / @ _
パスワード	6～63 文字	- 半角英数字 - 次の半角記号 , - . / @ _

ユーザ ID が sample-user、パスワードが sample-password の場合の Authorization ヘッダの例を次に示します。

```
Authorization: Basic c2FtcGx1LXVzZXI6c2FtcGx1LXBhc3N3b3Jk
```

セッションによる認証

Authorization ヘッダに、次の形式でセッションのトークンを指定します。

```
Authorization: Session <トークン>
```

トークン

トークンは、セッションを生成すると返却される認証情報です。この情報を基に、リクエストが認証済みユーザから発行されたかどうかを判定します。

Authorization ヘッダの指定例：

```
Authorization : Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3
```

REST API では、セッションベースのユーザ認証を行います。REST API クライアントが REST API サーバにアクセスして操作を開始する際には、必ず最初にセッションを生成します。セッション生成のリクエストでは、ストレージシステムにアクセスするためのユーザ ID とパスワードによる認証を行います。セッション生成後は、セッションの情報を Authorization ヘッダに指定し、セッションの情報に基づいて認証を行います。セッションを生成する API の操作方法については、マニュアル『REST API リファレンスガイド』を参照してください。

リクエストライン：

```
POST <ベース URL >/v1/objects/sessions
```

レスポンスメッセージ：

```
{
  "token": "b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3",
  "sessionId": 3
}
```

関連参照

- [11.8 リクエストヘッダ](#)

11.8 リクエストヘッダ

リクエストヘッダは、REST API クライアントから REST API サーバへの要求メッセージです。

REST API でサポートするリクエストヘッダについて説明します。

ヘッダ	指定区分	説明
Accept	任意	レスポンスのメディアタイプを指定するヘッダです。 指定できる値：*/* (json) デフォルト値：*/* (json)
Accept-Language	任意	クライアントが受け付けるメッセージの言語を指定するヘッダです。 日本語の言語を設定する場合は ja を指定します。日本語以外の言語を指定した場合、またはこのヘッダを指定しないときの言語は、英語 (en) となります。
Content-Type	任意	リクエストボディのメディアタイプを指定するヘッダです。 指定できる値：application/json デフォルト値：application/json
Content-Length	任意	クエストボディのサイズを指定するヘッダです。 リクエストボディを指定する場合に Content-Length ヘッダを指定できます。クライアントソフトウェアの仕様によっては、自動的に付与されます。 指定できる値：バイト単位で指定します。 デフォルト値：なし
Authorization	必須	認証情報を指定するヘッダです。 次のどちらかの形式で指定します。 • セッション生成時

ヘッダ	指定区分	説明
		Basic <認証情報> 認証情報はユーザ ID とパスワードを Base64 でエンコードした文字列を指定してください。ストレージシステムのリソースを操作できるユーザアカウントのユーザ ID とパスワードを使用してください。 セッション生成時以外 Session <トークン> セッション生成時に取得したトークンを指定してください。

上記以外のヘッダが指定された場合、そのヘッダは無視されます。

関連参照

- 11.7 ユーザ認証

11.9 レスポンスヘッダ

レスポンスヘッダは、REST API サーバから REST API クライアントへの応答メッセージです。

REST API サーバが返すレスポンスヘッダについて説明します。

ヘッダ	説明
Content-Type	レスポンスデータのメディアタイプを示します。 デフォルト: application/json;charset=UTF-8
WWW-Authenticate	HTTP ステータスコード 401 が返される場合に、認証が必要であることを示します。 デフォルト: - ユーザ ID とパスワードによる認証 Basic realm="Block storage" - セッションによる認証 Session realm="Block storage"

11.10 HTTP ステータスコード

REST API は、処理結果を示すために次に示す標準的な HTTP のステータスコードを使用します。

HTTP ステータスコード	説明
200	OK リクエストが正しく処理されました。
202	Accepted 非同期処理のリクエストの受け付けが完了したことを示します。
400	Bad Request リクエストヘッダ、クエリパラメータ、またはリクエストボディが不正であることを示します。
401	Unauthorized リクエストヘッダに Authorization ヘッダが指定されていない、または Authorization ヘッダに指定された情報での認証に失敗したことを示します。
403	Forbidden

HTTP ステータスコード	説明
	操作を実行するために必要な権限がないことを示します。
404	Not Found URL で指定したリソースが見つからない、または指定した URL にリソースがないことを示します。
406	Not acceptable Accept ヘッダに、サポートしていないメディアタイプが指定されたことを示します。
415	Unsupported Media Type 指定されたメディアタイプはサポートされていないことを示します。
500	Internal Server Error サーバで内部エラーが発生したことを示します。最も重要なエラーが代表として返却されます。 複数のリソースを操作する API を実行した場合、一部だけ情報が取得できている、または操作が一部だけ完了しているときは、次に示す属性が出力されます。 partialSuccessResponses 出力される内容は操作した HTTP メソッドの種類によって異なります。 - GET メソッドを操作した場合 取得できている情報（データオブジェクト）が出力されます。 - POST メソッドを操作した場合 実行結果（statusResource）が出力されます。
503	Service Unavailable サービスが、ビジー状態またはメンテナンスなどで一時的に使用できないことを示します。最も重要なエラーが代表として返却されます。 複数のリソースを操作する API を実行した場合、一部だけ情報が取得できている、または操作が一部だけ完了しているときは、次に示す属性が出力されます。 partialSuccessResponses 出力される内容は操作した HTTP メソッドの種類によって異なります。 - GET メソッドを操作した場合 取得できている情報（データオブジェクト）が出力されます。 - POST メソッドを操作した場合 実行結果（statusResource）が出力されます。
504	Gateway Timeout 装置から時間内に応答がないことを示します。最も重要なエラーが代表として返却されます。 複数のリソースを操作する API を実行した場合、一部だけ情報が取得できている、または操作が一部だけ完了しているときは、次に示す属性が出力されます。 partialSuccessResponses 出力される内容は操作した HTTP メソッドの種類によって異なります。 - GET メソッドを操作した場合 取得できている情報（データオブジェクト）が出力されます。 - POST メソッドを操作した場合 実行結果（statusResource）が出力されます。

関連参照

- [11.15 データオブジェクト](#)
- [11.17 エラーオブジェクト](#)

11.11 リクエストおよびレスポンスのフォーマット

リソースの作成や追加 (POST)、変更時の属性値の指定 (PATCH)、またはリソースの情報取得 (GET) の結果には、JSON のフォーマットを使用します。

サポートする文字コードは UTF-8 です。

リクエストの形式

- string 型の属性に空文字を指定した場合は、その属性の値は空になります。
- string 型以外の属性に空文字を指定した場合は、その属性は指定していないものと見なされます。

レスポンスの形式

- API の処理が成功した場合、レスポンスは JSON 形式で返ります。
- 処理が失敗した場合、エラーの内容によっては JSON 形式ではなく HTML 形式でレスポンスが返る場合があります。
プログラム中で HTTP ステータスコードを基にエラー処理を行う場合には、レスポンスヘッダの Content-Type の値をチェックしてください。

11.12 クエリパラメータ

GET メソッドでオブジェクトを取得する際に、クエリパラメータを指定することで特定の条件で実行結果をフィルタリングできます。

クエリパラメータは、URL の末尾に次の形式で指定します。

?<パラメータ>=<値>

複数のパラメータを指定する場合、&記号でつないで指定します。複数のパラメータを指定する場合の例を次に示します。

?<パラメータ>=<値>&<パラメータ>=<値>...

パラメータは大文字と小文字が区別されます。各 API で指定できるパラメータ以外を指定した場合、無効なパラメータは指定されなかったものとみなし、有効なパラメータだけで実行結果がフィルタリングされます。

11.13 データ型

REST API で指定できるデータの型について説明します。

REST API がサポートするデータ型と対応する JSON のデータ型を次に示します。

データ型	JSON のデータ型	説明
boolean	boolean	true または false を表す型。 大文字と小文字は区別されません。 例: true
int	number	32 ビットの符号付き整数を表す型。 例: 100

データ型	JSON のデータ型	説明
long	number	64 ビットの符号付き整数を表す型。 例：1048576
string	string	任意の文字列を表す型。 例："DKR5D-J900SS"
ISO8601string	string	ISO 8601 拡張形式（YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ）で時刻を表す型。 指定できるタイムゾーンは UTC だけです。 例："2017-09-30T09:27:35Z"

上記のデータ型以外に、JSON 形式の次のデータ型を使用します。

object 型

属性と値をコロン (:) でつないだ文字列を {} で囲む形式です。属性と値のペアが複数ある場合は、コンマで区切ります。

array 型

複数の値をコンマで区切った文字列を [] で囲む形式です。

関連参照

- [11.4 管理対象のリソースの指定 \(URL\)](#)
- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

11.14 出力形式

API を発行すると、API の処理方式、API の処理種別、実行結果に応じてレスポンスが返ります。

リクエストの処理が成功した場合のレスポンスの出力形式について次に示します。

API の処理方式	API の処理種別	実行結果のステータスコード	出力形式
同期処理	GET (単一のオブジェクトの取得)	200	各 API のレスポンスメッセージの説明を参照
	GET (複数のオブジェクトの取得)	200	データオブジェクト
	上記以外	200	各 API のレスポンスメッセージの説明を参照
非同期処理	すべて	202	commandStatus オブジェクト

リクエストの処理が失敗した場合は、レスポンスとしてエラーオブジェクトが返ります。

関連参照

- [11.4 管理対象のリソースの指定 \(URL\)](#)
- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

11.15 データオブジェクト

データオブジェクトは、オブジェクトのリストを返すためのオブジェクトです。

データオブジェクトのスキーマを次に示します。

属性	データ型	説明
data	array	オブジェクトのリスト

データオブジェクトと合わせて次の属性が出力されます。

属性	データ型	説明
count	int	オブジェクトの情報の格納数
totalCount	int	ストレージシステム内のデータ総数 この属性は、次に示す API を実行した場合に出力されます。 • ボリュームの情報を取得する • ボリュームとサーバの接続情報を取得する • 外部ボリュームの情報を取得する • 外部パリティグループの情報を取得する • 外部パスグループの情報を取得する • スナップショットの情報を取得する • 特定のスナップショットグループの情報を取得する
hasNext	boolean	取得できていない情報があるかどうか出力されます。 • true : 取得できていない情報がある • false : すべての情報が取得できている 取得できていない情報がある場合、クエリパラメータを指定して取得する情報をフィルタリングするか、取得できている情報のうち、最大の ID（例えば、ボリューム ID やスナップショットの ID など）以降を複数回に分けて API を実行し取得してください。 この属性は、次に示す API を実行した場合に出力されます。 • ボリュームの情報を取得する • ボリュームとサーバの接続情報を取得する • 外部ボリュームの情報を取得する • 外部パリティグループの情報を取得する • 外部パスグループの情報を取得する • スナップショットの情報を取得する • 特定のスナップショットグループの情報を取得する

data オブジェクトの例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": 100,
      "nickname": "JH-26216_DP",
      "poolId": 63,
      "poolName": "NASOS",
      "totalCapacity": 1024,
      "freeCapacity": 982,
    }
  ]
}
```

```

      "numberOfConnectingServers": 2,
      "numberOfSnapshots": 2
    },
    {
      "id": 101,
      "nickname": "JH-26216_DP",
      "poolId": 63,
      "poolName": "NASOS",
      "totalCapacity": 1024,
      "freeCapacity": 1024,
      "numberOfConnectingServers": 2,
      "numberOfSnapshots": 2
    }
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}

```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.14 出力形式](#)

11.16 commandStatus オブジェクト

commandStatus オブジェクトは、非同期処理の API を発行したときに返却される API のステータス情報のオブジェクトです。

commandStatus オブジェクトのスキーマを次に示します。

属性	データ型	説明
progress	string	API の進捗状況 次の値が返ります。 - unexecuted : API が未実行であることを示す - processing : API が実行中であることを示す - completed : API が実行完了したことを示す
status	string	API の実行結果の状態 次の値が返ります。 - normal : API が成功した状態を示す - error : API が失敗した状態を示す この属性は、API の実行が完了した場合に出力されます。
affectedResources	string[]	操作対象のリソースにアクセスするための URL の一覧 1 つの API で複数のリソースを操作する場合は、すべての操作対象のリソースの URL が返ります。API が途中で失敗した場合は、処理が完了したことを確認できたリソースの URL だけが返ります。 リソースの削除操作が成功した場合、削除対象のリソースの URL が返ります。この URL にアクセスすると 404 エラーとなり、正常に削除されたことが確認できます。 この属性は、API の実行が完了した場合に出力されます。
error	Error Object	エラーの情報を保持するオブジェクト この属性は、API の実行が失敗した場合に出力されます。
operationDetails	object[]	操作対象のリソースの詳細情報 リソース種別を示すリソースに対して操作している場合に出力されます。

属性	データ型	説明
		- operationType (string) リソースに対する操作種別 - CREATE: リソースが作成されたことを示す - UPDATE: リソースが変更されたことを示す - DELETE: リソースが削除されたことを示す - resourceType (string) 作成、変更、または削除が発生したリソースのリソース種別 - CommandStatus: 非同期処理の API のステータス情報に関するリソースであることを示す - Pool: プールに関するリソースであることを示す - Port: ポートに関するリソースであることを示す - Server: サーバに関するリソースであることを示す - Snapshot: スナップショットに関するリソースであることを示す - Volume: ボリュームに関するリソースであることを示す - VolumeServerConnection: ボリュームとサーバの接続に関するリソースであることを示す - ExternalVolume: 外部ボリュームに関するリソースであることを示す - resourceId (string) 作成、変更、または削除が発生したリソースのリソース ID



メモ

- オブジェクトの情報は最大で 65280 件保持されます。65280 件を超えた API のステータス情報は、非同期処理の API のステータス情報を削除する API を実行してオブジェクトの情報を削除してください。
- セッションがログアウトされた場合もオブジェクトの情報は削除されます。

API の実行を開始した場合の commandStatus オブジェクト例：

```
{
  "progress": "processing"
}
```

API が成功して完了した場合の commandStatus オブジェクトの例：

```
{
  "progress": "completed",
  "status": "normal",
  "affectedResources": [
    "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100"
  ],
  "operationDetails": [
    {
      "operationType": "CREATE",
      "resourceType": "Volume",
      "resourceId": "100"
    }
  ]
}
```

API が失敗して完了した場合の `commandStatus` オブジェクトの例：

```
{
  "progress": "completed",
  "status": "error",
  "errorResource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63",
  "errorCode": {
    "SSB1": "2e11",
    "SSB2": "001f"
  },
  "errorMessage": "Snapshot or volume exists. Operation could not be completed.",
  "operationDetails": [
    {
      "operationType": "DELETE",
      "resourceType": "Pool",
      "resourceId": "63"
    }
  ]
}
```

関連参照

- [11.17 エラーオブジェクト](#)
- [12.2 非同期処理の API のステータス情報を削除する](#)

11.17 エラーオブジェクト

リクエストに対してエラーが発生した場合、HTTP ステータスコードとともに、エラーオブジェクトが返却されます。

エラーオブジェクトのスキーマを次の表に示します。

属性	データ型	説明
<code>errorSource</code>	string	エラーが発生した URL
<code>messageId</code>	string	メッセージ ID
<code>message</code>	string	エラーメッセージの内容
<code>cause</code>	string	エラーの要因
<code>solution</code>	string	エラーの対処
<code>errorCode</code>	string	ストレージシステムのエラーコード ストレージシステムでエラーが発生して、次に示すエラーコードがある場合にだけ値が返ります。 • SSB1 コード • SSB2 コード ストレージシステムのエラーコードは、ストレージシステムの保守に必要になります。
<code>partialSuccessResponses</code>	string	エラーが発生しているが、一部だけ情報が取得できている、または操作が一部だけ完了している場合に値が返ります。

ストレージシステムでエラーが発生した場合のエラーオブジェクトの例：

```
{
  "errorSource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100/actions/expand/invoke",
  "messageId": "KART70000-E",
  "message": "The specified volume is being used by another program product, or format in progress. Operation could not be completed. Wait
```

```
for a while and try again. Confirm the volume is not in use by other
program product.",
  "errorCode": {
    "SSB1": "B96B",
    "SSB2": "AF2E"
  }
}
```

ストレージシステムでエラーが発生したが、操作が一部だけ完了している場合のエラーオブジェクトの例：

```
{
  "errorResponses": [
    {
      "errorSource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots",
      "messageId": "KART70000-E",
      "message": "The specified volume does not exist. Check the
parameter and try again. If this problem occurs repeatedly, contact
customer support.",
      "errorCode": {
        "SSB1": "2E20",
        "SSB2": "0000"
      }
    }
  ],
  "partialSuccessResponses": [
    {
      "statusResource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/command-
status/3"
    }
  ]
}
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

REST API で共通の操作

この章では、非同期処理の API のステータス情報取得やステータス情報の削除など、REST API で共通の操作について説明します。

- 12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する
- 12.2 非同期処理の API のステータス情報を削除する

12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する

非同期処理の API のステータス情報を取得します。リクエストの `Authorization` ヘッダには、非同期処理の API の実行時に使用したセッションのトークンを指定してください。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/command-status/<オブジェクト ID>
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

非同期処理の API を実行したときに返却された `statusResource` の URL の最後に出力されている数値を指定します。

返却された `statusResource` の例：

```
"statusResource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/command-status/3"
```

属性	型	説明
id	int	(必須) 非同期処理の API の実行結果問い合わせ用 ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

ボリュームを作成する API を実行した場合の例：

```
{
  "progress": "completed",
  "status": "normal",
  "affectedResources": [
    "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100"
  ],
  "operationDetails": [
    {
      "operationType": "CREATE",
      "resourceType": "Volume",
      "resourceId": "100"
    }
  ]
}
```

プールを削除する API を実行して失敗した場合の例：

```
{
  "progress": "completed",
  "status": "error",
  "errorResource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63",
  "errorCode": {
    "SSB1": "2e11",
    "SSB2": "001f"
  },
  "errorMessage": "Snapshot or volume exists. Operation could not be completed.",
  "operationDetails": [
    {
      "operationType": "DELETE",
      "resourceType": "Pool",
      "resourceId": "63"
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
progress	string	API の進捗状況 - unexecuted : API が未実行であることを示す - processing : API が実行中であることを示す - completed : API が実行完了したことを示す
status	string	API の実行結果の状態 - normal : API が成功した状態を示す - error : API が失敗した状態を示す この属性は、API の実行が完了した場合に出力されます。
affectedResources	string[]	操作対象のリソースにアクセスするための URL の一覧 1 つの API で複数のリソースを操作した場合は、すべての操作対象のリソースの URL が返ります。API が途中で失敗した場合は、処理が完了したことを確認できたリソースの URL だけが返ります。 リソースの削除操作が成功した場合、削除対象のリソースの URL が返ります。この URL にアクセスすると 404 エラーとなり、正常に削除されたことが確認できます。この属性は、API の実行が成功した場合に出力されます。
errorResource	string	エラーが発生した URL この属性は、API の実行が失敗した場合に出力されます。
errorCode	object	ストレージシステムのエラーコード ストレージシステムでエラーが発生して、次に示すエラーコードがある場合にだけ値が返ります。 - SSB1 コード - SSB2 コード ストレージシステムのエラーコードは、ストレージシステムの保守に必要になります。この属性は、API の実行が失敗した場合に出力されます。
errorMessage	string	エラーメッセージの内容 この属性は、API の実行が失敗した場合に出力されます。
operationDetails	object[]	操作対象のリソースの詳細情報 リソース種別に示すリソースに対して操作している場合に出力されます。

属性	型	説明
		- operationType (string) リソースに対する操作種別 - CREATE: リソースが作成されたことを示す - UPDATE: リソースが変更されたことを示す - DELETE: リソースが削除されたことを示す - resourceType (string) 作成、変更、または削除が発生したリソースのリソース種別 - CommandStatus: 非同期処理の API のステータス情報に関するリソースであることを示す - Pool: プールに関するリソースであることを示す - Port: ポートに関するリソースであることを示す - Server: サーバに関するリソースであることを示す - Snapshot: スナップショットに関するリソースであることを示す - Volume: ボリュームに関するリソースであることを示す - VolumeServerConnection: ボリュームとサーバの接続に関するリソースであることを示す - ExternalVolume: 外部ボリュームに関するリソースであることを示す - resourceId (string) 作成、変更、または削除が発生したリソースのリソース ID

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/command-status/3
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.16 commandStatus オブジェクト](#)

12.2 非同期処理の API のステータス情報を削除する

非同期処理の API のステータス情報を削除します。

実行権限

ストレージ管理者（システムリソース管理）

リクエストライン

DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/command-status/<オブジェクト ID >

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

非同期処理の API を実行したときに返却された statusResource の URL の最後に出力されている数値を指定します。

返却された statusResource の例：

```
"statusResource": "/ConfigurationManager/simple/v1/objects/command-status/3"
```

属性	型	説明
id	int	（必須）非同期処理の API の実行結果問い合わせ用 ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
affectedResources	string[]	削除した API のステータス情報を参照するための URL の一覧
operationDetails	object[]	ステータス情報を削除したリソースの詳細情報 詳細については、commandStatus オブジェクトの属性 operationDetails の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/command-status/3
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.16 commandStatus オブジェクト](#)

ストレージシステム全体の操作（REST API）

この章では、ストレージシステムのさまざまな情報や、プールおよびスナップショットの稼働状況の情報などストレージシステム全体の操作について説明します。

- 13.1 ストレージシステムの情報を取得する
- 13.2 スナップショットとプールの稼働状態の情報を取得する

13.1 ストレージシステムの情報を取得する

ストレージシステムに関する情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/storage
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "modelName": "VSP G700",
  "serial": "123456",
  "nickname": "VSP G700 #1",
  "numberOfTotalVolumes": 2,
  "numberOfFreeDrives": 0,
  "numberOfTotalServers": 2,
  "totalPhysicalCapacity": 4119873,
  "totalPoolCapacity": 2996994,
  "usedPoolCapacity": 38,
  "freePoolCapacity": 2996956,
  "savingEffects": {
    "efficiencyDataReduction": 105,
    "preCapacityDataReduction": 40,
    "postCapacityDataReduction": 38,
    "efficiencyFmdSaving": 0,
    "preCapacityFmdSaving": 0,
    "postCapacityFmdSaving": 0
  },
  "gumVersion": "88-02-00/23",
  "dkcMicroVersion": "88-02-00-60/22",
  "warningLedStatus": "OFF",
  "ipAddressIpv4Ctl1": "192.0.2.100",
  "ipAddressIpv4Ctl2": "192.0.2.101",
  "ipAddressIpv6Ctl1": "0:0:0:0:ffff:c000:264",
  "ipAddressIpv6Ctl2": "0:0:0:0:ffff:c000:265"
}
```

属性	型	説明
modelName	string	ストレージシステムのモデル名

属性	型	説明
serial	string	ストレージシステムのシリアル番号
nickname	string	ストレージシステムのニックネーム
numberOfTotalVolumes	int	作成済みのボリューム数
numberOfFreeDrives	int	空きドライブ数
numberOfTotalServers	int	登録済みのサーバ数
totalPhysicalCapacity	long	ドライブの総容量 (MiB)
totalPoolCapacity	long	プールの総容量 (MiB)
usedPoolCapacity	long	プールの総使用量 (MiB)
freePoolCapacity	long	プールの総空き容量 (MiB)
savingEffects	object	システム全体に関するさまざまな削減効果の比率や容量の情報が出力されます。 efficiencyDataReduction (int) 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって削減されたシステム全体の削減効果の比率 削減後の値を 100 として計算した削減前の値が出力されます。 (例) 105 (削減前) : 100 (削減後) の場合、 「"efficiencyDataReduction": 105」と出力されます。 削減後の容量には、ユーザデータのほかにストレージシステムが生成するメタデータやガベージデータを含んだ値で計算します。そのため、削減後の値の方が大きくなることがあります。 -1 が出力された場合、その値は無効な情報です。 preCapacityDataReduction (long) 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって削減される前のシステム全体の容量 (MiB) postCapacityDataReduction (long) 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって削減された後のシステム全体の容量 (MiB) 削減後の容量には、ユーザデータのほかにストレージシステムが生成するメタデータやガベージデータを含んだ値で計算します。そのため、削減後の値の方が大きくなることがあります。 efficiencyFmdSaving (int) 容量拡張機能によって削減されたシステム全体の削減効果の比率 削減後の値を 100 として計算した削減前の値が出力されます。 (例) 105 (削減前) : 100 (削減後) の場合、 「"efficiencyFmdSaving": 105」と出力されます。 -1 が出力された場合、その値は無効な情報です。 preCapacityFmdSaving (long) 容量拡張機能によって削減される前のシステム全体の容量 (MiB) postCapacityFmdSaving (long) 容量拡張機能によって削減された後のシステム全体の容量 (MiB)

属性	型	説明
gumVersion	string	GUM のバージョン
dkcMicroVersion	string	ストレージシステムのマイクロコードのバージョン
warningLedStatus	string	ストレージシステムの障害状態 - OFF : 通常 - ON : 障害が発生している - BLINK : 確認できていない SIM がある
ipAddressIpv4Ctl1	string	コントローラ 1 (CTL1) の IPv4 の IP アドレス
ipAddressIpv4Ctl2	string	コントローラ 2 (CTL2) の IPv4 の IP アドレス
ipAddressIpv6Ctl1	string	コントローラ 1 (CTL1) の IPv6 の IP アドレス
ipAddressIpv6Ctl2	string	コントローラ 2 (CTL2) の IPv6 の IP アドレス

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/storage
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード

13.2 スナップショットとプールの稼働状態の情報を取得する

プールおよびスナップショットの状態の情報を取得して、ストレージリソースの稼働状態を確認します。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/health-status
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "poolStatus":{
    "summary":"PartiallyBlocked",
    "abnormalItems":[
      {
        "status":"PartiallyBlocked",
        "poolIds":[
          0
        ]
      },
      {
        "status":"ExceededThreshold",
        "poolIds":[
          0,77,39,26
        ]
      }
    ]
  },
  "snapshotStatus":{
    "summary":"Normal"
  }
}
```

属性	型	説明
poolStatus	object	プールの状態 - summary (string) - Normal : すべてのプールが正常 - ExceededThreshold : プールの使用率がしきい値を超えているプールが1つでもある - PartiallyBlocked : プールを構成するボリュームが一部閉塞しているプールが1つでもある - Error : 満杯でエラー状態のプールが1つでもある - abnormalItems (object[]) 正常でないプールの情報が出力されます。 - status (string) -PartiallyBlocked : プールを構成するボリュームが一部閉塞している -ExceededThreshold: プールの使用率がしきい値を超えている -Error : プールが満杯でエラー状態 - poolIds (int[]) プール ID
snapshotStatus	object	スナップショットの状態 - summary (string) - Normal : すべてのスナップショットが正常 - Error : 障害が発生しているスナップショットが1つでもある - abnormalItems (object[])

属性	型	説明
		正常でないスナップショットの情報が出力されます。 - status (string) -Error: スナップショットに障害が発生している - masterVolumeIds (int[]) スナップショットの作成元ボリューム ID

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/health-status
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

管理リソースの準備とボリューム割り当ての操作（REST API）

この章では、REST API を使用してストレージシステムにサーバの情報を登録、サーバとポート間のパス情報を追加、ドライブを指定してプールを作成したりします。新規にボリュームを作成して、作成済みのボリュームをサーバに割り当てたり、使用率の高いボリュームの容量を拡張、またプールにドライブを追加することでプールの容量を拡張したりする操作について説明します。

- 14.1 ドライブの管理
- 14.2 プールの管理
- 14.3 ポートの管理
- 14.4 サーバの管理
- 14.5 ボリュームの管理

14.1 ドライブの管理

REST API を使用してドライブに関する情報を一覧で取得したり、特定のドライブの情報を取得します。また、複数のドライブをスペアドライブに設定、およびスペアドライブを解除する操作について説明します。

14.1.1 ドライブの情報を取得する

ドライブに関する情報を取得します。ドライブの条件を指定して、絞り込んだ情報を取得することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/drives
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

パラメータ	型	フィルタ条件
poolId	int	(任意) ドライブが属するプール ID poolName と同時に指定しないでください。
poolName	string	(任意) ドライブが属するプール名 指定した値の一部がプール名と一致する場合もドライブの情報が取得されます。 poolId と同時に指定しないでください。poolId を指定している場合、このパラメータは無視されます。
status	string	(任意) 取得するドライブの状態として、次の値を指定します。 - Normal : 正常 - Warning : エラー部位がある状態 - Copying : コピー中 - CopyIncomplete : コピー不完全 - Reserved : スペアドライブが使用できない状態 - Failed : 障害によるエラー状態 - Blocked : 保守によるエラー状態
useOfTheDrive	string	(任意) 取得するドライブの用途として、次の値を指定します。 - data : データドライブ - spare : スペアドライブ - free : 未使用のドライブ

ボディ
なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

プール ID が 63 のプール（クエリパラメータ poolId に 63 を指定）に属するドライブの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "location": "0-0",
      "status": "Normal",
      "typeRpmCapacity": "SAS,10000,600",
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "driveCapacity": 600,
      "typeCode": "DKR5D-J600SS",
      "poolIds": [
        63
      ],
      "useOfTheDrive": "data"
    },
    {
      "location": "0-1",
      "status": "Normal",
      "typeRpmCapacity": "SAS,10000,600",
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "driveCapacity": 600,
      "typeCode": "DKR5D-J600SS",
      "poolIds": [
        63
      ],
      "useOfTheDrive": "data"
    },
    {
      "location": "0-2",
      "status": "Normal",
      "typeRpmCapacity": "SAS,10000,600",
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "driveCapacity": 600,
      "typeCode": "DKR5D-J600SS",
      "poolIds": [
        63
      ],
      "useOfTheDrive": "data"
    },
    {
      "location": "0-3",
      "status": "Normal",
      "typeRpmCapacity": "SAS,10000,600",
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "driveCapacity": 600,
      "typeCode": "DKR5D-J600SS",
      "poolIds": [
        63
      ],
      "useOfTheDrive": "data"
    }
  ],
  "count": 4
}
```

属性	型	説明
location	string	ドライブの位置
status	string	ドライブの状態 - Normal : 正常 - Warning : エラー部位がある状態 - Copying : コピー中 - CopyIncomplete : コピー不完全 - Reserved : スペアドライブが使用できない状態 - Failed : 障害によるエラー状態 - Blocked : 保守によるエラー状態 - Unknown : 状態不明
typeRpmCapacity	string	ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量がコンマで連結した形式で出力されます。
driveType	string	ドライブタイプ - SAS - SSD - FMD DC2
driveRpm	string	ドライブの回転数 (rpm) - NUMBER_0 - NUMBER_7200 - NUMBER_10000 - NUMBER_15000 - High - Middle - Low - Unknown
driveCapacity	int	ドライブの容量 (GB)
typeCode	string	ドライブタイプコード
poolIds	int[]	ドライブが属するプール ID のリスト
useOfTheDrive	string	ドライブの用途 - data : データドライブ - spare : スペアドライブ - free : 未使用のドライブ

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/drives?poolId=63
```


関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.1.2 特定のドライブの情報を取得する

ドライブの位置を指定して、特定のドライブの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/drives/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ドライブの情報取得で取得した location の値を指定します。

属性	型	説明
location	string	(必須) ドライブの位置

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

特定のドライブ（location：0-0）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "location": "0-0",
  "status": "Normal",
  "typeRpmCapacity": "SAS,10000,600",
  "driveType": "SAS",
  "driveRpm": "NUMBER_10000",
  "driveCapacity": 600,
  "typeCode": "DKR5D-J600SS",
  "poolIds": [
    63
  ],
  "useOfTheDrive": "data"
}
```

取得する属性については、ドライブの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/drives/0-0
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.1.1 ドライブの情報を取得する](#)

14.1.3 ドライブをスペアドライブに設定する

ドライブの数を指定して、スペアドライブに設定します。

実行権限

ストレージ管理者（初期設定）

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/drives/actions/set-spare/invoke
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

ドライブタイプコードが DKR5D-J600SS のデータドライブを 4 台スペアドライブに設定する例を次に示します。

```
{
  "additionalSpareDrives": [
    {
      "driveTypeCode": "DKR5D-J600SS",
      "driveCount": 4
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
additionalSpareDrives	object[]	スペアドライブに設定するドライブの情報 • (必須) driveTypeCode (string) ドライブタイプコードを 12 文字で指定します。※ 例: DKR5D-J900SS • (必須) driveCount (int) データドライブの数を 1～1440 までの整数で指定します。

注※

設定するドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が同じでも、ドライブタイプコードが異なる場合があります。どのドライブタイプコードを指定してもドライブの条件に一致するドライブがスペアドライブに設定されます。設定されたドライブの情報は、ドライブの情報を取得する API で確認できます。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	設定したスペアドライブの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/drives/actions/set-spare/invoke
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.1.1 ドライブの情報を取得する](#)

14.1.4 スペアドライブの設定を解除する

ドライブの数を指定して、スペアドライブの設定を解除します。

実行権限

ストレージ管理者（初期設定）

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/drives/actions/release-spare/invoke
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

ドライブタイプコードが DKR5D-J600SS のスペアドライブを 4 台解除する例を示します。

```
{
  "releasedSpareDrives": [
    {
      "driveTypeCode": "DKR5D-J600SS",
      "driveCount": 4
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
releasedSpareDrives	object[]	スペアドライブの設定を解除するドライブの情報 (必須) driveTypeCode (string) ドライブタイプコードを 12 文字で指定します。※ 例: DKR5D-J900SS (必須) driveCount (int) スペアドライブの数を 1~1440 までの整数で指定します。

注※

解除するドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が同じでも、ドライブタイプコードが異なる場合があります。どのドライブタイプコードを指定してもドライブの条件に一致するスペアドライブが解除されます。解除されたドライブの情報は、ドライブの情報を取得する API で確認できます。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	スペアドライブの設定を解除したドライブの実行結果の問い合わせに使用するリクエスト ID



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/drives/actions/release-spare/invoke
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.1.1 ドライブの情報を取得する](#)

14.2 プールの管理

REST API を使用してプールに関する情報を取得したり、特定のプールに関する詳細な情報を取得します。ドライブを指定してプールを作成したり、プールにドライブを追加することでプールの容量を拡張する操作について説明します。

14.2.1 プールの情報を取得する

プールに関する情報を取得します。プールの条件を指定して、絞り込んだ情報を取得することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/pools
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

パラメータ	型	フィルタ条件
name	string	(任意) プール名 指定した値の一部がプール名と一致する場合もプールの情報が取得されます。
status	string	(任意) 取得するプールの状態として、次の値を指定します。 • Normal : 正常 • ExceededThreshold : プールの使用率がしきい値を超えている • Error : プールが満杯でエラー状態
configStatus	string	(任意) 取得するプールを構成するボリュームの状態として、PartiallyBlocked（プールを構成するボリュームが一部閉塞している）を指定します。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "data": [
    {
      "id": 63,
      "name": "NASOS",
      "status": "Normal",
      "totalCapacity": 2996994,
      "usedCapacity": 38,
      "freeCapacity": 2996956,
      "capacityManage": {
        "usedCapacityRate": 0,
        "thresholdWarning": 70,
        "thresholdDepletion": 80
      },
      "savingEffects": {
        "efficiencyDataReduction": 105,
        "efficiencyFmdSaving": 0,
        "preCapacityFmdSaving": 0,
        "postCapacityFmdSaving": 0
      },
      "configStatus": [],
      "numberOfVolumes": 2,
      "numberOfTiers": 2,
      "numberOfDriveTypes": 2,
      "tiers": [
        {
          "driveType": "Flash Drive",
          "driveRpm": "NUMBER_0",
          "totalCapacity": 1352148,
          "usedCapacity": 28
        },
        {
          "driveType": "SAS",
          "driveRpm": "NUMBER_10000",
          "totalCapacity": 1644846,
          "usedCapacity": 10
        }
      ]
    }
  ],
  "count": 1
}
```

属性	型	説明
id	int	プール ID
name	string	プール名
status	string	プールの状態 • Normal : 正常 • ExceededThreshold : プールの使用率がしきい値を超えている • Error : プールが満杯でエラー状態
totalCapacity	long	プールの総容量 (MiB)
usedCapacity	long	プールの使用容量 (MiB)
freeCapacity	long	プールの空き容量 (MiB)
capacityManage	object	プールの容量に関する設定情報が出力されます。 • usedCapacityRate (int) プールの使用率 (%)

属性	型	説明
		- thresholdWarning (int) プールの警告しきい値 (%) - thresholdDepletion (int) プールの枯渇しきい値 (%)
savingEffects	object	プールに関する削減効果の比率などの情報が出力されます。 - efficiencyDataReduction (int) 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）によって削減されたプールの削減効果の比率 削減後の値を 100 として計算した削減前の値が出力されます。 (例) 105 (削減前) : 100 (削減後) の場合、 「"efficiencyDataReduction": 105」と出力されます。 削減後の容量には、ユーザデータのほかにストレージシステムが生成するメタデータやガベージデータを含んだ値で計算します。そのため、削減後の値の方が大きくなる場合があります。 -1 が出力された場合、その値は無効な情報です。 - efficiencyFmdSaving (int) 容量拡張機能によって削減されたプールの削減効果の比率 削減後の値を 100 として計算した削減前の値が出力されます。 (例) 105 (削減前) : 100 (削減後) の場合、 「"efficiencyFmdSaving": 105」と出力されます。 -1 が出力された場合、その値は無効な情報です。 - preCapacityFmdSaving (long) 容量拡張機能によって削減される前のプールの容量 - postCapacityFmdSaving (long) 容量拡張機能によって削減された後のプールの容量
configStatus	string[]	プールを構成するボリュームの状態 PartiallyBlocked: プールを構成するボリュームが一部閉塞している
numberOfVolumes	int	プールに関連づけられたボリュームの数
numberOfTiers	int	プールを構成する階層の数
numberOfDriveTypes	int	ドライブタイプの数
tiers	object[]	階層に関する次の属性が、階層ごとに出力されます。 - driveType (string) 次に示すドライブタイプが出力されます。 - Flash Drive - SAS - SATA - External Storage - Mixed - Unknown - driveRpm (string)

属性	型	説明
		ドライブの毎分回転数 • totalCapacity (long) 階層の総容量 (MiB) • usedCapacity (long) 階層の使用済み容量 (MiB)

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.2.2 特定のプールの情報を取得する

プール ID を指定して、特定のプールの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

プールの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) プール ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

プール ID が 63 のプールの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": 63,
  "name": "NASOS",
  "status": "Normal",
  "totalCapacity": 2996994,
  "usedCapacity": 38,
  "freeCapacity": 2996956,
  "capacityManage": {
    "usedCapacityRate": 0,
    "thresholdWarning": 70,
    "thresholdDepletion": 80
  },
  "savingEffects": {
    "efficiencyDataReduction": 105,
    "efficiencyFmdSaving": 0,
    "preCapacityFmdSaving": 0,
    "postCapacityFmdSaving": 0
  },
  "configStatus": [],
  "numberOfVolumes": 2,
  "numberOfTiers": 2,
  "numberOfDriveTypes": 2,
  "tiers": [
    {
      "driveType": "Flash Drive",
      "driveRpm": "NUMBER_0",
      "totalCapacity": 1352148,
      "freeCapacity": 1352110
    },
    {
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "totalCapacity": 1644846,
      "freeCapacity": 1644846
    }
  ],
  "drives": [
    {
      "driveType": "SAS",
      "driveRpm": "NUMBER_10000",
      "driveCapacity": 600,
      "totalCapacity": 2400,
      "numberOfDrives": 4,
      "locations": [
        "0-0",
        "0-1",
        "0-2",
        "0-3"
      ],
      "raidLevel": "RAID5"
    },
    {
      "driveType": "SSD",
      "driveRpm": "NUMBER_0",
      "driveCapacity": 480,
      "totalCapacity": 1920,
      "numberOfDrives": 4,
      "locations": [
        "1-0",
        "1-1",
        "1-2",
        "1-3"
      ],
      "raidLevel": "RAID5"
    }
  ],
}
```

```
]
}
```

取得する属性については、プールの情報を取得する場合の属性に加えて、次に示す属性が取得されます。

属性	型	説明
drives	object[]	ドライブに関する情報が出力されます。 - driveType (string) ドライブタイプ - SAS - SSD - FMD DC2 - driveRpm (string) ドライブの回転数 (rpm) - NUMBER_0 - NUMBER_7200 - NUMBER_10000 - NUMBER_15000 - High - Middle - Low - Unknown - driveCapacity (int) ドライブの容量 (GB) - totalCapacity (long) ドライブの総容量 (MiB) - numberOfDrives (int) プールに属しているドライブタイプのドライブ数 - locations (string[]) ドライブの位置 - raidLevel (string) RAID レベル - RAID1 - RAID5 - RAID6 - Mixed

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.2.1 プールの情報を取得する](#)

14.2.3 プールを作成する

プール名とドライブ情報を指定して、プールを作成します。

Dynamic Tiering のライセンスが有効なストレージシステムの場合、ドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が異なるドライブを同時に指定すると、性能順に階層構造を持つプールが作成されます。階層構造を持つプールではアクセス頻度などに応じて、自動的にデータが最適な階層に格納されます。



注意

プールにスナップショットの差分データを格納する場合、プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成したスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。枯渇しきい値を変更したい場合は、プールの作成後にプールの設定を変更してください。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

POST <ベース URL >/simple/v1/objects/pools

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

プール名とドライブ情報を次のとおり指定してプールを作成する例を次に示します。

- プール名：NASOS
- ドライブタイプコード：DKR5D-J600SS
- データドライブの数：4
- RAID レベル：RAID5

```
{
  "name": "NASOS",
  "drives": [
    {
      "driveTypeCode": "DKR5D-J600SS",
      "dataDriveCount": 4,
      "raidLevel": "RAID5"
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
name	string	(必須) プール名を 1～32 文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字を区別します。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。
drives	object[]	プールに使用するドライブ情報を指定します。 (必須) driveTypeCode (string) ドライブタイプコードを 12 文字で指定します。※ 例: DKR5D-J900SS (必須) dataDriveCount (int) データドライブの数を 1～1440 までの整数で指定します。 RAID レベルに RAID1 または RAID5 を指定する場合、データドライブの数は最低でも 4 以上を指定してください。 RAID レベルに RAID6 を指定する場合、データドライブの数は最低でも 8 以上を指定してください。 (必須) raidLevel (string) RAID レベル 指定できる値は次のとおりです。 - RAID1 - RAID5 - RAID6

注※

ドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が同じでも、ドライブタイプコードの異なるドライブがストレージシステム内に混在している場合があります。この場合、どのドライブタイプコードを指定してもドライブの条件に一致するドライブを使用してプールが作成されます。
作成されたプールに属するドライブの情報を確認するには、ドライブの情報を取得する API のクエリパラメータにプール ID を指定して実行してください。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	作成したプールの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.1.1 ドライブの情報を取得する](#)
- [14.2.4 プールの設定を変更する](#)

14.2.4 プールの設定を変更する

プール ID を指定して、プールの設定（プール名やしきい値）を変更します。



注意

プールにスナップショットの差分データを格納している場合、プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成したスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。必要に応じて枯渇しきい値を変更してください。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL >/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

プールの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) プール ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

指定した属性だけが変更されます。

プール ID が 63 のプールの、警告しきい値の設定値を 80 および枯渇しきい値の設定値を 90 に変更する例を次に示します。

```
{
  "thresholdWarning": 80,
  "thresholdDepletion": 90
}
```

属性	型	説明
name	string	(任意) プール名を 1～32 文字で指定します。

属性	型	説明
		使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . / : @ ¥ _ 英字は、大文字と小文字を区別します。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。
thresholdWarning	int	(任意) プールの警告しきい値 (%) 1～100 までの整数で指定します。
thresholdDepletion	int	(任意) プールの枯渇しきい値 (%) 1～100 までの整数で指定します。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
affectedResources	string[]	変更したプールの情報を参照するための URL の一覧
operationDetails	object[]	変更したプールの詳細情報 詳細については、commandStatus オブジェクトの属性 operationDetails の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.16 commandStatus オブジェクト](#)
- [14.2.2 特定のプールの情報を取得する](#)

14.2.5 プールを削除する

プール ID を指定して、プールを削除します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

プールの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) プール ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除したプールの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.2.6 プールにドライブを追加する

プール ID を指定して、プールにドライブを追加することでプールの容量を拡張します。

Dynamic Tiering のライセンスが有効なストレージシステムの場合、ドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が異なるドライブが含まれるように指定すると、性能順に階層構造を持つプールに拡張されます。階層構造を持つプールではアクセス頻度などに応じて、自動的にデータが最適な階層に格納されます。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

POST <ベース URL>/simple/v1/objects/pools/<オブジェクト ID>/actions/
expand/invoke

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

プールの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) プール ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

プール ID が 63 のプールに、ドライブタイプコードが SLB5F-M480SS のドライブのデータドライブを 4 台追加する例を示します。

```
{
  "additionalDrives": [
    {
      "driveTypeCode": "SLB5F-M480SS",
      "dataDriveCount": 4,
      "raidLevel": "RAID5"
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
additionalDrives	object[]	プールに追加するドライブの情報 (必須) driveTypeCode (string) ドライブタイプコードを 12 文字で指定します。※ 例: DKR5D-J900SS (必須) dataDriveCount (int) データドライブの数を 1~1440 までの整数で指定します。 RAID レベルに RAID1 または RAID5 を指定する場合、データドライブの数は最低でも 4 以上を指定してください。 RAID レベルに RAID6 を指定する場合、データドライブの数は最低でも 8 以上を指定してください。 (必須) raidLevel (string) 次に示す RAID レベルを指定します。 - RAID1 - RAID5 - RAID6

注※

- ドライブの条件（ドライブタイプ、ドライブの回転数、ドライブの容量）が同じでも、ドライブタイプコードの異なるドライブがストレージシステム内に混在している場合があります。この場合、どのドライブタイプコードを指定してもドライブの条件に一致するドライブが追加されてプールが拡張されます。
プールに追加されたドライブの情報を確認するには、ドライブの情報を取得する API のクエリパラメータにプール ID を指定して実行してください。
- 拡張するプールにスナップショットが作成されている場合、条件が異なるドライブを指定できません。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	ドライブを追加したプールの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/pools/63/actions/expand/invoke
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.1.1 ドライブの情報を取得する](#)

14.3 ポートの管理

REST API を使用してポートに関する情報を一覧で取得したり、特定のポートの情報を取得します。また、ポートに関する設定を変更する操作について説明します。

14.3.1 ポートの情報を取得する

ポートの情報を一覧で取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

GET <ベース URL >/simple/v1/objects/ports

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

パラメータ	型	フィルタ条件
protocol	string	(任意) 取得するプロトコルとして、次の値を指定します。 • FC • iSCSI

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

すべてのポートの情報を取得した場合の出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": "CL1-A",
      "protocol": "FC",
      "portWwn": "50060e80124e3b00",
      "portSpeed": "NUMBER_0",
      "portSecurity": true,
      "fcInformation": {
        "alPa": "EF",
        "fabricSwitchSetting": true,
        "connectionType": "Point_To_Point",
        "sfpDataTransferRate": "NUMBER_16"
      }
    },
    {
      "id": "CL1-B",
      "protocol": "iSCSI",
      "portSpeed": "NUMBER_10",
      "portSecurity": true,
      "iscsiInformation": {
        "vlanUse": false,
        "ipMode": "ipv4",
        "ipv4Information": {
          "address": "192.168.116.19",
          "subnetMask": "255.255.0.0",
          "defaultGateway": "0.0.0.0"
        },
        "ipv6Information": {
          "linklocal": "Auto",
          "linklocalAddress": "fe80::",
          "global": "Auto",
          "globalAddress": "::",
          "defaultGateway": "::"
        }
      },
      "tcpPort": 3260,
      "selectiveAck": true,
      "delayedAck": true,
    }
  ]
}
```

```

        "windowSize": "NUMBER_64K",
        "mtuSize": "NUMBER_1500",
        "keepAliveTimer": 60,
        "isnsServerMode": false,
        "isnsServerIpAddress": "0.0.0.0",
        "isnsServerPort": 3205
    }
],
    "count": 2
}

```

プロトコルが iSCSI（クエリパラメータ protocol に iSCSI を指定）のポートの情報を取得した出力例を次に示します。

```

{
  "data": [
    {
      "id": "CL1-B",
      "protocol": "iSCSI",
      "portSpeed": "NUMBER_10",
      "portSecurity": true,
      "iscsiInformation": {
        "vlanUse": false,
        "ipMode": "ipv4",
        "ipv4Information": {
          "address": "192.168.116.19",
          "subnetMask": "255.255.0.0",
          "defaultGateway": "0.0.0.0"
        },
        "ipv6Information": {
          "linklocal": "Auto",
          "linklocalAddress": "fe80::",
          "global": "Auto",
          "globalAddress": "::",
          "defaultGateway": "::"
        }
      },
      "tcpPort": 3260,
      "selectiveAck": true,
      "delayedAck": true,
      "windowSize": "NUMBER_64K",
      "mtuSize": "NUMBER_1500",
      "keepAliveTimer": 60,
      "isnsServerMode": false,
      "isnsServerIpAddress": "0.0.0.0",
      "isnsServerPort": 3205,
      "virtualPortEnabled": false
    }
  ],
  "count": 1
}

```

属性	型	説明
id	string	ポート ID
protocol	string	プロトコル 次に示す値が出力されます。 - FC - iSCSI
portWwn	string	ポートの WWN プロトコルが FC の場合に、有効な値が出力されます。
portSpeed	string	ポートのデータ転送速度 - NUMBER_0：自動（Auto） - NUMBER_1：1Gbps - NUMBER_2：2Gbps

属性	型	説明
		- NUMBER_4 : 4Gbps - NUMBER_8 : 8Gbps - NUMBER_10 : 10Gbps - NUMBER_16 : 16Gbps - NUMBER_32 : 32Gbps
portSecurity	boolean	ポートのセキュリティの設定が有効かどうか出力されます。 - true : 有効 - false : 無効
fcInformation	object	プロトコルが FC の場合に、FC に関する情報が出力されます。 - alPa (string) ポートのアドレス (AL-PA) - fabricSwitchSetting (boolean) Fabric スイッチの設定の有効/無効 - true : 有効 - false : 無効 - connectionType (string) トポロジ設定 - Point_To_Point - FC_AL - sfpDataTransferRate (string) 転送レート - NUMBER_16 : 16Gbps - NUMBER_32 : 32Gbps
iscsiInformation	object	プロトコルが iSCSI の場合に、iSCSI に関する情報が出力されます。 - vlanUse (boolean) VLAN の有効/無効 - true : 有効 - false : 無効 - vlanId (int) VLAN ID VLAN の設定が有効な場合に出力されます。 - ipMode (string) IP アドレスの形式 - ipv4 - ipv4v6 - ipv4Information (object) IPv4 に対応する情報 - address (string) IP アドレス - subnetMask (string) サブネットマスク

属性	型	説明
		◦ defaultGateway (string) デフォルトゲートウェイのアドレス • ipv6Information (object) IPv6 に対応する情報 ◦ linklocal (string) リンクローカルアドレスの設定方法 • Auto • Manual ◦ linklocalAddress (string) リンクローカルアドレス ◦ global (string) グローバルアドレスの設定方法 • Auto • Manual ◦ globalAddress (string) グローバルアドレス ◦ defaultGateway (string) ゲートウェイアドレス • tcpPort (int) iSCSI 通信時の TCP ポート番号 • selectiveAck (boolean) 選択型 ACK の有効/無効 ◦ true : 有効 ◦ false : 無効 • delayedAck (boolean) 遅延 ACK の有効/無効 ◦ true : 有効 ◦ false : 無効 • windowSize (string) Window サイズの値 • mtuSize (int) MTU サイズの値 • keepAliveTimer (int) iSCSI 通信時の Keep Alive タイマーの設定値 (秒) • isnsServerMode (boolean) iSNS サーバモードの有効/無効 ◦ true : 有効 ◦ false : 無効 • isnsServerIpAddress (string) iSNS サーバの IP アドレス (IPv4 または IPv6) iSNS サーバモードの設定が有効な場合に有効な IP アドレスの値が出力されます。 仮想ポートが有効な場合、この属性は出力されません。 • isnsServerPort (int) iSNS サーバの TCP ポート番号 iSNS サーバモードの設定が有効な場合に有効な TCP ポート番号の値が出力されます。

属性	型	説明
		仮想ポートが有効な場合、この属性は出力されません。 - virtualPortEnabled (boolean) 仮想ポートの有効/無効 - true : 有効 - false : 無効

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/ports
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.3.2 特定のポートの情報を取得する

ポート ID を指定して、特定のポートに関する情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/ports/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ポートの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のポート（ポート ID：CL1-A）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": "CL1-A",
  "protocol": "FC",
  "portWwn": "50060e80124e3b00",
  "portSpeed": "NUMBER_0",
  "portSecurity": true,
  "fcInformation": {
    "alPa": "EF",
    "fabricSwitchSetting": true,
    "connectionType": "Point To Point",
    "sfpDataTransferRate": "NUMBER_16"
  }
}
```

iSCSI 接続のポート（ポート ID：CL1-B）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": "CL1-B",
  "protocol": "iSCSI",
  "portSpeed": "NUMBER_10",
  "portSecurity": true,
  "iscsiInformation": {
    "vlanUse": false,
    "ipMode": "ipv4",
    "ipv4Information": {
      "address": "192.168.116.19",
      "subnetMask": "255.255.0.0",
      "defaultGateway": "0.0.0.0"
    },
    "ipv6Information": {
      "linklocal": "Auto",
      "linklocalAddress": "fe80::",
      "global": "Auto",
      "globalAddress": "::",
      "defaultGateway": "::"
    },
    "tcpPort": 3260,
    "selectiveAck": true,
    "delayedAck": true,
    "windowSize": "NUMBER_64K",
    "mtuSize": "NUMBER_1500",
    "keepAliveTimer": 60,
    "isnsServerMode": false,
    "isnsServerIpAddress": "0.0.0.0",
    "isnsServerPort": 3205,
    "virtualPortEnabled": false
  }
}
```

取得する属性については、ポートの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/ports/CL1-A
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.3.1 ポートの情報を取得する](#)

14.3.3 ポートの設定を変更する

ポート ID を指定して、ポートの設定に関する値を変更します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL >/simple/v1/objects/ports/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ポートの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

指定した属性だけが変更されます。

FC 接続のポート（ポート ID：CL1-A）の設定を次の様に変更する例を示します。

- Fabric スイッチの設定を true に変更
- コネクションタイプを Point_To_Point に変更

```
{
  "fcInformation": {
    "fabricSwitchSetting": true,
    "connectionType": "Point_To_Point"
  }
}
```

iSCSI 接続のポート（ポート ID：CL1-B）の設定を次の様に変更する例を示します。

- IPv6 のリンクローカルアドレスの設定を Auto に変更
- IPv6 のグローバルアドレスの設定 Auto に変更
- 選択型 ACK の設定を true に変更
- MTU サイズの値を NUMBER_4500 に変更

```
{
  "iscsiInformation": {
    "ipv6Information": {
      "linklocal": "Auto",
      "global": "Auto"
    },
    "selectiveAck": true,
  }
}
```



```

"mtuSize": "NUMBER_4500"
}
}

```

属性	型	説明
portSpeed	string	(任意) ポートのデータ転送速度指定できる値は次のとおりです。 - NUMBER_0 : 自動 - NUMBER_1 : 1Gbps - NUMBER_2 : 2Gbps - NUMBER_4 : 4Gbps - NUMBER_8 : 8Gbps - NUMBER_10 : 10Gbps - NUMBER_16 : 16Gbps - NUMBER_32 : 32Gbps iSCSI (Optical) ポートの場合、NUMBER_10 (10Gbps) が固定で設定されます。NUMBER_10 以外の値を指定した場合、その値は無視されます。
portSecurity	boolean	(任意) ポートのセキュリティの設定を有効にするかどうかを指定します。 - true : 有効 - false : 無効
fcInformation	object	FC に関する設定を変更します。プロトコルが FC の場合にだけ指定できます。 (任意) alPa (string) ポートのアドレス (AL-PA) を 2 桁の 16 進数 (01～EF) で指定します。 (任意) fabricSwitchSetting (boolean) Fabric スイッチの設定を有効にするかどうかを指定します。 - true : 有効 - false : 無効 (任意) connectionType (string) コネクションタイプの設定を指定します。 - Point_To_Point - FC_AL
iscsiInformation	object	iSCSI に関する設定を変更します。プロトコルが iSCSI の場合にだけ指定できます。 (任意) vlanUse (boolean) VLAN の設定を有効にするかどうかを指定します。 - true : 有効 - false : 無効 (任意) addVlanId (int) 追加する VLAN ID を 1～4094 までの整数で指定します。 (任意) deleteVlanId (int)

属性	型	説明
		削除する VLAN ID を 1～4094 までの整数で指定します。 • (任意) ipMode (string) IP アドレスの形式を指定します。 ◦ ipv4 : IPv4 を使用する ◦ ipv4v6 : IPv4 および IPv6 を使用する • ipv4Information (object) IPv4 に対応する情報を設定します。 ◦ (任意) address (string) ※1 IPv4 形式の IP アドレスを 7～15 文字で指定します。 ◦ (任意) subnetMask (string) サブネットマスクを 7～15 文字で指定します。 ◦ (任意) defaultGateway (string) デフォルトゲートウェイのアドレスを 7～15 文字で指定します。 • ipv6Information (object) IPv6 に対応する情報を設定します。 ◦ (任意) linklocal (string) ※2 Auto (自動)、またはリンクローカルアドレスを 2～45 文字で指定します。 ◦ (任意) global (string) ※2 Auto (自動)、またはグローバルアドレスを 2～45 文字で指定します。 ◦ (任意) defaultGateway (string) ※2 デフォルトゲートウェイのアドレスを 2～45 文字で指定します。 • (任意) tcpPort (int) iSCSI 通信時の TCP ポート番号を 1～65535 までの整数で指定します。 • (任意) selectiveAck (boolean) 選択型 ACK を有効、または無効に設定します。 ◦ true : 有効 ◦ false : 無効 • (任意) delayedAck (boolean) 遅延 ACK を有効、または無効に設定します。 ◦ true : 有効 ◦ false : 無効 • (任意) windowSize (string) Window サイズの値 指定できる値は、NUMBER_64K、NUMBER_128K、NUMBER_256K、NUMBER_512K、または NUMBER_1024K です。 • (任意) mtuSize (int) MTU サイズの値 指定できる値は、NUMBER_1500、NUMBER_4500、または NUMBER_9000 です。

属性	型	説明
		• (任意) <code>keepAliveTimer</code> (int) iSCSI 通信時の Keep Alive タイマの設定値 (秒) を 30 ～64800 までの整数で指定します。 • (任意) <code>isnsServerMode</code> (boolean) iSNS サーバモードを有効、または無効に設定します。 ◦ <code>true</code> : 有効 ◦ <code>false</code> : 無効 • (任意) <code>isnsServerIpAddress</code> (string) iSNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式、または IPv6 形式で 2～45 文字で指定します。 • (任意) <code>isnsServerPort</code> (int) iSNS サーバの TCP ポート番号を 1～65535 までの整数で指定します。 • (任意) <code>virtualPortEnabled</code> (boolean) 仮想ポートを有効、または無効に設定します。 ◦ <code>true</code> : 有効 ◦ <code>false</code> : 無効

注※1

この属性を指定する場合、次のアドレスは指定できません。

- ネットワークアドレス (例 : 192.168.10.0)
- ブロードキャストアドレス (例 : 255.255.255.255)
- ループバックアドレス (例 : 127.0.0.1)

注※2

この属性を指定する場合、次のアドレスは指定できません。

- アドレス未指定 (例 : ::)
- マルチキャストアドレス (例 : ff00:1024:1215::01)
- ループバックアドレス (例 : ::1)

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
<code>affectedResources</code>	<code>string[]</code>	変更したポートの情報を参照するための URL の一覧
<code>operationDetails</code>	<code>object[]</code>	変更したポートの詳細情報 詳細については、 <code>commandStatus</code> オブジェクトの属性 <code>operationDetails</code> の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/ports/CL1-A
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.16 commandStatus オブジェクト](#)

14.4 サーバの管理

REST API を使用してサーバに関する情報を取得したり、特定のサーバに関する詳細な情報を取得します。ストレージシステムにサーバの情報を登録、サーバとポート間のパス情報を追加、HBA の WWN (iSCSI ネーム) を追加する操作などについて説明します。

14.4.1 サーバの情報を取得する

サーバに関する情報を取得します。条件を指定して、絞り込んだ情報を取得したりできます。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

パラメータ	型	フィルタ条件
nickname	string	(任意) サーバのニックネーム 指定した値と完全に一致するサーバの情報が取得されます。
hbaWwn	string	(任意) HBA の WWN 指定した値と完全に一致するサーバの情報が取得されます。
iscsiName	string	(任意) iSCSI ネーム 指定した値と完全に一致するサーバの情報が取得されます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

サーバのニックネームが「hostA」および「hostB」のサーバ（クエリパラメータ nickname に hostA および hostB を指定）に関する情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": 10,
      "nickname": "hostA",
      "protocol": "FC",
      "osType": "Linux",
      "totalCapacity": 1024,
      "usedCapacity": 42,
      "numberOfPaths": 2,
      "isInconsistent": false,
      "modificationInProgress": false,
      "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
      "isReserved": false,
      "hasUnalignedOsTypes": false
    },
    {
      "id": 11,
      "nickname": "hostB",
      "protocol": "iSCSI",
      "osType": "Linux",
      "totalCapacity": 1024,
      "usedCapacity": 42,
      "numberOfPaths": 2,
      "isInconsistent": false,
      "modificationInProgress": false,
      "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
      "isReserved": false,
      "hasUnalignedOsTypes": false
    }
  ],
  "count": 2
}
```

サーバのニックネームが「hostC」および「hostD」のホストグループを追加するサーバ（クエリパラメータ nickname に hostC および hostD を指定）に関する情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": 8,
      "nickname": "hostC",
      "protocol": "Undefined",
      "osType": "Undefined",
      "totalCapacity": 0,
      "usedCapacity": 0,
      "numberOfPaths": 0,
      "isInconsistent": false,
      "modificationInProgress": false,
      "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
      "isReserved": true,
      "hasUnalignedOsTypes": false
    },
    {
      "id": 9,
      "nickname": "hostD",
      "protocol": "Undefined",
      "osType": "Undefined",
      "totalCapacity": 0,
      "usedCapacity": 0,
      "numberOfPaths": 0,
      "isInconsistent": false,
      "modificationInProgress": false,

```

```

      "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
      "isReserved": true,
      "hasUnalignedOsTypes": false
    }
  ],
  "count": 2
}

```

属性	型	説明
id	int	サーバ ID
nickname	string	サーバのニックネーム
protocol	string	プロトコル 次を示す値が出力されます。 - FC - iSCSI - Undefined ホストグループを追加するサーバの場合に出力されます。
osType	string	OS タイプ 次を示す値が出力されます。 - Linux - DeprecatedVMware - HP-UX - OpenVMS - Tru64 - Solaris - NetWare - DeprecatedWindows - AIX - VMware - Windows - Undefined ホストグループを追加するサーバの場合に出力されます。 - Unknown
totalCapacity	long	割り当てられているボリュームの総容量 (MiB)
usedCapacity	long	割り当てられているボリュームの使用済み容量 (MiB)
numberOfPaths	int	サーバに登録されている HBA の数
isInconsistent	boolean	サーバの構成情報が矛盾しているかどうか出力されます。 - true : 矛盾している - false : 矛盾していない
modificationInProgress	boolean	現在、使用しない属性です。
compatibility	string	現在、使用しない属性です。
isReserved	boolean	ホストグループを追加するサーバかどうか出力されます。 true : ホストグループを追加するサーバである

属性	型	説明
		• false: ホストグループを追加するサーバでない
hasUnalignedOsTypes	boolean	OS タイプが定義されているサーバに、この値と異なるホストモードが定義されているホストグループ（または iSCSI ターゲット）を追加した場合に、サーバ側の情報が混在しているかどうか出力されます。 • true: 混在している • false: 混在していない

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.4.2 特定のサーバの情報を取得する

サーバ ID を指定して、特定のサーバの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のサーバ（サーバ ID：10）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": 10,
  "nickname": "hostA",
  "protocol": "FC",
  "osType": "Linux",
  "osTypeOptions": [2,22,25,68],
  "totalCapacity": 1024,
  "usedCapacity": 42,
  "numberOfVolumes": 2,
  "numberOfPaths": 2,
  "paths": [
    {
      "hbaWwn": "000000102cceccc9",
      "portIds": [
        "CL1-A"
      ]
    },
    {
      "hbaWwn": "1111111111111111",
      "portIds": [
        "CL1-A"
      ]
    }
  ],
  "isInconsistent": false,
  "modificationInProgress": false,
  "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
  "isReserved": false,
  "hasNonFullmeshLuPaths": false,
  "hasUnalignedOsTypes": false,
  "hasUnalignedOsTypeOptions": false
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID：11）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": 11,
  "nickname": "hostB",
  "protocol": "iSCSI",
  "osType": "Linux",
  "osTypeOptions": [2,22,25,68],
  "totalCapacity": 1024,
  "usedCapacity": 42,
  "numberOfPaths": 2,
  "paths": [
    {
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93",
      "portIds": [
        "CL1-B"
      ]
    },
    {
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:a7526e46aa",
      "portIds": [
        "CL1-B"
      ]
    }
  ],
  "isInconsistent": false,
  "modificationInProgress": false,
  "compatibility": "DKCMAIN_8802010000",
  "isReserved": false,
  "hasNonFullmeshLuPaths": false,
  "hasUnalignedOsTypes": false,
}
```



```
"hasUnalignedOsTypeOptions": false
}
```

取得する属性については、サーバの情報を取得する場合の属性に加えて、次に示す属性が取得されます。

属性	型	説明
osTypeOptions	int[]	OS タイプのオプション
numberOfVolumes	int	割り当てられているボリュームの数
paths	object[]	HBA の WWN に定義されているパスの情報 • hbaWwn (string) HBA の WWN プロトコルが FC の場合に出力されます。 • iscsiName (string) iSCSI ネーム プロトコルが iSCSI の場合に出力されます。 • portIds (string[]) 割り当て先のポート ID
hasNonFullmeshLuPaths	boolean	指定したサーバ内において登録されているすべてのポートと、サーバに接続されているすべてのボリューム間で、パスが定義されていないボリュームがあるかどうか出力されます。 • true: パスが定義されていないボリュームが 1 つでもある • false: すべてのボリュームにパスが定義されている
hasUnalignedOsTypeOptions	boolean	OS タイプのオプションが定義されているサーバに、この値と異なるホストモードオプションが定義されているホストグループ（または iSCSI ターゲット）を登録した場合に、サーバ側の情報が混在しているかどうか出力されます。 • true: 混在している • false: 混在していない

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.4.1 サーバの情報を取得する](#)

14.4.3 サーバを登録する

ストレージシステムに、サーバの情報を登録します。また、サーバのニックネームだけを指定して、ホストグループを追加するためのサーバを作成することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

POST <ベース URL >/simple/v1/objects/servers

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

FC 接続のサーバの情報を次のとおり指定してストレージシステムに登録した例を次に示します。

- サーバのニックネーム：hostA
- プロトコル：FC
- OS タイプ：Linux

```
{
  "serverNickname": "hostA",
  "protocol": "FC",
  "osType": "Linux"
}
```

iSCSI 接続のサーバの情報を次のとおり指定してストレージシステムに登録した例を次に示します。

- サーバのニックネーム：hostB
- プロトコル：iSCSI
- OS タイプ：Linux

```
{
  "serverNickname": "hostB",
  "protocol": "iSCSI",
  "osType": "Linux"
}
```

ホストグループを追加するサーバを作成する例を次に示します。

```
{
  "serverNickname": "hostC",
  "isReserved": true
}
```

属性	型	説明
serverNickName	string	(必須) サーバのニックネームを1～229文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z , - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字を区別します。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。
protocol	string	(任意) プロトコル 指定できる値は次のとおりです。 • FC • iSCSI 属性 isReserved に true を指定しない場合は、この属性を必ず指定してください。 属性 isReserved に true を指定した場合で、この属性を指定したときは指定した値は無視されます。
osType	string	(任意) OS タイプ 指定できる値は次のとおりです。 • Linux • HP-UX • OpenVMS • Tru64 • Solaris • NetWare • AIX • VMware • Windows 属性 isReserved に true を指定しない場合は、この属性を必ず指定してください。 属性 isReserved に true を指定した場合で、この属性を指定したときは指定した値は無視されます。
osTypeOptions	int[]	(任意) OS タイプのオプションを0～127までの整数で指定します。 指定できる値については、マニュアル『システム構築ガイド』を参照してください。 OS タイプを指定して、この属性を省略した場合、指定した OS タイプに対応する値が自動で設定されます。 属性 isReserved に true を指定した場合で、この属性を指定したときは指定した値は無視されます。
isReserved	boolean	(任意) ストレージシステムにホストグループを追加するサーバを作成するかどうかを指定します。 • true : ホストグループを追加するサーバを作成する • false : ホストグループを追加するサーバを作成しない この属性を省略した場合、false が指定されたと見なされます。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	登録したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.4.6 サーバにホストグループ \(iSCSI ターゲット\) を追加する](#)

14.4.4 サーバの設定を変更する

サーバ ID を指定して、特定のサーバの設定に関する値を変更します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

指定した属性だけが変更されます。

FC 接続のサーバ（サーバ ID：10）の OS タイプを Solaris に変更する例を次に示します。

```
{
  "osType": "Solaris"
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID：11）のニックネームを My_REST_API_HOST に変更する例を次に示します。

```
{
  "nickname": "My_REST_API_HOST"
}
```

属性	型	説明
nickname	string	(任意) サーバのニックネームを 1～229 文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z , - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字を区別します。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (–) は使用できません。 次の属性と同時に指定できません。 - osType - osTypeOptions
osType	string	(任意) OS タイプ 指定できる値は次のとおりです。 - Linux - HP-UX - OpenVMS - Tru64 - Solaris - NetWare - AIX - VMware - Windows 次の属性と同時に指定できません。 - nickName
osTypeOptions	int[]	(任意) OS タイプのオプションを 0～127 までの整数で指定します。 指定できる値については、マニュアル『システム構築ガイド』を参照してください。 OS タイプを指定しない場合、現在設定されている OS タイプに対応する値で上書きされます。すでに値を設定していて、上書きさせたくない場合は、その値を指定してください。 次の属性と同時に指定できません。 nickName

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	変更したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.5 サーバを削除する

サーバ ID を指定して、ストレージシステムに登録されているサーバの情報を削除します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

属性	型	説明
keepLunConfig	boolean	(任意) リソースの割り当て情報を保持したまま、サーバの情報を削除するかどうかを指定します。 • true : 削除する • false : 削除しない ホストグループを誤ってサーバに追加した場合は、true を指定してサーバの情報を削除したあと、サーバを再作成して正しいホストグループを追加し直してください。 true を指定した場合、リソースの割り当て情報を管理できなくなります。通常はこの属性を指定しないでください。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除したサーバの情報の実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.6 サーバにホストグループ (iSCSI ターゲット) を追加する

サーバ ID を指定して、特定のサーバにホストグループ (または iSCSI ターゲット) を追加します。



重要

次の条件に該当するホストグループ (または iSCSI ターゲット) は追加できません。

- ホストグループ (または iSCSI ターゲット) に関連付けられたポートのセキュリティが無効である
- ホストグループ (または iSCSI ターゲット) のプロトコルが追加するサーバのプロトコルと異なっている
- ホストグループ (または iSCSI ターゲット) 内にプールから作成された仮想的なボリュームではないボリュームがある
- すでに別のサーバに追加されているホストグループ (または iSCSI ターゲット) である

- 仮想ストレージマシンに割り当てられたホストグループ（または iSCSI ターゲット）である

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

POST <ベース URL>/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID>/actions/add-host-groups/invoke

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

ホストグループ ID を指定してホストグループを追加する例を次に示します。

```
{
  "hostGroups": [
    {
      "portId": "CL1-C",
      "hostGroupId": 1
    }
  ]
}
```

ホストグループ名を指定して SCSI ターゲットを追加する例を次に示します。

```
{
  "hostGroups": [
    {
      "portId": "CL1-D",
      "hostGroupName": "My_REST_API_HOST"
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
hostGroups	object[]	追加するホストグループ（または iSCSI ターゲット）の情報 • (必須) portId: (string) ポート ID を 5 文字で指定します。 • (任意) hostGroupId: (int) ホストグループ（または iSCSI ターゲット）ID を 1～254 までの整数で指定します。

属性	型	説明
		hostGroupId または hostGroupName のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらの属性を同時には指定しないでください。 （任意） hostGroupName : (string) ホストグループ名（または iSCSI ターゲット名）を 1～64 文字で指定します。 hostGroupId または hostGroupName のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらの属性を同時には指定しないでください。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	追加したホストグループ（または iSCSI ターゲット）の実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/8/actions/add-host-groups/invoke
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード
- 12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する

14.4.7 HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を取得する

サーバ ID を指定して、サーバの HBA の WWN（または iSCSI ネーム）の情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/hbas
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のサーバ（サーバ ID : 10）の HBA の WWN 情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "serverId": 10,
      "hbaWwn": "000000102ccec9",
      "portIds": [
        "CL1-A"
      ]
    },
    {
      "serverId": 10,
      "hbaWwn": "1111111111111111",
      "portIds": [
        "CL1-A"
      ]
    }
  ],
  "count": 2
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID : 11）の iSCSI ネームの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "serverId": 11,
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93",
      "portIds": [
        "CL1-B"
      ]
    },
    {
      "serverId": 11,
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:a7526e46aa",
      "portIds": [
        "CL1-B"
      ]
    }
  ],
  "count": 2
}
```

属性	型	説明
serverId	int	サーバ ID
hbaWwn	string	HBA の WWN
iscsiName	string	iSCSI ネーム
portIds	string[]	割り当て先のポート ID のリスト

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/hbas
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.4.8 特定のサーバの HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報を取得する

特定のサーバの、HBA の WWN（または iSCSI ネーム）の情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/hbas/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

複数のオブジェクト ID を組み合わせて指定します。

- HBA の WWN を指定する場合
HBA の WWN（iSCSI ネーム）の情報取得で取得した serverId の値、および hbaWwn の値を次の形式で指定します。

```
<serverId >/hbas/<hbaWwn >
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
hbaWwn	string	(必須) HBA の WWN

- iSCSI ネームを指定する場合
HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報取得で取得した serverId の値、および iscsiName の値を次の形式で指定します。

```
<serverId>/hbas/<iscsiName>
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
iscsiName	string	(必須) iSCSI ネーム

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のサーバ (サーバ ID : 10) で HBA の WWN が 000000102ccec9 の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "serverId": 10,
  "hbaWwn": "000000102ccec9",
  "portIds": [
    "CL1-A"
  ]
}
```

iSCSI 接続のサーバ (サーバ ID : 11) で iSCSI ネームが
iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93 の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "serverId": 11,
  "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93",
  "portIds": [
    "CL1-B"
  ]
}
```

属性	型	説明
serverId	int	サーバ ID
hbaWwn	string	HBA の WWN HBA の WWN を指定した場合に有効な値が出力されます。
iscsiName	string	iSCSI ネーム iSCSI ネームを指定した場合に有効な値が出力されます。
portIds	string[]	割り当て先のポート ID のリスト

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/hbas/000000102cceccc9
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.4.7 HBA の WWN \(iSCSI ネーム\) の情報を取得する](#)

14.4.9 HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を追加する

サーバ ID を指定して、サーバに HBA の WWN (または iSCSI ネーム) の情報を追加します。



メモ

クラスタ構成の場合、クラスタを構成するすべてのサーバ (ノード) の WWN (または iSCSI ネーム) を同じサーバ ID のサーバに追加してください。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
POST <ベース URL>/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID>/hbas
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

FC 接続のサーバ (サーバ ID : 10) に HBA の WWN 「210003e08b0256f9」を追加する例を次に示します。

```
{
  "hbas": [
    {
      "hbaWwn": "210003e08b0256f9"
    }
  ]
}
```

iSCSI 接続のサーバ (サーバ ID : 11) に iqn 形式の iSCSI ネーム 「iqn.myrestapiiscsi20150907」を追加する例を次に示します。

```
{
  "hbas": [
    {
```

```

    "iscsiName": "iqn.myrestapiiscsi20150907"
  }
]
}

```

属性	型	説明
hbas	object[]	HBA の WWN または iSCSI ネームの情報 (任意) hbaWwn (string) HBA の WWN を 16 文字で指定します。 (任意) iscsiName (string) iSCSI ネームを指定します。 iqn 形式または eui 形式で指定してください。 - iqn 形式 iqn. に続けて全体で 223 文字以内の値で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . : 指定例: iqn.rest.example.of.iqn.form - eui 形式 eui. に続けて 16 進数で指定します。全体で 20 文字の値を指定してください。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～F a～f 指定例: eui.0900ABDC32598D26 hbaWwn または iscsiName のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらの属性を同時には指定しないでください。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	HBA の WWN (または iSCSI ネーム) を追加したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```

curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/hbas

```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.10 サーバから HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を削除する

HBA の WWN (または iSCSI ネーム) の情報を、サーバから削除します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/hbas/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

複数のオブジェクト ID を組み合わせて指定します。

- HBA の WWN を指定する場合
HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報取得で取得した `serverId` の値、および `hbaWwn` の値を次の形式で指定します。

```
<serverId >/hbas/<hbaWwn >
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
hbaWwn	string	(必須) HBA の WWN

- iSCSI ネームを指定する場合
HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報取得で取得した `serverId` の値、および `iscsiName` の値を次の形式で指定します。

```
<serverId >/hbas/<iscsiName >
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
iscsiName	string	(必須) iSCSI ネーム

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	情報を削除したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/hbas/210003e08b0256f9
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.11 サーバのパス情報の一覧を取得する

サーバ ID を指定して、特定のサーバのパス情報を取得します。条件を指定して、絞り込んだ情報を取得したりできます。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/paths
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

パラメータ	型	フィルタ条件
hbaWwn	string	(任意) HBA の WWN 指定した値と完全に一致するサーバのパス情報が取得されます。
iscsiName	string	(任意) iSCSI ネーム 指定した値と完全に一致するサーバのパス情報が取得されます。
portId	string	(任意) 割り当て先のポート ID 指定した値と完全に一致するサーバのパス情報が取得されます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のサーバ（サーバ ID : 10）のパス情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": "000000102cceccc9,CL1-A",
      "serverId": 10,
      "hbaWwn": "000000102cceccc9",
      "portId": "CL1-A"
    },
    {
      "id": "1111111111111111,CL1-A",
      "serverId": 10,
      "hbaWwn": "1111111111111111",
      "portId": "CL1-A"
    }
  ],
  "count": 2
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID : 11）のパス情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93,CL1-B",
      "serverId": 11,
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93",
      "portIds": "CL1-B"
    },
    {
      "id": "iqn.1994-05.com.redhat:a7526e46aa,CL1-B",
      "serverId": 11,
      "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:a7526e46aa",
      "portIds": "CL1-B"
    }
  ],
  "count": 2
}
```

属性	型	説明
id	string	HBA の WWN（または iSCSI ネーム） および割り当て先のポート ID がコンマで連結した形式で出力されます。
serverId	int	サーバ ID
hbaWwn	string	HBA の WWN
iscsiName	string	iSCSI ネーム
portId	string	割り当て先のポート ID

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/paths
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.4.12 サーバと特定のポート間のパス情報を取得する

サーバ ID、HBA の WWN（または iSCSI ネーム）、およびポート ID を指定して、サーバと特定のポート間のパス情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/paths/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

複数のオブジェクト ID を組み合わせて指定します。

サーバのパスの情報取得で取得した serverId の値および id の値を、次の形式で指定します。

```
<serverId >/paths/<id >
```

<id >の値には、hbaWwn（または iscsiName）の値および portId の値を連結した形式でも指定できます。

- HBA の WWN を指定する場合

```
<serverId>/paths/<hbaWwn>,<portId>
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
hbaWwn	string	(必須) HBA の WWN
portId	string	(必須) ポート ID

- iSCSI ネームを指定する場合

```
<serverId>/paths/<iscsiName>,<portId>
```

属性	型	説明
serverId	int	(必須) サーバ ID
iscsiName	string	(必須) iSCSI ネーム
portId	string	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

FC 接続のサーバ（サーバ ID : 10、HBA の WWN : 000000102ccec9）とポート間（ポート ID : CL1-A）のパス情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": "000000102ccec9,CL1-A",
  "serverId": 10,
  "hbaWwn": "000000102ccec9",
  "portId": "CL1-A"
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID : 11、iSCSI ネーム :

iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93）とポート間（ポート ID : CL1-B）のパス情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93,CL1-B",
  "serverId": 11,
  "iscsiName": "iqn.1994-05.com.redhat:496799ba93",
  "portId": "CL1-B"
}
```

取得する属性については、サーバのパス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/paths/000000102cceccc9,CL1-A
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード
- 14.4.11 サーバのパス情報の一覧を取得する

14.4.13 サーバにパス情報を追加する

サーバ ID を指定して、特定のサーバにパス情報を追加します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/paths
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

FC 接続のサーバ（サーバ ID : 10）にパス情報を追加する例を次に示します。

```
{
  "hbaWwn": "210003e08b0256f9",
  "portIds": [
    "CL1-A"
  ]
}
```

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID : 11）にパス情報を追加する例を次に示します。

```
{
  "iscsiName": "iqn.myrestapiiscsi20150907",
  "portIds": [
    "CL1-B"
  ]
}
```

```
]
}
```

属性	型	説明
hbaWwn	string	(任意) HBA の WWN を 16 文字で指定します。 hbaWwn または iscsiName のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらの属性を同時には指定しないでください。
iscsiName	string	(任意) iSCSI ネームを指定します。 iqn 形式または eui 形式で指定してください。 • iqn 形式 iqn. に続けて全体で 223 文字以内の値で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . : 指定例: iqn.rest.example.of.iqn.form • eui 形式 eui. に続けて 16 進数で指定します。全体で 20 文字の値を指定してください。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～F a～f 指定例: eui.0900ABDC32598D26 hbaWwn または iscsiName のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらの属性を同時には指定しないでください。
portIds	string[]	(必須) 割り当て先のポート ID を指定します。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	パス情報を追加したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/paths
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.14 サーバからパス情報を削除する

特定のサーバからパス情報を削除します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL>/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID>/paths/<オブジェクト ID>
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

複数のオブジェクト ID を組み合わせて指定します。

サーバのパスの情報取得で取得した `serverId` の値および `id` の値を、次の形式で指定します。

```
<serverId>/paths/<id>
```

<id>の値には、`hbaWwn`（または `iscsiName`）の値および `portId` の値を連結した形式でも指定できます。

- HBA の WWN を指定する場合

```
<serverId>/paths/<hbaWwn>,<portId>
```

属性	型	説明
<code>serverId</code>	int	(必須) サーバ ID
<code>hbaWwn</code>	string	(必須) HBA の WWN
<code>portId</code>	string	(必須) ポート ID

- iSCSI ネームを指定する場合

```
<serverId>/paths/<iscsiName>,<portId>
```

属性	型	説明
<code>serverId</code>	int	(必須) サーバ ID
<code>iscsiName</code>	string	(必須) iSCSI ネーム
<code>portId</code>	string	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ
なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	パス情報を削除したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/10/paths/210003e08b0256f9,CL1-A
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.4.15 iSCSI ターゲットの情報を取得する

サーバ ID を指定して、iSCSI ターゲットの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/target-iscsi-ports
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID：11）の iSCSI ターゲットの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "portId": "CL1-B",
      "targetIscsiName": "iqn.rest.example.of.iqn.hostB"
    }
  ],
  "count": 1
}
```

属性	型	説明
portId	string	割り当て先のポート ID
targetIscsiName	string	iSCSI ターゲットの iSCSI ネーム

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/11/target-iscsi-ports
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

14.4.16 特定の iSCSI ターゲットの情報を取得する

サーバ ID およびポート ID を指定して、iSCSI ターゲットの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID >/target-iscsi-ports/<オブジェクト ID >
```


リクエストメッセージ

オブジェクト ID

サーバの情報取得で取得した id の値および portId の値を、次の形式で指定します。

```
<id>/target-iscsi-ports/<portId>
```

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID
portId	string	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

iSCSI 接続のサーバ（サーバ ID : 11、ポート ID : CL1-B）の iSCSI ターゲットの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "portId": "CL1-B",
  "targetIscsiName": "iqn.rest.example.of.iqn.hostB"
}
```

取得する属性については、iSCSI ターゲットの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/11/target-iscsi-ports/CL1-B
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.4.15 iSCSI ターゲットの情報を取得する](#)

14.4.17 iSCSI ターゲットの設定を変更する

サーバ ID およびポート ID を指定して、iSCSI ターゲットの iSCSI ネームを変更します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL>/simple/v1/objects/servers/<オブジェクト ID>/target-iscsi-ports/<オブジェクト ID>
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

複数のオブジェクト ID を組み合わせて指定します。
サーバの情報取得で取得した id の値および portId の値を、次の形式で指定します。

```
<id>/target-iscsi-ports/<portId>
```

属性	型	説明
id	int	(必須) サーバ ID
portId	string	(必須) ポート ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

iSCSI 接続のサーバ (サーバ ID : 11、ポート ID : CL1-B) の iSCSI ターゲットの iSCSI ネームを「iqn.rest.example.of.iqn.hostB」に変更する例を次に示します。

```
{
  "targetIscsiName": "iqn.rest.example.of.iqn.hostB"
}
```

属性	型	説明
targetIscsiName	string	(必須) iSCSI ターゲットの iSCSI ネームを指定します。 iqn 形式または eui 形式で指定してください。 - iqn 形式 iqn. に続けて全体で 223 文字以内の値で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . : 指定例 : iqn.rest.example.of.iqn.form - eui 形式 eui. に続けて 16 進数で指定します。全体で 20 文字の値を指定してください。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～F a～f 指定例 : eui.0900ABDC32598D26

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	iSCSI ネームを変更したサーバの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/servers/11/target-iscsi-ports/CL1-B
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.5 ボリュームの管理

REST API を使用してボリュームの情報を取得、新規にボリュームを作成、作成済みのボリュームをサーバに割り当てたり、使用率の高いボリュームの容量を拡張したりする操作について説明します。

14.5.1 ボリュームの情報を取得する

ボリュームに関する情報を取得します。ボリュームの条件を指定して、絞り込んだ情報を取得することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/volumes
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できるボリュームの情報は最大で 500 個です。501 個以上のボリュームの情報を取得する場合は、count パラメータと startVolumeId パラメータを組み合わせ

て複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得するボリュームの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
poolId	int	(任意) ボリュームが属するプール ID poolName と同時に指定しないでください。
poolName	string	(任意) ボリュームが属するプール名 指定した値の一部がプール名と一致する場合もボリュームの情報が取得されます。 poolId と同時に指定しないでください。poolId を指定している場合、このパラメータは無視されます。
serverId	int	(任意) ボリュームが割り当てられているサーバ ID serverNickName と同時に指定しないでください。
serverNickName	string	(任意) ボリュームが割り当てられているサーバのニックネーム 指定した値の一部がサーバのニックネームと一致する場合もボリュームの情報が取得されます。 serverId と同時に指定しないでください。serverId を指定している場合、このパラメータは無視されます。
nickname	string	(任意) ボリュームのニックネーム 指定した値の一部がボリュームのニックネームと一致する場合もボリュームの情報が取得されます。
minTotalCapacity	long	(任意) ボリュームの最小容量 (MiB) 取得するボリュームの最小容量として 47～268435456 までの整数で指定します。
maxTotalCapacity	long	(任意) ボリュームの最大容量 (MiB) 取得するボリュームの最大容量として 47～268435456 までの整数で指定します。
minUsedCapacity	long	(任意) ボリュームの最小使用容量 (MiB) 取得するボリュームの最小使用容量として 0～268435456 までの整数で指定します。
maxUsedCapacity	long	(任意) ボリュームの最大使用容量 (MiB) 取得するボリュームの最大使用容量として 0～268435456 までの整数で指定します。
startVolumeId	int	(任意) 取得を開始するボリュームの ID を 0～65279 の値で指定します。
count	int	(任意) 取得するボリュームの情報の個数を 1～500 の値で指定します。 このパラメータを省略した場合、500 が指定されたと見なされます。

ボディ
なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

プール ID が 63 のプール（クエリパラメータ poolId に 63 を指定）に属するボリュームの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": 100,
      "nickname": "JH-26216_DP",
      "poolId": 63,
      "poolName": "NASOS",
      "totalCapacity": 1024,
      "usedCapacity": 42,
      "numberOfConnectingServers": 2,
      "numberOfSnapshots": 2,
      "volumeTypes": []
    },
    {
      "id": 101,
      "nickname": "JH-26216_DP",
      "poolId": 63,
      "poolName": "NASOS",
      "totalCapacity": 1024,
      "usedCapacity": 0,
      "numberOfConnectingServers": 2,
      "numberOfSnapshots": 2,
      "volumeTypes": [
        "Snapshot"
      ]
    }
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
id	int	ボリューム ID
nickname	string	ニックネーム
poolId	int	ボリュームが属するプール ID
poolName	string	ボリュームが属するプール名 ボリュームを作成中または削除中の場合、この属性は出力されません。
totalCapacity	long	ボリュームの総容量（MiB）
usedCapacity	long	ボリュームの使用済み容量（MiB） ボリュームを作成中または削除中の場合、0 が出力されます。
numberOfConnectingServers	int	接続サーバの数
numberOfSnapshots	int	スナップショットの数
volumeTypes	object[]	ボリュームタイプ - Snapshot: ボリューム ID が定義されているスナップショットの作成先ボリューム - System: 重複排除用システムデータボリュームまたはジャーナルボリューム - Command Device: コマンドデバイスとして使用しているボリューム - SLU: SLU（Subsidiary Logical Unit）属性を持つボリューム

属性	型	説明
		AttachedUnmanaged: ほかのツールで割り当て済みのボリューム

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes?poolId=63
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード
- 11.15 データオブジェクト

14.5.2 特定のボリュームの情報を取得する

ボリューム ID を指定して、特定のボリュームの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/volumes/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

ボリューム ID が 100 のボリュームの情報を取得した例を次に示します。

```
{
  "id": 100,
  "nickname": "JH-26216_DP",
  "poolId": 63,
  "poolName": "NASOS",
  "totalCapacity": 1024,
  "usedCapacity": 42,
  "freeCapacity": 982,
  "reservedCapacity": 0,
  "savingSetting": "DISABLE",
  "capacitySavingStatus": "Rehydrating",
  "capacitySavingProgress": 40,
  "numberOfConnectingServers": 2,
  "numberOfSnapshots": 2,
  "luns": [
    {
      "lun": 1,
      "serverId": 10,
      "portId": "CL1-A"
    },
    {
      "lun": 1,
      "serverId": 11,
      "portId": "CL2-A"
    }
  ],
  "volumeTypes": []
}
```

取得する属性については、ボリュームの情報を取得する場合の属性に加えて、次に示す属性が取得されます。

属性	型	説明
freeCapacity	long	ボリュームの空き容量 (MiB) ボリュームを作成中または削除中の場合、ボリュームの総容量が出力されます。
reservedCapacity	long	ボリュームのページ予約容量 (MiB)
savingSetting	string	容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) の適用状況 - DEDUPLICATION_AND_COMPRESSION: 容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) が有効 - COMPRESSION: 容量削減機能 (圧縮) が有効 - DISABLE: 設定なし
capacitySavingStatus	string	容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) の状態 - Disabled: 容量削減機能が無効 - Enabled: 容量削減機能が有効 - Rehydrating: 容量削減機能を無効化中 (データ伸長中) - Enabling: 容量削減機能を有効化中 - Deleting: 容量削減機能が有効なボリュームを削除中 - Failed: 重複排除用システムデータボリューム内のデータが不正な状態
capacitySavingProgress	int	容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) の状態の進捗率 (%)
luns	object[]	LUN の設定情報

属性	型	説明
		- lun (int) LU 番号 - serverId (int) サーバ ID - portId (string) 割り当て先のポート ID

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.5.1 ボリュームの情報を取得する](#)

14.5.3 ボリュームを作成する

容量およびボリュームに付与するニックネームを指定して、ボリュームを作成します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/volumes
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

プール ID が 63 のプールに、ニックネームに「REST_API_100MVolume」を指定し、重複排除機能および圧縮機能を有効にした、100MiB のボリュームを作成する例を次に示します。

```
{
  "capacity": 100,
  "number": 1,
  "nicknameParam": {
    "baseName": "REST_API_100MVolume"
  },
  "savingSetting": "DEDUPLICATION_AND_COMPRESSION",
```



```
"poolId": 63
}
```

属性	型	説明
capacity	long	(必須) 作成するボリュームの容量 (MiB) 47～268435456 までの整数で指定します。
number	int	(任意) 作成するボリュームの個数 1～1000 までの整数で指定します。 この属性を省略した場合、作成されるボリュームの数は 1 個です。
nicknameParam	object	作成するボリュームに付与するニックネームの情報 (必須) baseName (string) ニックネームを 1～32 文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z , - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字が区別されます。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。 (任意) startNumber (int) ニックネームのあとに続けて付与したい番号の開始位置を 0～65279 までの整数で指定します。 (任意) numberOfDigits (int) ニックネームのあとに続けて付与したい番号の桁数を 1～5 までの整数で指定します。 この属性を指定する場合、startNumber も必ず指定します。startNumber を指定して、この属性を省略した場合、1 が指定されたと見なされます。 例: baseName に AAA、startNumber に 1、および numberOfDigits に 3 を指定して、作成するボリュームの個数として number に 100 を指定した場合、AAA001～AAA100 のニックネームが付与されます。 baseName の文字数および startNumber と numberOfDigits の指定から生成される番号の桁数の合計が 32 文字以下になるように指定してください。
savingSetting	string	(任意) 容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) の設定次に示す値を指定します。 - DEDUPLICATION_AND_COMPRESSION: 容量削減機能 (圧縮および重複排除機能) を有効にする 容量削減機能 (重複排除) を有効にする場合、容量削減機能 (圧縮) も有効となります。 - COMPRESSION: 容量削減機能 (圧縮) を有効にする - DISABLE: 設定しない この属性を省略した場合、DISABLE が指定されたと見なされます。
poolId	int	(必須) ボリュームを作成するプールのプール ID を 0～127 までの整数で指定します。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	作成したボリュームの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.5.2 特定のボリュームの情報を取得する](#)

14.5.4 ボリュームの設定を変更する

ボリューム ID を指定して、ニックネームの変更や、容量削減機能（圧縮および重複排除機能）の設定を変更します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL >/simple/v1/objects/volumes/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

指定した属性だけが変更されます。
ニックネームを変更する例を次に示します。

```
{
  "nickname": "REST_API_10GVolume"
}
```

容量削減機能（圧縮および重複排除機能）の設定値を無効に変更する例を次に示します。

```
{
  "savingSetting": "DISABLE"
}
```

属性	型	説明
nickname	string	(任意) 変更するニックネームを1～32文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z , - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字が区別されます。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。 この属性を指定する場合、savingSetting を同時に指定しないでください。
savingSetting	string	(任意) 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）の設定 - DEDUPLICATION_AND_COMPRESSION: 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）を有効にする 容量削減機能（重複排除）を有効にする場合、容量削減機能（圧縮）も有効となります。 - COMPRESSION: 容量削減機能（圧縮）を有効にする - DISABLE: 設定しない この属性を指定する場合、ボリュームの設定変更に時間が掛かることがあります。 この属性を指定する場合、nickname を同時に指定しないでください。

レスポンスメッセージ

ボディ

- ニックネームを変更した場合

属性	型	説明
affectedResources	string[]	変更したボリュームの情報を参照するための URL の一覧
operationDetails	object[]	変更したボリュームの詳細情報 詳細については、commandStatus オブジェクトの属性 operationDetails の説明を参照してください。

- 容量削減機能（圧縮および重複排除機能）の設定を変更した場合

属性	型	説明
statusResource	string	変更したボリュームの情報を参照するための URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.16 commandStatus オブジェクト](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.5.2 特定のボリュームの情報を取得する](#)

14.5.5 ボリュームの容量を拡張する

ボリューム ID を指定して、ボリュームの容量を拡張します。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
POST <ベース URL>/simple/v1/objects/volumes/<オブジェクト ID>/actions/expand/invoke
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

ボリュームの容量を、100MiB 追加する例を次に示します。

```
{
  "capacity": 100
}
```

属性	型	説明
capacity	long	(必須) ボリュームの容量 (MiB) 追加する容量を、1～268435456 までの整数で指定します。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
affectedResources	string[]	容量を追加したボリュームの情報を参照するための URL の一覧
operationDetails	object[]	容量を追加したボリュームの詳細情報 属性の詳細については、commandStatus オブジェクトの属性 operationDetails の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100/actions/expand/invoke
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード
- 11.16 commandStatus オブジェクト

14.5.6 ボリュームを削除する

ボリューム ID を指定して、ボリュームを削除します。



注意

容量削減機能（圧縮および重複排除機能）が有効なボリュームの場合、削除に時間が掛かることがあります。計画的に削除することをお勧めします。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/volumes/<オブジェクト ID >

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除したボリュームの情報を参照するための URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volumes/100
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.5.2 特定のボリュームの情報を取得する](#)

14.5.7 ボリュームとサーバの接続情報を取得する

クエリパラメータにサーバ ID、またはサーバのニックネームを指定して、ボリュームとサーバの接続情報の一覧を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

GET <ベース URL >/simple/v1/objects/volume-server-connections

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できるボリュームとサーバの接続情報は最大で 2048 個です。2049 個以上のボリュームとサーバの接続情報を取得する場合は、count パラメータと startVolumeId パラメータを組み合わせる複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得するボリュームとサーバの接続情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
serverId	int	(任意) ボリュームと接続されているサーバのサーバ ID を指定します。 指定したサーバ ID の接続情報を取得します。 serverId または serverNickname のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらのパラメータを同時に指定しないでください。
serverNickname	string	(任意) ボリュームと接続されているサーバのニックネームを指定します。 指定したサーバのニックネームの接続情報を取得します。 serverId または serverNickname のどちらか一方を必ず指定してください。また、これらのパラメータを同時に指定しないでください。
startVolumeId	int	(任意) ボリュームとサーバの接続情報の取得を開始するボリューム ID を 0～65279 の値で指定します。
count	int	(任意) ボリュームとサーバの接続情報を取得する個数を 1～2048 の値で指定します。 省略した場合、2048 が指定されたと見なされます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

サーバ ID が 10（クエリパラメータ `serverId` に 10 を指定）のサーバのボリュームとサーバの接続情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": "100,10",
      "volumeId": 100,
      "serverId": 10,
      "luns": [
        {
          "lun": 1,
          "portId": "CL1-A"
        }
      ]
    },
    {
      "id": "101,10",
      "volumeId": 101,
      "serverId": 10,
      "luns": [
        {
          "lun": 2,
          "portId": "CL1-A"
        }
      ]
    }
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
id	string	ボリューム ID とサーバ ID がコンマで連結した形式で出力されます。
volumeId	int	ボリューム ID
serverId	int	サーバ ID
luns	object[]	LUN の設定情報 - lun (int) LU 番号 - portId (string) 割り当て先のポート ID

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volume-server-connections?serverId=10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

14.5.8 ボリュームと特定のサーバの接続情報を取得する

ボリューム ID とサーバ ID を指定して、ボリュームと特定のサーバの接続情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/volume-server-connections/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームとサーバの接続情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、ボリューム ID およびサーバ ID をコンマで連結した形式で出力されます。ボリュームとサーバの接続情報取得で取得した volumeId の値と serverId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

<volumeId >,<serverId >

属性	型	説明
volumeId	int	(必須) ボリューム ID
serverId	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

ボリューム ID が 100 のボリュームと、サーバ ID が 10 のサーバの接続情報を取得する出力例を次に示します。

```
{
  "id": "100,10",
  "volumeId": 100,
  "serverId": 10,
  "luns": [
    {
      "lun": 1,
      "portId": "CL1-A"
    }
  ]
}
```

取得する属性については、ボリュームとサーバの接続情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volume-server-connections/100,10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [14.5.7 ボリュームとサーバの接続情報を取得する](#)

14.5.9 ボリュームとサーバを接続する

サーバとボリューム間のすべてのパスに対して接続設定します。



メモ

仮想ストレージマシンに割り当てられたホストグループ（または iSCSI ターゲット）が追加されているサーバと、ボリューム間のパスに対して接続設定はできません。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/volume-server-connections
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

ボリューム ID が 100 のボリュームと、サーバ ID が 10 のサーバ間のパスに対して接続設定をする例を次に示します。

```
{
  "volumeIds": [
    100
  ],
  "serverIds": [
    10
  ]
}
```

属性	型	説明
volumeIds	int[]	(必須) 割り当て対象のボリューム ID を 0～65279 までの値で指定します。
serverIds	int[]	(必須) 割り当てサーバ ID 指定したサーバとボリューム間のサーバ ID を 0～4095 までの値ですべて指定します。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	サーバと接続したボリュームの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volume-server-connections
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

14.5.10 ボリュームと特定のサーバの接続を解除する

ボリューム ID とサーバのニックネームを指定して、特定のサーバとボリューム間に登録されているすべてのパスに対して接続設定を解除します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/volume-server-connections/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

ボリュームとサーバの接続情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、ボリューム ID およびサーバ ID をコンマで連結した形式で出力されます。ボリュームとサーバの接続情報取得で取得した volumeId の値と serverId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

```
<volumeId>,<serverId>
```

属性	型	説明
volumeId	int	(必須) ボリューム ID
serverId	int	(必須) サーバ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	サーバとの接続を解除したボリュームの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/volume-server-connections/100,10
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

スナップショットの操作（REST API）

この章では、ストレージシステム内のボリュームのスナップショットを作成してコストパフォーマンスの良い複製を作成したり、運用中のデータをほかのサーバでも利用できるように、スナップショットに対してクローンを実行してボリュームを作成したり、スナップショットをマッピングしてボリュームが使用できる状態にする API などの操作について説明します。

スナップショットに関する機能については、マニュアル『Thin Image ユーザガイド』を参照してください。

- 15.1 スナップショットグループ名の一覧を取得する
- 15.2 特定のスナップショットグループの情報を取得する
- 15.3 スナップショットの情報を取得する
- 15.4 特定のスナップショットの情報を取得する
- 15.5 スナップショットを作成する
- 15.6 スナップショットをマッピングする
- 15.7 スナップショットをリストアする
- 15.8 スナップショットグループを削除する
- 15.9 スナップショットを削除する

15.1 スナップショットグループ名の一覧を取得する

スナップショットグループ名の一覧を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/snapshot-groups
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "data": [
    {
      "name": "snapshotGroup"
    },
    {
      "name": "snapshotGroup2"
    }
  ],
  "count": 2
}
```

属性	型	説明
name	string	スナップショットグループ名

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshot-groups
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

15.2 特定のスナップショットグループの情報を取得する

スナップショットグループ名を指定して、スナップショットグループの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

GET <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshot-groups/<オブジェクト ID >

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

スナップショットグループ名の一覧取得で取得した name の値を指定します。

属性	型	説明
name	string	(必須) スナップショットグループ名



メモ

スラッシュまたはバックスラッシュを含むスナップショットグループ名は指定できません。
該当するスナップショットグループ名のスナップショットグループの情報を取得する場合、クエリパラメータ snapshotGroupName を指定して、スナップショットの情報を取得する API を実行することでスナップショットグループの情報を取得できます。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できるスナップショットグループの情報は最大で 1000 個です。1001 個以上のスナップショットグループの情報を取得する場合は、count パラメータと startSnapshotId パラメータを組み合わせる複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得するボリュームの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
startSnapshotId	string	(任意) 取得を開始するスナップショットの ID を指定します。 このパラメータを省略した場合、"0,0"が指定されたと見なされます。
count	int	(任意) 取得するスナップショットグループの情報の個数を 1~1000 の値で指定します。 このパラメータを省略した場合、1000 が指定されたと見なされます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

スナップショットグループ名が snapshotGroup のスナップショットグループの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "name": "snapshotGroup",
  "snapshots": [
    {
      "masterVolumeId": 100,
      "snapshotId": 3
    },
    {
      "masterVolumeId": 100,
      "snapshotId": 4
    }
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
name	string	スナップショットグループ名
snapshots	object[]	スナップショットに関する情報が出力されます。 - masterVolumeId (int) スナップショットの作成元ボリューム ID - snapshotId (int) スナップショット ID MU（ミラーユニット）番号が出力されます。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshot-groups/snapshotGroup
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [15.1 スナップショットグループ名の一覧を取得する](#)
- [15.3 スナップショットの情報を取得する](#)

15.3 スナップショットの情報を取得する

スナップショットに関する情報を取得します。スナップショットの条件を指定して、絞り込んだ情報を取得することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/snapshots
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できるスナップショットの情報は最大で 1000 個です。1001 個以上のスナップショットの情報を取得する場合は、count パラメータと startId パラメータを組み合わせ複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得するボリュームの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
masterVolumeId	int	(任意) スナップショットの作成元ボリューム ID
snapshotDateFrom	string	(任意) 取得するスナップショットの日時を YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ 形式で指定します。 このパラメータで指定された日時以降のスナップショットの情報を取得します。
snapshotDateTo	string	(任意) 取得するスナップショットの日時を YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ 形式で指定します。 このパラメータで指定された日時以前のスナップショットの情報を取得します。
snapshotGroupName	string	(任意) スナップショットグループ名 指定した値と完全に一致するスナップショットの情報が取得されます。
startId	string	(任意) 取得を開始するスナップショットの情報を、スナップショットの作成元ボリューム ID とスナップショット ID をコンマで連結した形式で指定します。 <masterVolumeId>,<snapshotId> このパラメータを省略した場合、"0,0" が指定されたと見なされます。
count	int	(任意) 取得するスナップショットの情報の個数を 1～1000 の値で指定します。 このパラメータを省略した場合、1000 が指定されたと見なされます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "data": [
    {
      "id": "100,3",
      "masterVolumeId": 100,
      "snapshotId": 3,
      "status": "Completed",
      "snapshotDate": "2015-03-20T09:27:35Z",
      "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
      "rootVolumeId": 100,
      "poolId": 10,
      "usedCapacityPerRootVolume": 126,
    },
    {
      "id": "100,4",
      "masterVolumeId": 100,
      "snapshotId": 4,
      "status": "Completed",
      "snapshotDate": "2015-03-20T09:27:35Z",
      "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
      "rootVolumeId": 100,
      "poolId": 10,
      "usedCapacityPerRootVolume": 126,
    },
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
id	string	スナップショットの作成元ボリューム ID、およびスナップショット ID がコンマで連結した形式で出力されます。
masterVolumeId	int	スナップショットの作成元ボリューム ID
snapshotId	int	スナップショット ID MU（ミラーユニット）番号が出力されます。
status	string	スナップショットの状態 - Creating：スナップショット作成中 - In Sync：スナップショット同期処理完了 - Completed：スナップショット作成済 - Deleting：スナップショット削除中 - Restoring：スナップショットリストア中 - Preparing：クローン準備中 - Clone Ready：クローン準備完了 - Cloning：クローン実行中 - Removing：クローン設定解除中 - Error：障害が発生している
snapshotDate	string	スナップショットの作成日時
snapshotGroupName	string	スナップショットグループ名
mappedVolumeId	int	スナップショットの作成先ボリューム ID スナップショットの作成先ボリューム ID が定義されている場合に出力されます。

属性	型	説明
rootVolumeId	int	スナップショットのルートボリューム ID
poolId	int	スナップショットの差分データが格納されているプールのプール ID
usedCapacityPerRootVolume	long	スナップショットの差分データが格納されているプールにおいてスナップショット群が使用している差分情報と制御情報の総容量 (MiB)

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

15.4 特定のスナップショットの情報を取得する

スナップショットの作成元ボリューム ID、およびスナップショット ID を指定して、スナップショットに関する情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

スナップショットの情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、スナップショットの作成元ボリューム ID およびスナップショット ID をコンマで連結した形式で取得されます。スナップショットの情報取得で取得した masterVolumeId の値と snapshotId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

```
<masterVolumeId >,<snapshotId >
```

属性	型	説明
masterVolumeId	int	(必須) スナップショットの作成元ボリューム ID

属性	型	説明
snapshotId	int	(必須) スナップショット ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

特定のスナップショット（スナップショットの作成元ボリューム ID：100、スナップショット ID：3）の情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "id": "100,3",
  "masterVolumeId": 100,
  "snapshotId": 3,
  "status": "Completed",
  "snapshotDate": "2015-03-20T09:27:35Z",
  "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
  "rootVolumeId": 100,
  "poolId": 10,
  "usedCapacityPerRootVolume": 126
}
```

取得する属性については、スナップショットの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots/100,3
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [15.3 スナップショットの情報を取得する](#)

15.5 スナップショットを作成する

データをバックアップ、またはバックアップしたデータを二次的に利用するためのスナップショットを作成します。また、スナップショットに対してクローンを実行することもできます。

実行権限

ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）

リクエストライン

POST <ベース URL>/simple/v1/objects/snapshots

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

プール ID が 13 のプールに、スナップショットの作成元ボリューム（ボリューム ID : 100）からクローンを実行する例を次に示します。同時にスナップショットグループ（スナップショット名 : snapshotGroup）を新規に作成します。

```
{
  "params": [
    {
      "masterVolumeId": 100,
      "poolId": 13,
      "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
      "type": "Snap Clone"
    }
  ]
}
```

プール ID が 13 のプールに、スナップショットの作成元ボリューム（ボリューム ID : 100、スナップショットグループ名 : snapshotGroup）からスナップショットを作成する例を次に示します。

```
{
  "params": [
    {
      "masterVolumeId": 100,
      "poolId": 13,
      "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
      "type": "Snapshot"
    }
  ]
}
```

プール ID が 13 のプールに、スナップショットの作成元ボリューム（ボリューム ID : 100、スナップショットグループ名 : snapshotGroup）からスナップショットを作成し、スナップショットの作成先ボリュームにボリューム ID を定義する例を次に示します。

```
{
  "params": [
    {
      "masterVolumeId": 100,
      "poolId": 13,
      "snapshotGroupName": "snapshotGroup",
      "type": "Mapped Snapshot"
    }
  ]
}
```

属性	型	説明
params	object[]	作成するスナップショットの情報

属性	型	説明
		• masterVolumeId (int) (必須) スナップショットの作成元ボリューム ID を 0～65279 の整数で指定します。 • poolId (int) (必須) スナップショットの差分データを格納するプールのプール ID を 0～127 の整数で指定します。 プールの使用率が枯渇しきい値を超えると作成済みのものを含むスナップショットが使用できなくなるおそれがあります。指定するプールに十分な空き容量があることを確認してください。 階層構造を持つプールは指定できません。 プールの使用率および階層構造を持つプールかどうかを確認するには、プール ID を指定して特定のプールの情報を取得する API を実行してください。 • snapshotGroupName (string) (必須) スナップショットグループ名を 1～32 文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字を区別します。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できますが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。 新規のスナップショットグループ名を指定すると、同時にスナップショットグループも作成します。 • type (string) (必須) スナップショットのタイプ ◦ Snap Clone : クローンを実行する ◦ Snapshot : スナップショットを作成する ◦ Mapped Snapshot : スナップショットを作成してスナップショットの作成先ボリュームにボリューム ID を定義する 属性値に Snap Clone または Mapped Snapshot を指定した場合、次の形式でスナップショットの作成先ボリュームにニックネームが自動で付与されます。 Snap Clone を指定した場合 : 「Clone of ID:作成元ボリューム ID」 Mapped Snapshot を指定した場合 : 「Snapshot of ID:作成元ボリューム ID」 • destinationSize (int) (任意) スナップショットの作成先ボリュームの容量を 47～268435456 の整数で指定します。 スナップショットの作成元ボリュームの容量より大きい値を指定してください。属性 type に Snap Clone を指定した場合にだけ指定できます。 属性 type に Snap Clone を指定して、この属性を省略した場合、スナップショットの作成元ボリュームと同じ値が指定されたと見なされます。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	作成したスナップショットの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [14.2.2 特定のプールの情報を取得する](#)

15.6 スナップショットをマッピングする

スナップショットの作成元ボリューム ID、およびスナップショット ID を指定してスナップショットをマッピングします。マッピングすると、指定したスナップショットの作成先ボリュームが使用できる状態になります。

実行権限

ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）

リクエストライン

```
POST <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots/<オブジェクト ID >/actions/map/invoke
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

スナップショットの情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、スナップショットの作成元ボリューム ID およびスナップショット ID をコンマで連結した形式

で取得されます。スナップショットの情報取得で取得した masterVolumeId の値と snapshotId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

```
<masterVolumeId>,<snapshotId>
```

属性	型	説明
masterVolumeId	int	(必須) スナップショットの作成元ボリューム ID
snapshotId	int	(必須) スナップショット ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

```
{
  "poolId": 13
}
```

属性	型	説明
poolId	int	(必須) スナップショットをマッピングするボリュームの作成元プールのプール ID を 0~127 までの整数で指定します。



メモ

スナップショットをマッピングすると、次の形式でスナップショットの作成先ボリュームにニックネームが自動で付与されます。

「Snapshot of ID:作成元ボリューム ID」

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	マッピングしたスナップショットの作成先ボリュームの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/
```


関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

15.7 スナップショットをリストアする

スナップショットの作成元ボリューム ID、およびスナップショット ID を指定してスナップショットをリストアします。リストアすると、指定した作成元ボリュームのスナップショットデータを上書きします。

実行権限

ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）

リクエストライン

POST <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots/<オブジェクト ID >/actions/restore/invoke

リクエストメッセージ**オブジェクト ID**

スナップショットの情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、スナップショットの作成元ボリューム ID およびスナップショット ID をコンマで連結した形式で取得されます。スナップショットの情報取得で取得した masterVolumeId の値と snapshotId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

<masterVolumeId >,<snapshotId >

属性	型	説明
masterVolumeId	int	(必須) スナップショットの作成元ボリューム ID
snapshotId	int	(必須) スナップショット ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ**ボディ**

属性	型	説明
statusResource	string	リストアしたスナップショットの情報の実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots/100,3/actions/restore/invoke -d ""
```

関連参照

- 11.10 HTTP ステータスコード
- 12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する

15.8 スナップショットグループを削除する

スナップショットグループ名を指定して、スナップショットグループおよびスナップショットグループ内のすべてのスナップショットを削除します。

実行権限

ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）

リクエストライン

DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshot-groups/<オブジェクト ID >

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

スナップショットグループ名の一覧取得で取得した name の値を指定します。

属性	型	説明
name	string	(必須) スナップショットグループ名



メモ

スラッシュまたはバックスラッシュを含むスナップショットグループ名は指定できません。該当するスナップショットグループ名のスナップショットグループを削除する場合、スナップショットを削除する API を実行してください。

スナップショットグループに含まれるすべてのスナップショットを削除すると、スナップショットグループは自動的に削除されます。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除したスナップショットグループの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshot-groups/snapshotGroup
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [15.9 スナップショットを削除する](#)

15.9 スナップショットを削除する

スナップショットの作成元ボリューム ID、およびスナップショット ID を指定してスナップショットを削除します。

実行権限

ストレージ管理者（ローカルバックアップ管理）

リクエストライン

```
DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/snapshots/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

スナップショットの情報取得で取得した id の値を指定します。取得した属性 id の値は、スナップショットの作成元ボリューム ID およびスナップショット ID をコンマで連結した形式

で取得されます。スナップショットの情報取得で取得した masterVolumeId の値と snapshotId の値をコンマで連結した形式でも指定できます。

```
<masterVolumeId>,<snapshotId>
```

属性	型	説明
masterVolumeId	int	(必須) スナップショットの作成元ボリューム ID
snapshotId	int	(必須) スナップショット ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除したスナップショットの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/snapshots/100,3
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

global-active device を利用するための環境構築（REST API）

この章では、global-active device を利用するための環境構築のうち、REST API を使用して外部ボリュームの作成および Quorum ディスクの登録について説明します。

global-active device に関する機能については、マニュアル『global-active device ユーザガイド』を参照してください。

- 16.1 外部ボリュームの情報を取得する
- 16.2 特定の外部ボリュームの情報を取得する
- 16.3 外部ボリュームを作成する
- 16.4 外部ボリュームのニックネームを変更する
- 16.5 外部パリティグループの情報を取得する
- 16.6 特定の外部パリティグループの情報を取得する
- 16.7 外部パスグループの情報を取得する
- 16.8 特定の外部パスグループの情報を取得する
- 16.9 特定の Quorum ディスクの情報を取得する
- 16.10 Quorum ディスクの情報を登録する
- 16.11 Quorum ディスクの情報を削除する

16.1 外部ボリュームの情報を取得する

外部ボリュームに関する情報を取得します。外部ボリュームの条件を指定して、絞り込んだ情報を取得することもできます。



メモ

- 外部パリティグループ: 外部接続したストレージシステムのボリュームをマッピングして作成されたパリティグループです。外部ボリュームを管理するために使用します。
- 外部ボリューム: 外部パリティグループから作成されたボリュームです。
- 外部パスグループ: 外部接続用ポートと、外部ストレージシステムのポート間を接続した経路のことを外部パスと呼びます。同じ外部パスを使用する外部ボリュームをグルーピングしたものを外部パスグループと呼びます。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/external-volumes
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できる外部ボリュームの情報は最大で 400 個です。401 個以上の外部ボリュームの情報を取得する場合は、count パラメータと startVolumeId パラメータを組み合わせて複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得する外部ボリュームの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
nickname	string	(任意) 外部ボリュームのニックネーム 指定した値の一部が外部ボリュームのニックネームと一致する場合も外部ボリュームの情報が取得されます。
minTotalCapacity	long	(任意) 外部ボリュームの最小容量 (MiB) 取得する外部ボリュームの最小容量として 47～268435456 までの整数で指定します。
maxTotalCapacity	long	(任意) 外部ボリュームの最大容量 (MiB) 取得する外部ボリュームの最大容量として 47～268435456 までの整数で指定します。
status	string	(任意) 取得する外部ボリュームの状態として、次の値を指定します。 - Normal: 正常 - Blockade: 閉塞
volumeType	string	(任意) 取得する外部ボリュームタイプとして、Quorum Disk (global-active device で使用している Quorum ディスク) を指定します。

パラメータ	型	フィルタ条件
externalParityGroupId	string	(任意) 外部パリティグループ ID 「X-Y」形式で指定します。 X に指定できる値は 1～16384 までの整数です。 Y に指定できる値は 1～4096 までの整数です。
externalPathGroupId	int	(任意) 外部パスグループ ID を 0～63231 までの整数で指定します。
startVolumeId	int	(任意) 取得を開始する外部ボリュームの ID を 0～65279 の値で指定します。
count	int	(任意) 取得する外部ボリュームの情報の個数を 1～400 の値で指定します。 このパラメータを省略した場合、400 が指定されたと見なされます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

外部ボリュームタイプが **Quorum** ディスク (クエリパラメータ `volumeType` に **Quorum Disk** を指定) の外部ボリュームの情報を取得した出力例を次に示します。

```
{
  "data": [
    {
      "id": 6400,
      "nickname": "externalVolumeQuorum",
      "totalCapacity": 20480,
      "status": "Normal",
      "externalParityGroupId": "9-500",
      "externalPathGroupId": 600,
      "externalPathOfVolume": [
        {
          "portId": "CL5-A",
          "portProtocol": "FC",
          "externalPortWwn": "50060e8012000c60",
          "lun": 0
        }
      ],
      "volumeTypes": [
        "Quorum Disk"
      ],
      "externalStorage": {
        "model": "VSP Gx00",
        "serial": "400012",
        "vendor": "HITACHI"
      },
      "quorumSetting": {
        "quorumId": 0,
        "pairedStorageModel": "M8",
        "pairedStorageSerial": "400011"
      }
    }
  ],
  "count": 1,
  "totalCount": 1,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
id	int	外部ボリューム ID
nickname	string	外部ボリュームのニックネーム 外部ボリュームのニックネームが定義されている場合に出力されます。
totalCapacity	long	外部ボリュームの総容量 (MiB)
status	string	外部ボリュームの状態 - Normal : 正常 - Blockade : 閉塞
externalParityGroupId	string	外部パリティグループ ID
externalPathGroupId	int	外部パスグループ ID
externalPathOfVolume	object[]	外部ボリュームの外部パス情報が、外部パスごとに出力されます。 - portId (string) 外部接続用のポート ID - portProtocol (string) ポートのプロトコル - FC - iSCSI - externalPortWwn (string) 外部ストレージシステムのポートの WWN iSCSI ポートの場合、この属性は出力されません。 - lun (int) 外部ストレージシステムのポートに割り当てられている LUN
volumeTypes	object[]	外部ボリュームタイプ Quorum Disk : global-active device で使用している Quorum ディスク
externalStorage	object	外部ストレージシステムの情報が出力されます。 - model (string) 外部ストレージシステムのモデル 出力される外部ストレージシステムの表記については、マニュアル『Universal Volume Manager ユーザガイド』を参照してください。 モデルの情報が取得できない場合、OTHER が出力されます。 - serial (string) 外部ストレージシステムのシリアル番号 有効な値が取得できない場合、この属性は出力されません。 - vendor (string) 外部ストレージシステムのベンダー識別子 有効な値が取得できない場合、この属性は出力されません。
quorumSetting	object	Quorum ディスクに関する情報が設定されている場合に、Quorum ディスクに関する情報が出力されます。 quorumId (int)

属性	型	説明
		Quorum ディスク ID - pairedStorageModel (string) Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのモデル - R8 : VSP F1500、VSP G1000、または VSP G1500 - M8 : VSP Fx00 モデルまたは VSP Gx00 モデル モデルの情報が取得できない場合、Unknown が出力されます。 - pairedStorageSerial (string) Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのシリアル番号

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-volumes?volumeType="Quorum Disk"
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

16.2 特定の外部ボリュームの情報を取得する

外部ボリューム ID を指定して、特定の外部ボリュームの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者 (参照)

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/external-volumes/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

外部ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) 外部ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

外部ボリューム ID が 3 のボリュームの情報を取得した例を次に示します。

```
{
  "id": 3,
  "nickname": "externalVolumeForQuorum",
  "totalCapacity": 20480,
  "status": "Normal",
  "volumeIdentifier": "HITACHI 5040000C1965",
  "externalParityGroupId": "8-501",
  "externalPathGroupId": 501,
  "externalPathOfVolume": [
    {
      "portId": "CL5-A",
      "portProtocol": "FC",
      "externalPathGroupId": 501,
      "externalPortWwn": "50060e8012000c60",
      "lun": 501
    }
  ],
  "volumeTypes": [],
  "externalStorage": {
    "model": "M8",
    "serial": "400012",
    "vendor": "HITACHI"
  }
}
```

取得する属性については、外部ボリュームの情報を取得する場合の属性に加えて、次に示す属性が取得されます。

属性	型	説明
volumeIdentifier	string	外部ボリュームを特定するための識別子 例: HITACHI 5040000C1965

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-volumes/XX
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [16.1 外部ボリュームの情報を取得する](#)

16.3 外部ボリュームを作成する

ストレージシステムに外部パリティグループを作成して、外部パリティグループに外部接続したストレージシステムのボリュームを作成（マッピング）します。同時に外部パスグループと外部パスも作成されます。作成したボリュームを外部ボリュームと呼びます。



メモ

外部ボリュームの容量が 4194304MiB（4TB）を超える場合、4194304MiB（4TB）の外部ボリュームとして作成されます。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

POST <ベース URL>/simple/v1/objects/external-volumes

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

```
{
  "externalParityGroupId": "8-501",
  "externalPathGroupId": 501,
  "portId": "CL5-A",
  "externalPortWwn": "50060e8012000c60",
  "lun": 501
}
```

属性	型	説明
externalParityGroupId	string	(必須) 外部パリティグループ ID 使用されていない外部パリティグループ ID を指定してください。 「X-Y」形式で指定します。 X に指定できる値は 1～16384 までの整数です。 Y に指定できる値は 1～4096 までの整数です。 例：1-1
externalPathGroupId	int	(必須) 外部パスグループ ID 使用されていない外部パスグループ ID を指定してください。 0～63231 までの整数で指定します。
portId	string	(必須) 外部接続用のポート ID iSCSI ポートの場合は指定できません。
externalPortWwn	string	(必須) 外部ストレージシステムのポートの WWN

属性	型	説明
lun	int	(必須) 外部ストレージシステムのポートに割り当てられている LUN

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	作成した外部ボリュームの実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

- 非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。
- 外部パリティグループや外部パスグループが正しく作成されているかどうかは、外部パリティグループの情報を取得する API、および外部パスグループの情報を取得する API を実行して確認してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-volumes
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)
- [16.6 特定の外部パリティグループの情報を取得する](#)
- [16.8 特定の外部パスグループの情報を取得する](#)

16.4 外部ボリュームのニックネームを変更する

外部ボリューム ID を指定して、外部ボリュームのニックネームを変更します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

```
PATCH <ベース URL >/simple/v1/objects/external-volumes/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

外部ボリュームの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) 外部ボリューム ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

```
{
  "nickname": "externalVolumeForQuorum2"
}
```

属性	型	説明
nickname	string	(必須) 変更するニックネームを 1～32 文字で指定します。 使用できる文字は次のとおりです。 0～9 A～Z a～z , - . / : @ ¥ _ 半角スペース 英字は、大文字と小文字が区別されます。 半角スペースは、使用できる文字と文字の間には使用できませんが、先頭と末尾には使用できません。 名前の先頭にハイフン (-) は使用できません。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
affectedResources	string[]	変更した外部ボリュームの情報を参照するための URL の一覧
operationDetails	object[]	変更した外部ボリュームの詳細情報 詳細については、commandStatus オブジェクトの属性「operationDetails」の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X PATCH --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-volumes/3
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)

16.5 外部パリティグループの情報を取得する

外部パリティグループの情報の一覧を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL>/simple/v1/objects/external-parity-groups
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できる外部パリティグループの情報は最大で 500 個です。501 個以上の外部パリティグループの情報を取得する場合は、count パラメータと startIndex パラメータを組み合わせて複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得する外部パリティグループの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
startIndex	int	(任意) 取得を開始する外部パリティグループのインデックス番号を 0～65535 の値で指定します。
count	int	(任意) 取得する外部パリティグループの情報の個数を 1～500 の値で指定します。 省略した場合、500 が指定されたと見なされます。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "data": [
    {
      "id": "9-400",
      "status": "Normal",
      "externalPathGroupId": 400,
      "externalPath": [
        {
          "portId": "CL5-A",
          "portProtocol": "FC",
          "externalPortWwn": "50060e8012000c60",
          "lun": 5,
          "status": "Normal"
        },
        {
          "portId": "CL6-A",
          "portProtocol": "FC",

```

```

        "externalPortWwn": "50060e8012000c70",
        "lun": 6,
        "status": "Normal"
    },
    ],
    "index": 2050
}
},
"count": 1,
"totalCount": 1,
"hasNext": false
}

```

属性	型	説明
id	string	外部パリティグループ ID
status	string	外部パリティグループの状態 - Normal : 正常 - Checking : 外部バスの状態を確認中 - Cache Destaging : キャッシュ内のデータをボリュームに書き込み中 - Disconnect : 外部バスが未接続 - Blockade : 外部バスが閉塞 - Warning : 外部バスの一部に問題がある - Unknown : 不明
externalPathGroupId	int	外部バスグループ ID
externalPath	object[]	外部パリティグループ内の外部バスの情報が、外部バスごとに出力されます。 - portId (string) 外部接続用のポート ID - portProtocol (string) ポートのプロトコル - FC - iSCSI - externalPortWwn (string) 外部ストレージシステムのポートの WWN iSCSI ポートの場合、この属性は出力されません。 - lun (int) 外部ストレージシステムのポートに割り当てられている LUN 外部バスの状態が不明 (Unknown) の場合、この属性は出力されません。 - status (string) 外部バスの状態 - Normal : 正常 - Disconnect : 未接続 - Temporary Blockade : ポートが閉塞 (一時閉塞) - Blockade : 閉塞 - Unknown : 不明

属性	型	説明
index	int	外部パリティグループのインデックス番号

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-parity-groups
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

16.6 特定の外部パリティグループの情報を取得する

外部パリティグループ ID を指定して、特定の外部パリティグループの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/external-parity-groups/<オブジェクト ID>
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

外部パリティグループの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	string	(必須) 外部パリティグループ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

外部パリティグループ ID が 9-500 の外部パリティグループの情報を取得した例を示します。

```
{
  "id": "9-500",
  "status": "Normal",
  "externalPathGroupId": 500,
  "externalPath": [
    {
      "portId": "CL5-A",
      "portProtocol": "FC",
      "externalPortWwn": "50060e8012000c60",
      "lun": 3,
      "status": "Normal"
    }
  ],
  "index": 2051
}
```

取得する属性については、外部パリティグループの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-parity-groups/9-500
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [16.5 外部パリティグループの情報を取得する](#)

16.7 外部パスグループの情報を取得する

外部パスグループの情報を一覧で取得します。関連する外部パスの情報も取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/external-path-groups
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

1 回のリクエストで取得できる外部パスグループの情報は最大で 500 個です。501 個以上の外部パスグループの情報を取得する場合は、count パラメータと startId パラメータを組み合わせて複数回に分けて API を実行してください。count パラメータを指定することで取得する外部パスグループの情報をフィルタリングすることもできます。

パラメータ	型	フィルタ条件
startId	int	(任意) 取得を開始する外部パスグループの ID を 0～63231 の値で指定します。
count	int	(任意) 取得する外部パスグループの情報の個数を 1～500 の値で指定します。 省略した場合、500 が指定されたと見なされます。

ボディ
なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

```
{
  "data": [
    {
      "id": 500,
      "externalPaths": [
        {
          "portId": "CL5-A",
          "portProtocol": "FC",
          "externalPortWwn": "50060e8012000c60"
        }
      ]
    },
    {
      "id": 600,
      "externalPaths": [
        {
          "portId": "CL5-A",
          "portProtocol": "FC",
          "externalPortWwn": "50060e8012000c60"
        },
        {
          "portId": "CL6-A",
          "portProtocol": "FC",
          "externalPortWwn": "50060e8012000c70"
        }
      ]
    }
  ],
  "count": 2,
  "totalCount": 2,
  "hasNext": false
}
```

属性	型	説明
id	int	外部パスグループ ID
externalPaths	object[]	外部パスグループに関連する外部パスの情報が、外部パスごとに出力されます。 - portId (string) 外部接続用のポート ID - portProtocol (string)

属性	型	説明
		ポートのプロトコル - FC - iSCSI ポートの情報が取得できない場合、この属性は出力されません。 - externalPortWwn (string) 外部ストレージシステムのポートの WWN ポートの情報が取得できない場合、または iSCSI ポートのときには、この属性は出力されません。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-path-groups
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

16.8 特定の外部パスグループの情報を取得する

外部パスグループ ID を指定して、特定の外部パスグループの情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/external-path-groups/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

外部パスグループの情報取得で取得した id の値を指定します。

属性	型	説明
id	int	(必須) 外部パスグループ ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ
なし。

レスポンスメッセージ

ボディ
外部パスグループ ID が 600 の外部パスグループの情報を取得した例を次に示します。

```
{
  "id": 600,
  "externalPaths": [
    {
      "portId": "CL5-A",
      "portProtocol": "FC",
      "externalPortWwn": "50060e8012000c60"
    },
    {
      "portId": "CL6-A",
      "portProtocol": "FC",
      "externalPortWwn": "50060e8012000c70"
    }
  ]
}
```

取得する属性については、外部パスグループの情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/external-path-groups/600
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [16.7 外部パスグループの情報を取得する](#)

16.9 特定の Quorum ディスクの情報を取得する

Quorum ディスク ID を指定して、Quorum ディスクに関する情報を取得します。

実行権限

ストレージ管理者（参照）

リクエストライン

```
GET <ベース URL >/simple/v1/objects/quorum-disks/<オブジェクト ID >
```

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

Quorum ディスクの情報を登録したときの quorumId の値を指定します。

属性	型	説明
quorumId	int	(必須) Quorum ディスク ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

Quorum ディスク ID が 7 の Quorum ディスクに関する情報を取得した例を次に示します。

```
{
  "quorumId": 7,
  "externalVolumeId": 6400,
  "pairedStorageModel": "M8",
  "pairedStorageSerial": "401026"
}
```

属性	型	説明
quorumId	int	Quorum ディスク ID
externalVolumeId	int	Quorum ディスクの情報が登録されている外部ボリューム ID
pairedStorageModel	string	Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのモデル - R8 : VSP F1500、VSP G1000、または VSP G1500 - M8 : VSP Fx00 モデルまたは VSP Gx00 モデル モデルの情報が取得できない場合、Unknown が出力されます。
pairedStorageSerial	string	Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのシリアル番号

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X GET https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/quorum-disks/7
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [11.15 データオブジェクト](#)

16.10 Quorum ディスクの情報を登録する

global-active device で使用する Quorum ディスクに関する情報をストレージシステムに登録します。

実行権限

ストレージ管理者 (プロビジョニング)

リクエストライン

POST <ベース URL >/simple/v1/objects/quorum-disks

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

なし。

クエリパラメータ

なし。

ボディ

Quorum ディスクに関する情報を次のとおり指定して登録する例を次に示します。

- Quorum ディスク ID : 7
- 外部ボリューム ID : 6400
- 相手側のストレージシステムのモデル : M8
- 相手側のストレージシステムのシリアル番号 : 401026

```
{
  "quorumId": 7,
  "externalVolumeId": 6400,
  "pairedStorageModel": "M8",
  "pairedStorageSerial": "401026"
}
```

属性	型	説明
quorumId	int	(必須) Quorum ディスク ID 登録する Quorum ディスク ID を 0～31 までの整数で指定します。 使用されていない Quorum ディスク ID を指定してください。
externalVolumeId	int	(必須) 外部ボリューム ID 登録する外部ボリューム ID を 0～65279 までの整数で指定します。
pairedStorageModel	string	(必須) Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのモデル

属性	型	説明
		指定できる値は次のとおりです。 - R8 : VSP F1500、VSP G1000、または VSP G1500 - M8 : VSP Fx00 モデルまたは VSP Gx00 モデル
pairedStorageSerial	string	(必須) Quorum ディスクを共有する相手側のストレージシステムのシリアル番号

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	登録した Quorum ディスクの情報の実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X POST --data-binary @./InputParameters.json https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/quorum-disks
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

16.11 Quorum ディスクの情報を削除する

Quorum ディスク ID を指定して、ストレージシステムから Quorum ディスクに関する情報を削除します。



メモ

外部ボリュームまで削除する場合、外部ボリュームのマッピングを解除する API を実行して削除する必要があります。操作方法については、マニュアル『REST API リファレンスガイド』を参照してください。

実行権限

ストレージ管理者（プロビジョニング）

リクエストライン

DELETE <ベース URL >/simple/v1/objects/quorum-disks/<オブジェクト ID >

リクエストメッセージ

オブジェクト ID

Quorum ディスクの情報取得で取得した quorumId の値を指定します。

属性	型	説明
quorumId	int	(必須) Quorum ディスク ID

クエリパラメータ

なし。

ボディ

なし。

レスポンスメッセージ

ボディ

属性	型	説明
statusResource	string	削除した Quorum ディスクの情報の実行結果の問い合わせに使用する URL



メモ

非同期処理の API のステータス情報を取得する API を実行して、実行結果のステータス情報を参照することもできます。詳細は非同期処理の API のステータス情報を取得する API の説明を参照してください。

ステータスコード

この操作のリクエストに対するステータスコードについては、HTTP ステータスコードの説明を参照してください。

コード例

```
curl -v -H "Accept:application/json" -H "Content-Type:application/json" -H "Authorization:Session b74777a3f9f04ea8bd8f09847fac48d3" -X DELETE https://192.0.2.100/ConfigurationManager/simple/v1/objects/quorum-disks/7
```

関連参照

- [11.10 HTTP ステータスコード](#)
- [12.1 非同期処理の API のステータス情報を取得する](#)

このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

略語	正式名称
AL-PA	Arbitrated-Loop Physical Address
API	Application programming interface
DKC	DisK Controller
HBA	Host Bus Adapter
HTML	HyperText Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol version 4
IPv6	Internet Protocol version 6
iSCSI	Internet Small Computer System Interface
JSON	JavaScript Object Notation
REST	Representational State Transfer
RFC	Request for Comments
SIM	Service Information Message
SLU	Subsidiary Logical Unit
SSL	Secure Sockets Layer
TLS	Transport Layer Security
URL	Uniform Resource Locator
WWN	World Wide Name

索引

A

API の実行ユーザのロールとアクセス権限 78
Authorization ヘッダ 85

C

commandStatus オブジェクト 92

G

GUI 14

H

HTTP ステータスコード 87

Q

Quorum ディスク
Quorum ディスクの設定を解除する 68
Quorum ディスクを設定する 65
外部パスを削除する 68
外部パスを追加する 68
外部ボリューム名を編集する 67
Quorum ディスクの情報を削除する 223
Quorum ディスクの情報を登録する 222

S

SSL 通信を利用する場合の要件 77
Storage Advisor Embedded
GUI 14
管理 PC の要件 18
管理対象の構成 16
ダッシュボード 14
ログインする 18

U

URL の形式 78

あ

アラート通知を設定する 23

え

エラーオブジェクト 94

お

オブジェクト ID の指定方法 84

か

外部パスグループの情報を取得する 217
外部パリティグループの情報を取得する 214
外部ボリューム
特定の外部ボリュームの情報を取得する 209
外部ボリュームの情報を取得する 206
外部ボリュームのニックネームを変更する 212
外部ボリュームを作成する 211
概要
global-active device を利用するための環境構築 64
Storage Advisor Embedded による運用 17
スナップクローン 49
スナップショット 48
ブールの複数作成 59
ブールの容量拡張 56
ボリュームの容量拡張 56
ボリュームの割り当て 40
ボリュームを利用するための準備 30

き

共通仕様
API の実行ユーザのロールとアクセス権限 78

commandStatus オブジェクト 92
HTTP ステータスコード 87
SSL 通信を利用する場合の要件 77
URL の形式 78
エラーオブジェクト 94
オブジェクト ID の指定方法 84
クエリパラメータ 89
サポートする HTTP メソッド 84
出力形式 90
データオブジェクト 91
データ型 89
ユーザ認証 85
リクエストおよびレスポンスのフォーマット 89
リクエストヘッダ 86
レスポンスヘッダ 87

く

クエリパラメータ 89

さ

サーバ

HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を取得する 153
iSCSI イニシエータ名を削除する 36
iSCSI イニシエータ名を追加する 36
iSCSI ターゲットの情報を取得する 167
iSCSI ターゲットの設定を変更する 169
iSCSI ターゲット名を編集する 36
WWN を削除する 36
WWN を追加する 36
サーバ ID を指定して HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を追加する 157
サーバからの I/O を確認する 44
サーバからバス情報を削除する 166
サーバにバス情報を追加する 164
サーバにホストグループ (iSCSI ターゲット) を追加する 151
サーバの情報を取得する 140
サーバの設定を変更する 148
サーバの設定を編集する 35
サーバのバス情報を取得する 160
サーバを削除する 37, 150
サーバを登録する 34, 146
ストレージシステムとの接続情報を設定する 35
特定の iSCSI ターゲットの情報を取得する 168
特定のサーバから HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を削除する 159
特定のサーバの HBA の WWN (iSCSI ネーム) の情報を取得する 155
特定のサーバの情報を取得する 143
特定のサーバのバス情報を取得する 162
サポートする HTTP メソッド 84

し

システム構成 77
出力形式 90

す

ストレージシステム
アラートを確認する 74
障害監視 74
ストレージシステムの情報を取得する 104
スナップショットとプールの稼働状態の情報を取得する 106
ヘルスステータスを確認する 74
スナップクローン
スナップクローンの状態を確認する 51
スナップクローンを実行する 53
スナップショット
REST API でスナップショットを作成してマッピングする 52
REST API で定期的にスナップショットを作成する 50
手動でスナップショットを作成する 50
スナップショットの状態を確認する 51
スナップショットの情報を取得する 193
スナップショットを削除する 54, 203
スナップショットを作成する 196
スナップショットをマッピングする 199
スナップショットをリストアする 52, 201
特定のスナップショットの情報を取得する 195
スナップショットグループ
スナップショットグループ名の一覧を取得する 190
スナップショットグループを削除する 202
特定のスナップショットグループの情報を取得する 191
スペアドライブを設定する 31

せ

性能グラフ 72

た

ダッシュボード 14

て

データオブジェクト 91
データ型 89
データの削減効果を確認する 62

と

特定の Quorum ディスクの情報を取得する 220

特定の外部パスグループの情報を取得する 219
特定の外部パリティグループの情報を取得する 216
ドライブ
 スペアドライブの設定を解除する 115
 スペアドライブを設定する 31
特定のドライブの情報を取得する 113
ドライブの情報を取得する 110
ドライブをストレージシステムに認識させる 31
ドライブをスペアドライブに設定する 114
プールを構成しているドライブを確認する 60

ひ

非同期処理の API のステータス情報を削除する 101
非同期処理の API のステータス情報を取得する 98

ふ

プール
 特定のプールの情報を取得する 120
 プールにドライブを追加する 127
 プールの情報を取得する 117
 プールの設定を変更する 125
 プールの設定を編集する 33
 プールの容量を拡張する 61
 プールの容量を確認する 60
 プールを構成しているドライブを確認する 60
 プールを削除する 62, 126
 プールを作成する 31, 123
プログラムプロダクト
 プログラムプロダクトインストールする 22
 プログラムプロダクトをアンインストールする 23
 ライセンスを無効にする 23
 ライセンスを有効にする 23

へ

ヘルスステータスを確認する 74

ほ

ポート
 特定のポートの情報を取得する 134
 ポートの情報を取得する 129
 ポートの設定を変更する 136
 ポートの設定を編集する 37
ボリューム
 稼働状況を確認する 72
 サーバへのボリュームの割り当てを解除する 45
 作成済みのボリュームをサーバに割り当てる 43
 特定のボリュームの情報を取得する 174
 ボリュームとサーバの接続情報を取得する 183
 ボリュームとサーバを接続する 186
 ボリュームと特定のサーバの接続情報を取得する 185
 ボリュームと特定のサーバの接続を解除する 187

ボリュームの情報を取得する 171
ボリュームの設定を変更する 178
ボリュームの容量を拡張する 60, 180
ボリュームの容量を確認する 61
ボリューム名を編集する 44
ボリュームを削除する 45, 181
ボリュームを作成してサーバに割り当てる 40
ボリュームを作成する 41, 176
容量削減設定を編集する 44

ゆ

ユーザ
 権限 26
 ユーザアカウントを削除する 27
 ユーザアカウントを作成する 26
 ユーザアカウントを編集する 27
ユーザ認証 85

よ

容量削減
 データの削減効果を確認する 62

り

リクエストおよびレスポンスのフォーマット 89
リクエストヘッダ 86
リモートパス
 リモートパスを削除する 67
 リモートパスを設定する 65
 リモートパスを追加する 66
リモートパスグループ
 リモートパスグループを削除する 67

ろ

ログイン 18
ログインメッセージを編集する 24

